

盛夏



ブナやトチの大木が林立する生杉のブナ林

世界の山旅 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

現在発売！編成されたハイキングコースをベストシーズンに多く 数々の名瀑、連なる大岩壁、豪華アルプス登山の沢河 雄大な山小屋から山小屋へ、「北政の雄辯」を結成

<p>スイスアルプス 2大名峰展望ハイキング 8日間</p> <p>●7/21発.....¥388,000</p>	<p>チロル、ドロミテ、オーストリア 3つの最高峰展望と絶景の谷 9日間</p> <p>●7/7発 ●7/14発.....¥548,000 ●8/1発.....¥592,000 ●9/2発.....¥562,000</p>	<p>北政、「巨人たちの住みか」トレッキング と北政最高峰登山 12日間</p> <p>●7/7発.....¥678,000 ●9/16発.....¥694,000</p>
--	--	---

カナディアン・ロッキー部の人里離れた山岳に絶景のハイキング カナダの雄大な自然と大自然を飽かす花畑の広がる見聞を多く フランコ山岳、マチュピチュ、チチカカ湖を巡る、滝沢コース

<p>アシニボイン・ロッジと レイクルイズ 8・9日間</p> <p>●7/17発 (9日間).....¥608,000 ●9/24発 (9日間).....¥588,000</p>	<p>エスプラナーデ・ 山小屋縦走トレッキング 9日間</p> <p>●7/25発.....¥568,000 ●8/1 ●8/8発.....¥612,000</p>	<p>ペルー・アンデス 大周遊 13日間</p> <p>●7/10発.....¥678,000 ●9/27 ●9/18発.....¥685,000</p>
--	--	---


長野一目、地中まで埋め尽くされる巨岩のお花畑 快活なフライトで雄奇を堪能。アフリカ風草原に詩情 中興から入山し、クンジュラフ峠を越えてパキスタンへ

<p>花の楽園・南アフリカ ナマクワランド・ハイキング 11日間</p> <p>●8/27発.....¥598,000</p>	<p>〔山麓乗り入れ〕キリマンジャロ ゆったり登山とサファリ 11日間</p> <p>●7/21 ●8/1 ●8/8発.....¥618,000 ●8/25 ●9/22発.....¥692,000</p>	<p>パミール高原から行く K2・バルトロ氷河トレッキング 27日間</p> <p>●7/24 ●8/21発.....¥748,000 ●9/4発.....¥728,000</p>
---	--	--

コンパクトな日程で海面に届く4,000m峰に登山 わずか4時間のフライトで雄奇を堪能。花と鳥の楽園を満喫 ガンジス源流地。約800坪の岩々が輝く雄大な天窓の美観

<p>マレーシア最高峰 Mt.キナバル登山 6日間</p> <p>●7/24発.....¥258,000 ●9/20発.....¥238,000 ●11/10発.....¥198,000</p>	<p>カムチャッカ半島 アバチャ山登山 5日間</p> <p>●7/31発.....¥260,000 ●8/7発.....¥292,000 ●8/14 ●8/21発.....¥276,000</p>	<p>インド「花の谷」 トレッキング 9日間</p> <p>●8/2発.....¥288,000</p>
---	---	--

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>


アルパインツアーサービス株式会社
 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(8444)3033
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4511(転送)
 (附りんゆう観光) 広島/☎082(342)1860(転送)
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。
 山岳会、ハイキングクラブで企画
 ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
 山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
 キングを企画したい。いつもの山仲間と海外の山歩き
 をしてみたい、という場合には、アルパインツアーか
 らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ
 ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの slides を上映します。



夏のブナ林は深い緑に包まれている

美しい模様が独特のブナの樹幹

近江の山

樹木の四季 — 盛夏 —

山本 武人

朽木の山生杉の「ブナ林」(高島市朽木生杉)

昭和46年10月に朽木・葛川県立自然公園になり、生杉ブナ林は第1種特別地域として指定され、今日に至っている。現在では多くの人達が訪れ、ブナ林から三国岳、地蔵峠、林道をブナ林までの周回コースは初心者でも気軽に歩ける。写真のように夏の季節はブナ林が一段と美しい。

私も四季、このブナ林を訪ね、撮影する。ただ、最近ではブナやその他の樹木が弱っているように思える。シーズンの週末は林道まで車が混雑する程、林道脇に駐車、排気ガスなどの影響かと疑う。地球の温暖化もあるだろう。

今後、ブナ林が変化していく様子を写真を通じて見守っていききたいと思っている。

(写真はいずれも7月中旬撮影)



蓮 (喜光寺)

ならのお盆は華麗な灯りの海
 願いや祈りを込めて浄火を灯す
 水面に映る安らぎの灯り
 御仏は怖く 妖しく 美しい
 蒿山 獻盞大文字送り火
 夜の山肌に燃える雄大な文字
 祖先の霊を送り出す荘厳さ
 春日大社中元万燈籠
 溢れる灯籠が朱色の回廊を照らす
 東大寺万燈供養会
 万国の戦没者を供養し平和を祈る
 国宝金剛力士の気迫あふれる姿
 八角燈籠の音声菩薩が闇に浮かぶ
 唐破風の窓から大仏さまを拝む
 幻想的な光が幽玄の夜に誘う

大文字送り火 (朱雀門より)

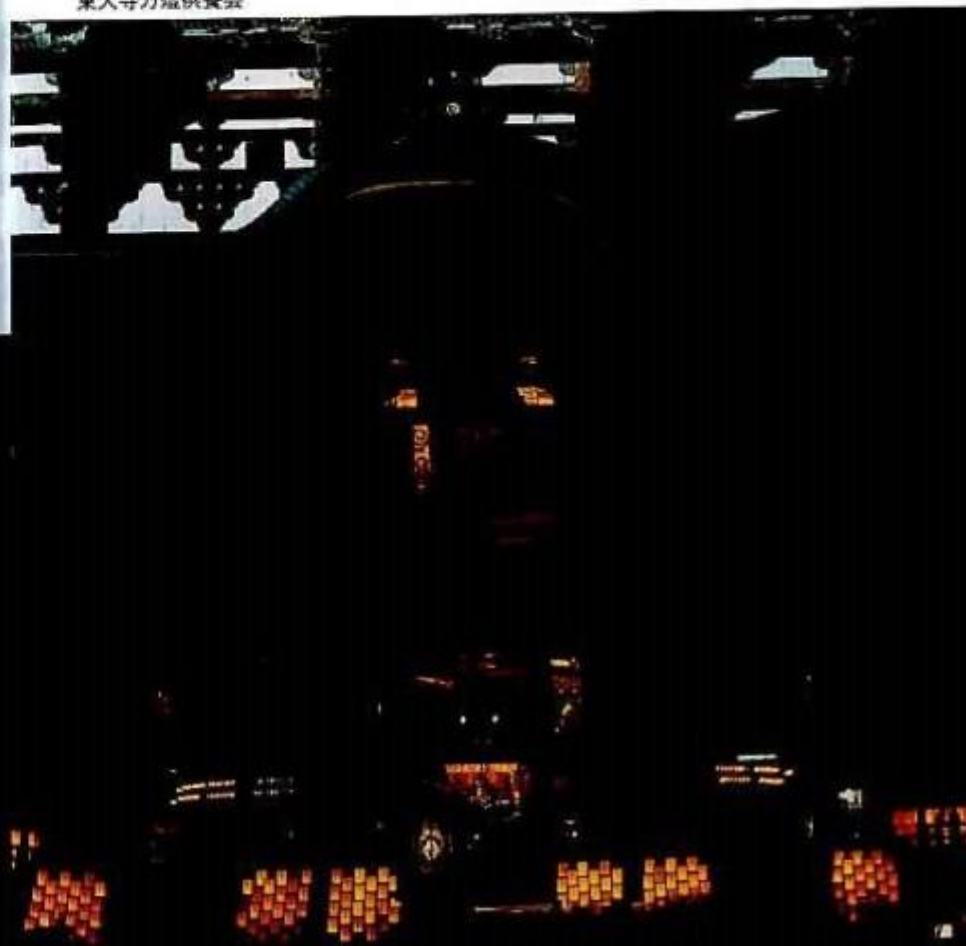
Photo essay

寧 渠



題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収一
 文 松永 恵一

東大寺万燈供養会





九品の滝



金勝寺仁王像

季節の



ヒシの池

実景

盛夏

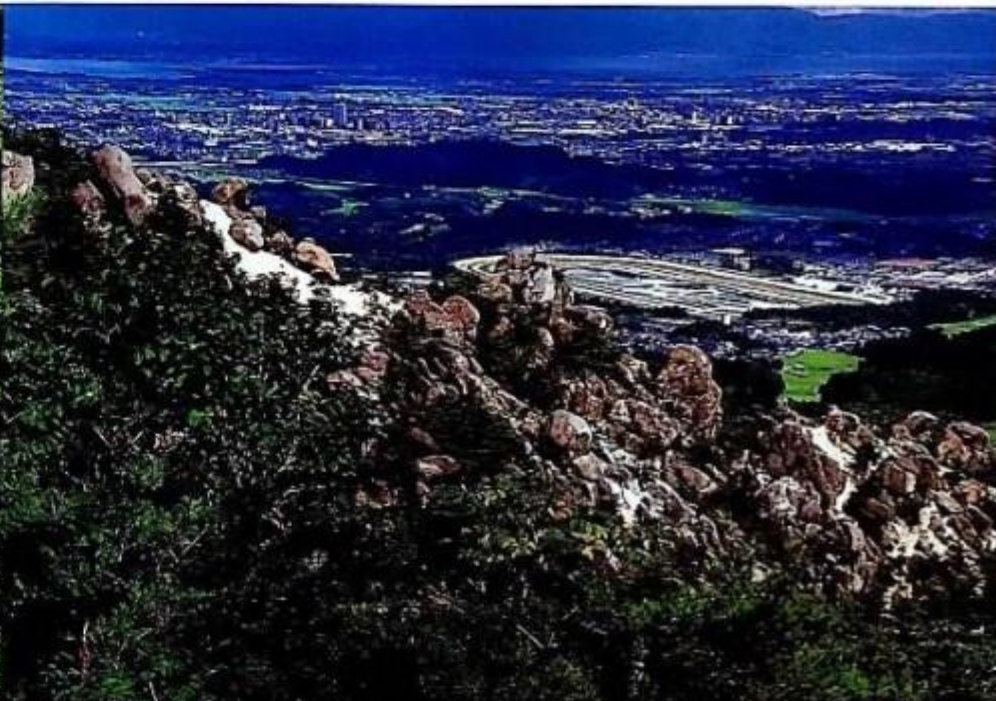
こんぜやま
金勝山ハイク (湖東・栗東市)

撮影 武市通治



山道涼し

JRA栗東トレーニングセンター (竜王山頂より)

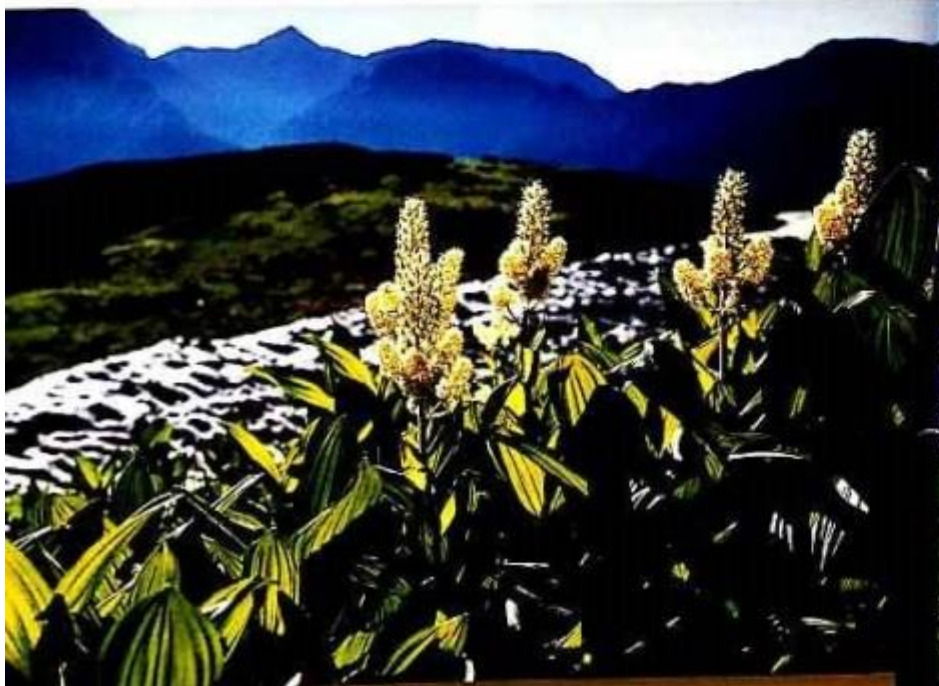




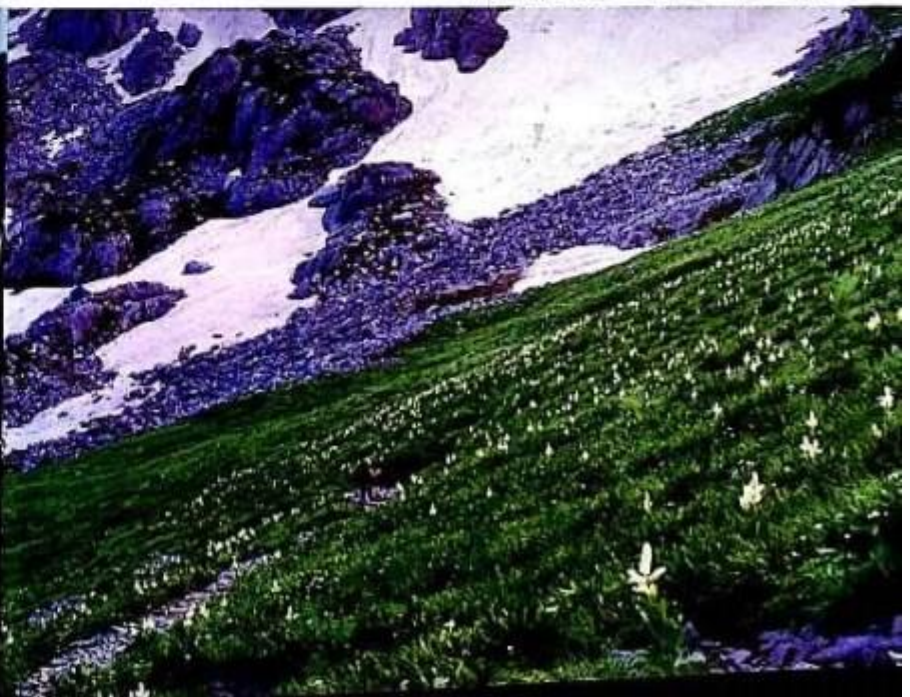
八方池にて（北アルプス）西村 敏夫



夏の双六岳（北アルプス）武田 誠司



朝日に輝く五色ヶ原（北アルプス）堀田 昌子



黒部五郎岳のカールを行く 一芝 義雄

新作
関西の山

2008
7・8月 (盛夏)
No.101

- 表紙 ニッコウキスゲと秋 差岳 (飯豊連峰) … 松田敏男
- 口絵 近江の山・樹木の四季 …………… 山本武人
- Photo essay「寒楽」 …………… 松永恵一
- 季節の実景-金剛山ハイク- …………… 武市通治
- ・武田誠司・一芝義雄・西村敏夫・堀田昌子
- 平原の夏-モンゴルにて- …………… 奥田英一郎



御嶽山ニノ池 (西村文男)

平原の夏 -モンゴルにて-

奥田 英一郎



地平線から陽は昇る

巻頭紀行

随想

紀行

情報

コースガイド

北海道登山 山小屋事情②	金谷 昭	62	50
山のレネート 山の地名を歩く⑩ 妹背山(一)	西尾 寿一	72	68
① 越山から猪子山	長宗 清司	66	64
② 越路山	数木 伸人	66	64
③ 西吾妻山	磯部 純	72	68
④ 旗立山	柴田 昭彦	72	68
せせらぎ	91〜100号被自次		
サービステーション	原稿募集・編集後記		
山行計画・報告	広管案内	112	108
入会案内・新入会員紹介		87	82
		107	78

巻頭言

酷暑をどのように乗り切ればいいのか。日本の暑さは並大抵でなくなってきた。日中は35度を超え熱帯夜が続く。ひところ流行った夏のパカンスどころではなくなった。

しかし、高山に登れば秋を感じる涼風が吹いてくれる。日本アルプスなど2000計を超える山は別天地となる。これは登山者のみの幸せ、避暑地としてこれ以上の場所は無かる。というわけで、リーダーとして今夏は北アルプスの縦走を三回計画した。昔は山小屋の混雑が嫌でテントを担いで縦走したが、最近の山小屋は登山する若者が減ったのか余り込んでいないようだ。

北アルプスの雪渓を纏う山岳風景を見ながらお花畑を愛でながらゆったり気分を縦走したい。夏の避暑地をお探しの方、山岳写真をものにしたい方、どうぞ一緒にしてください。

新ハイキング図説(代志) 村田 智哉



騎馬民族の血を引いて



モンゴリアンブルーの下の野生花園

連載

三角点を訪ねてシリーズ ⑤③

南蔵王の山、屏風岳へ

東北

磯部 純

蔵王連峰は那須火山帯に属する休火山の山で、宮城・山形の南部県境に位置する。大きく三つの山域に分けられ、標高は高く美しいが峻険な雁戸山一帯を「北蔵王」、荒涼とした御釜を中心とする熊野岳・刈田岳の山域を「中蔵王」、旧刈田峠から南の不忘山へ至る緑豊かな山域を「南蔵王」と呼んでいる。

北蔵王はあまり知られておらず訪れる人も少ないが、中蔵王はエコーラインが出来て車で御釜のすぐ近くまで簡単に登れる。観光客が大勢押しかけ、登山姿が場違いに見えるほどだ。一方の南蔵王は、杉ヶ峰、屏風岳から不忘山へと縦走路が完備され、湿原の花も見事で、人込みを避けて花を見に来る人も少なくない。

杉ヶ峰三角点から刈田岳を見る



これまで毎年夏、車で母の住む東北へ妻と帰省し、その帰りに栗駒山、吾妻一切経山、焼石岳、熊野岳、刈田岳、早池峰山と、花を訪ねて登ってきた。

魅力ある屏風岳へも登りたいと二度計画を立てたが、いずれも天候に恵まれず登ることはなかった。一回目は、

も気仙沼の母を車で訪ねることに決めた。

出発の2日前になって、車で東北まで1人で走るのは心配と急ぎよ、妻も同行することになった。その帰り、三度目の正直で念願の屏風岳へ登ることができた。

気仙沼を6時40分に発ち、築館インターから東北自動車道に乗る。前日までの快晴と違いモヤが立ち込め、山はハッキリ見えない状況、今夏も屏風岳を諦めなくてはならないのかと心配しながら車を走らせる。村田インターで降り、道刈田温泉郷を過ぎて蔵王エコーラインへ入る頃になって太陽が顔を出し、山もクッキリと見えだし、やっと安堵した。

ドンドン走り、9時30分に南蔵王縦走路入口へ着いたが、久し振りに晴れの日曜のせいか空はどこも車で一杯。駐車スペースは全く無い。ウロウロ走って登山口から500メートル離れた道脇にやっと駐車できた。



一切経山へ登った後、屏風岳へ登ることなく、宇治へ帰ってしまった。二回目は、焼石岳の帰りに遠刈田温泉へ泊まり、エコーラインを走ったが、南方のガスが濃かったので予定を変更し、刈田岳と熊野岳の三角点を訪ねて終了

してしまっただけである。

その後、妻から「東北へ車で行くのは、昨年の早池峰山で最後」と言われ、屏風岳を諦めていたが、今年になって大病を患った体も、走行距離1万キロを越えた車も共に酒子が良くなり、今夏

9時50分に服装を整え出発。登山口まで舗装路を行くと、左斜面にはヨツバヒヨドリが一面と言ってよいほど花を付けている。ガスも晴れ、すぐ南に前山から杉ヶ峰への尾根が同近に見えており、遠くには青々とした平坦な屏風岳が露んでいる。あんな遠くまで歩くのだと思うと気が遠くなりそうだ。

登山口は南蔵王縦走路の看板の立つ所で、刈田峠まで標高差800m程をくだらなくてはならない。オオシラビソ(別名アオモリトドマツ)の林をくだって行くと、一段下は湿原でキノコウカが湿原を黄色に染めるほど一面に咲き誇っている。チングルマは花の時期が過ぎていて、種子花だけがアチコチに見られ、コバイケイソウの葉も多かった。小さな湿原を過ぎて再びくだるとすぐ遊樂小屋への道を分け、刈田峠へ下りた。

刈田峠に県境を越える古い道は付いていない。南蔵王縦走路の刈田峠の南にある横部の意味で名付けられたのかも知れない。このあたり一面はチシマザサが敷きつめられたオオシラビソと灌木の林で、道は登りへと変わる。登るにつれ急になり、いつしか林を抜け、道の両側には背丈程のナナカマドやゴヨウマツが目立つようになってきた。時折、ハクサンシヤクナゲの残花も見ると、しばらく登ると岩稜帯に出たが、そこからの光景は圧巻で、後ろを見ると、すぐ近くに道が鉢巻きをしており、緑の斜面の上に赤茶けた熊野岳の山頂が覗いている。そこからわずか登ると前山で、1684mのピークだった。

北にはすぐ下に前山があって、その向こうに刈田岳から熊野岳の連なりが横たわっていて、御釜の壁もピークの右岩に覗いている。もっと空気が澄んでいけば、月山・朝日連峰、西には飯飯山も見られると聞いていたが、そこまでは無理で、遠くまでは見えなかった。東には後烏帽子岳が飛び出し、その右手にどろがピークかわからないような平坦な山容の屏風岳が盛り、その続きに南屏風岳、不忘山が並んでいる。南から西へかけては、低い山々のうねりが見えるだけだった。

だ感心するばかりであった。

杉ヶ峰には三角点がある。平坦な土むき出しの山頂広場の真ん中に、樺杭を立てたように、地表から40cm程飛び出して三角点が立っている。標高は1744.9mで、三等三角点。点名は「杉ヶ峰」。標石はシツカリと磁石の南を向いている。

11時、屏風岳へ向けて杉ヶ峰のピークをくだる。山頂に咲いていたウスエキノソウは見られず、点々とミヤマアキ



杉ヶ峰山頂標識

ノキリンソウ・ネバリノギラン・エゾイブキトラノオなどが見られるようになってきた。急な階段をくだると、目の前には湿原地帯が広がっている。芝草平と呼ばれる湿原で、「6月末にはチングルマが満開だった」と宮城県のテレビが放映していたが、この時期のチングルマは種子花に変わり、キノコウカが今盛り。ワタスゲもあちこちに綿毛を広げ、サワランやシラネニンジも見た。その他、白い小さな花を見たが名はわからない。湿原保護のためロープが張ってあるが、道を歩くだけで十分に花を楽しめた。

林のなかの登りで展望は無くなる。ひたすら登り、勾配がゆるむと樹木は消え、背丈程のササと灌木の原に変わる。道が方向を南へ変えてゆるくくくると、屏風岳の三角点広場へ出た。ここまで登って来る間に何組もの熟年カップルや単独の人にすれ違ったが、この山頂にも多くの人々が坐り込んで食事をしていた。

広場の西側は背丈程のササと灌木の林で展望はきかない。東側は切れ込んだ急斜面だが、ガスのため展望は消された状況は見えない。時折、ガスが流れ急斜面の様子が窺え、この山は西斜面がゆるやかなのに東斜面は急で、屏風



妻と屏風岳山頂にて

と名前が付いたことも頷けた。
屏風岳の最高点は1825だが、三角点の標高は1817・1材である。三角点は広場の西にあり、三つの大きな保護石に挟まれて埋まるように立っている。点名も「屏風岳」で、一等三角点本点である。標石は南西を向いて

おり、南から40度西へ振っている。三角点の側の木に坐り昼食とした。日差しは暑過ぎるほど暑かったが、直射日光を遮る日陰は無い。仕方なく持ってきた傘を日傘代わりにさしての食卓、こんなことは初めて。弁当といえ、いつもは食べやすい種類にするのだが、この日は握り飯弁当。疲れるとあまり食欲が出ないが、珍しく大半を平らげてしまった。暑くてたまらず、妻と歩く時はめったに飲まないアレを飲んだからかも知れない。

上を見るとアキアカネが空いっぱい飛んでおり、ギンヤンマも見えた。せっかくここまで来たのだから、不忘山まで足をのびしたかったが、往復2時間はかかる。車へ戻るのは17時を回るかも知れないと思ひ、残念ながら引き返すことにした。

12時45分、屏風岳を後にする。登る時にはひたすら下ばかり見て登ったが、下りは足元を確認するのは当然ながら、足を止めた時に、前方の芝草平や杉ヶ峰の風景が見え、時間を感じることな

く芝草平へとくだってしまった。杉ヶ峰への登り返しはフウフウ言われたが、杉ヶ峰からの下りは、前方に刈田岳・熊野岳の雄大な荒々しい姿を見ながら言うことなし。空は晴れ渡り日は燦爛と降り注ぎ、暑さは厳しいが吹く風は涼しく、関西の暑さとは全く違う心地よさがある。めったに見ることのない風景を楽しみながらユックリとくだり、登り返して登山口へ戻ったのは14時45分。この夜、久しぶりに会う米沢に住む学生時代のボン友といっしょに飲み交わす酒を楽しみに一路、米沢へ向けて車を走らせた。

(平成18年8月6日歩く)

▲コースタイム▼
蔵王エコーライン南蔵王縦走路入口(15分) 旧刈田峠(1時間) 杉ヶ峰(1時間) 屏風岳(1時間) 杉ヶ峰(1時間) 南蔵王縦走路入口
△地形図▼2万5千1蔵王山

随想 山のエッセイ

伊吹山の花にまつわる事

藪木 伸人

伊吹山といえば山頂に日本武尊像が立ち、その軍勢が山神と争ったとの故事が伝わる。

これほど古くから名高い伊吹山には、今も訪れる人が絶えないが、私にとって最大の魅力は、何とていってもその植物相の豊かさである。その花たちのいくつかをとり上げて、伝説・信仰といった切り口から、思いつくままに述べてみたい。

一、ラシヨウモンカズラ
誰が名付けたのかすごい名前だ。シソ科特有の唇形花冠を羅生門の鬼の腕に見たてての命名だというのが、その発想力に驚くばかりである。白い下唇中に目立つ濃紫色の斑点は、波辺綱に切り落とされた腕に飛び散った血しぶきを思わせなくもない。しかし、可憐な花から鬼の腕を思い浮かべた感覚は尋常でない。似た容色の花が他にもあるなかで、何故この愛らしい花に羅生門の名を冠したのか不思議に思う。かつて「浦り落ち

た鬼の血からこの花が生まれ出た」という言い伝えでもあったのだろうか。

二、コオニユリ
遅い夏を迎えた山頂部のあちこちで開花が見られる。人里に多いオニユリにそっくりだが小ぶりで、零余子が付かない。この二種に鬼と名付けられたのは、朱に染まった花色が赤鬼を連想させたからだろうか。

古来、権力にまつろわぬ人々を、権力側の者達は鬼の類として語り、語るなかで特異な外見を付加してきた。鬼に恐ろしい者・災厄をもたらす者と定義するならば、民衆にとっては権力者の方がよほど鬼に思えたろうか(現在でも)。

しかしその一方、鬼を病

や悪霊を追い払う存在として神聖視し、祀ったり祭事に取り入れられたりしてきた地方も多い。

鬼の名が冠された植物には、オニアザミ・オニノゲシ・オニバスなど刺々しい連中が多い。同じく朱色で似ているのに姫百合と呼ばれる種や、ヨーロッパで聖母の百合と呼ばれるようになった種と比べると、同じ百合なのに名前が損をしているのは否めない。

三、ゼゼンソウ
湿原の妖精水芭蕉の花を白鳥に例えるなら、この花はさしずめ黒鳥といったところか。水芭蕉の白い仏炎苞を黒褐色に染め変えたといってもよいほど似ている。花後説明する葉の様子もそっ

くりだ。

それにしても淡いネーミングである。まさに法衣をまとった僧侶に見える。坊主頭の花序は黒褐色から黄みがかかった肌色までさまざまでもおもしろい。一名達野草ともいう。山の春に一時だけ現れるユニークな姿に、先人達は高僧の面影を偲び、篤い信仰心から手を合わせたのかもしれない。

かつて京都の大仙院で座禅体験をさせていただいたことがある。集中してれば長く感じないとの教えであったが、私には長かった。

四、オオバギボウシ

淡い紫の花、純白の花、白地に紫の筋が入った花がある。擬宝珠とは、橋の欄干や

寺で見られる玉葱形のものだ。辞典をひもとくと、如意宝珠に似せてつくったものらしい。この宝珠は、あらゆる願いを叶え衆生を利益すること限りないという。摩尼ともいう。

何故、橋に擬宝珠を付けたのか。古来、橋は現世と異界をつなぐ特別な場所、異界との境であった。それ故、異界におわず神仏に祈願したり、逢魔が時に異界に迷い込まぬように念じたりするために、擬宝珠が必要だったのでなからうか。橋の下には天竺人住った人達の骸が今も埋まっている所だ。あるのだ。

8月初旬に山頂から南斜面を眺めると、無数の擬宝珠の白花が咲き続いている。見ようによっては、何だか

散骨のように見える。折しも眼下は激戦の地関ヶ原。その西は姉川古戦場である。

五、キバナノレンリソウ
典型的なマメ科の蝶形花で、野に咲くミヤコグサに似た黄色である。イブキノエンドウとともに、日本では伊吹山にしか自生していないと聞く。

織田信長が安土の城下町をひらいた折、これらの植物を宣教師達が持ち込んだというのが通説である。伊吹山中で薬草を栽培しつつ暮らしていた人達もいたらしい。

時代の前後は詳らかでないが、伊吹山に残る鬼伝説は、異邦からの来訪者を指していたのかもしれない。金髪碧眼で鼻高く、赤ら顔、

体毛も多いなどの身体的特徴に加え、獸肉を食し葡萄酒を飲む習俗を初めて見た本邦の民は、人肉を喰らい血をすすする鬼だと早とちりした可能性もある。その誤解は一時のものだったにせよ、伝説として語り継がれる格好の題材ではあっただろう。

ところで連理という言葉は無論、比翼の鳥・連理の枝から来ていると考えられる。男女の契りの深いことを言うこの言葉が、何故使われたのか。図鑑で花の特徴を読み、結論と思える部分にたどりついた。それは、花糸が合着して筒状になった雄蕊と雌蕊である。もしこの微細な形態的特徴からの命名だったとしたら、これもまた限帽というほかない。

紀行

朽木大野から植谷峠を経て富坂口へ

植谷南方尾根から蛇谷ヶ峰西峰

小山 誠次

比良

昨年12月に歩いて報告(97号)した「地藏峠・横谷峠・荒谷峠・滝谷越」の中で、「来年の課題として残すこととした」植谷峠を通る山行を計画した。筆者は以前に須川峠から植谷峠間を往復したことがある。そこで、今回は植谷峠上の尾根を縦走してみたいと思った。

平成19年10月6日、前日の天気予報では近畿地方全域で晴れ、降水確率0%と絶好の登山日和であった。わずかに当日朝の滋賀県北部の降水確率が午前10%・午後0%となっているくらい

である。

当日朝、自宅玄関を出ると仄かにキンモクセイの香りがする。隣家のキンモクセイが色づき始めているのだ。本日は登山客が多いだろうと予測して、

(写真1) 植谷南方尾根への取付口



7時45分発朽木小学校行き京都バスに乗るために、約30分前に出町柳バス停に到着して列に並んだ。

京都市内は快晴で、こんな土・日曜日には本場に久し振りである。しかし、立ち席の人がそこそこある程度で、予測よりも登山客は少ない。7時47分にバスは発車した。高野川べりではコス



標高400付近に達した。前方はほぼ丘陵地かと思えるほどに平坦な所で休憩した。これからはしばらくは山登りを忘れて丘歩きの気分である。と、そのとき、足許を何気なく見ると、6歳雄鹿の右側の角が落ちていた。長さ50cm弱。今春脱落したまま誰にも見付けられず今まで残っていたのだ。広い尾根上なのものの2割も横をたどっていれば、とても発見できなかったはずだ。鈴鹿山系ではよく発見されると聞くが、長年比

良山系に通っていて、初めて獲得した通行手形である。長年の夢が叶った。これだけでも本日最大の成果だ。少し周囲を探してみても、左側の角も落ちていないかと歩き廻ったが、これは少し欲張り過ぎたようだ。植谷に沿うルートでなく、尾根ルートを教えてくれた地元の人に大いに感謝したい。丘陵地はまだ続く。「木を見て森を見ず」という慣用句があるが、それからはまさに「地を見て森を見ず」という有様だった。残念ながらそれ以後は成果もなく、10時14分、ピーク535に到達した。本日は豊野野演習場からの砲撃音もよく聞こえている。ここからは再び山登りに戻ることになる。目前のやや急な斜面は枝打ちされてない杉の植林帯で薄暗い。しかし、木々を通して左手には植谷を挟んだ桑野橋ルートの尾根が続いている。間もなく、前方上方の木々の葉の隙間からチラホラ木漏れ日が見え隠れするようになってきた。

モスとキバナコスモスが満開で、セイタカアワダチソウも色づき始めている。比叡山は霞んで見えるものの、飛行機の航跡には飛行機雲は発生していない。湿度が低い証拠だ。

大原ではヒガンバナが田圃の畦に密生し、バスから見ると赤レンガの垣根のようだ。一方、小出石に近づくと全くヒガンバナを見かけなくなるが、途中あたりではまたよく咲いている。気分は最高！

9時1分朽木大野バス停着。ここで高度計を200付近にセットする。実は一週間前の9月29日、妻と旧朽木村まで車で遊びに行った際、今回山行の取付口を地元の人に尋ねて、高乗寺墓地の横手から入って行くと教えてもらっていた(写真1)。なお、国道沿い少し北に位置する大岩の上の祠は、角倉太郎著「比良連嶺」(昭和16年再版)にも採り上げられている市杵嶋神社である(写真2)。

する。やはり人がほとんど通行しないようで、少し進むと倒木が道を塞ぐのはいつもの通りである。しばらく登ると道が不明瞭となった。少し迷ったが、それでも見当を付けて方向を定めると、陥凹状の山道に再び出合い、これをたどることとした。

しかしながら、筆者は当初、2003年版昭文社「比良山系」地図上の、高乗寺すぐ横から発し、植谷に沿って登り、植谷出合からピーク792を指す黒の点線ルートを想定していた。地元の人が教えてくれたのもこのルートだと信じていた。

しかし、どうも今たどっている古道は植谷に近づく気配はなく、尾根をドンドン登っていくようだ。確かに自宅での机上山行でも、植谷峠に達するには、植谷に沿うルートと植谷南方尾根を登高するルートと、二通りあり得ると考えていた。が、今更もう一度高乗寺まで下山するのも億劫である。そこで、このまま植谷南方尾根を進むことにした。もっとも植谷に沿うルートと

(写真2) 大岩の上の祠(市杵嶋神社)



比べて、いささか準備不足は否めなかったが……。

改めて地図を読んで、とりあえず標高400付近までの急登を頑張ることにした。当初は杉の植林帯のなかを歩いてきたが、気がつくとも周囲は自然林で、松も混じるものの明るい広葉樹林帯となっている。



(写真3) 蛇谷ヶ峰と同西峰の反射板

上に達した。標高770呎。遠方通か、リトル比良の山並と共に岩阿沙利山の荒々しい山肌がよくわかる。飲水休憩の後、ここから4分間でピーク792に到達した。

今からは植谷峠を経て、さほど高低差のない頂上をたどることになる。木々の切戸から蛇谷ヶ峰と同西峰のマイクローウェーブ反射板とを写真に収める。

ここからの下山路は、本誌69号で康夫氏が報告されているルートであるが、「地蔵峠・横谷峠・荒谷峠・滝谷越」で引用した「比良連嶺」からの記事で、「……滝谷をしばらく登るとやがてそれが三つに破れる。……中央は——谷に沿って主脊へ向ふ」山道である。

13時20分、いよいよ下山開始である。全くマージングは無いが、陥凹状の本道が続いている。11分後、左下方より滝谷川上流の溪声が聞こえてきた。同じ頃にやはり左下方より杉を伐採する仙人の作業音も聞こえてきた。そして、そのまま下山を続けていて、13時46分、左右の分岐点にやって来た。泰氏の報告で、左にルートをとって苦労したとの記載がある。左右の分岐道の優劣からは左の道が本来の道のはずだが、途中で崩壊してしまっているのだから、

た(写真3)。

7分後、北方に向かって出発するが、するとすぐに赤テープのマージングを見つけた。少したどると、頂上から北方下方に続いているようなので、植谷に沿うルートへの案内であろうか。

幾つかの小さなアップダウンを繰り返しながら尾根をたどっていると、まず植谷峠近くの造林公社の古い看板に出会った。これは見覚えがある。そのままさらに歩を進めるが、以前と少し様子が変わったようである。昭文社の地図上では植谷峠と明記してあるが、実際は場所を特定するのは困難なようだ。それでも11時18分、通過を確認した。

このあたりからは、北方に先程のピーク792での赤テープと同一のマージングが充実してくる。しかし、尾根上は一本道で迷いようがない。11時30分、ピーク816を通過し、さらに同53分には地形図上のピーク840を通過すると、目前に巨大なマイクローウェーブ反射板が迫っている。

今回もやはり右にとり、後は滝谷越からの道を想定してそれと交叉するように入道して行くと、左下方に滝谷川に建設された大きな堰堤を確認した。注意深く踏跡をたどり、滝谷川に架かる古いコンクリート製の橋を渡った所で、事実上の本日の山行終了である。

現在は13時55分。「地蔵峠・横谷峠・荒谷峠・滝谷越」で、「堰堤すぐの左流左岸に登路がある。……その内に調べてみたい」と書いたのが、今からちょっと寄り道をしてみることにした。

その道はすこし登るとたどりにくい急斜面を経て、先の堰堤左岸沿いに上流へと続いている。但し、堰堤すぐ上流で川が分岐している。先の道は右股とも言うべきコトガ谷左岸に沿っている。標高差50呎程登った所で、山道はコトガ谷を渡り、今度は右岸に沿って上流へと続いていることまでを確認したので引き返した。

14時18分、再び古いコンクリート製の橋の袂まで戻り、後は高坂口バス停まで馴染みの道をたどった。途中、当

12時1分、最後の枯れたクマザサの急坂を登り、反射板横に達した。後方を振り返ると、ピーク840とピーク816とその延長上に武奈ヶ岳も遠くに霞んで見えている。とりあえず、昼食場所である蛇谷ヶ峰頂上までと休憩なして先を急ぎ、12時10分三角点をタッチした。

昼食中、いつの間にか快晴の空に巻霧と高積雲、遠くには積雲が発生しているのに気づいた。しかし、青天のほうははるかに広い。本日は伊吹山も霞んで見え、白山はとうとういぼ確認できない。

12時55分、昼食を終えて蛇谷ヶ峰を南方にくだる。本日は滝谷の頭の手前で南東に下りる道をたどる予定である。右手には三ノ谷を挟んで、蛇谷ヶ峰から直接南下する尾根が徐々に高度を下げ、木々の間よりわずかに植谷峠から蛇谷ヶ峰西峰に到る尾根が見え隠れするようになった頃、13時16分、左後方へと一本の道が分岐している。ここでちょうど、ピーク840を嶺北の西30度に望む。

地のムラサキカタバミは色濃く、すぐ隣のゲンノショウコとよく似ていると新鮮な印象を抱いた。15時ちょうど、高坂口バス停着。

帰路に出会った地元の人から、手にした無敵の通行手形を誉めてもらったことが何よりも嬉しかった。今日は実にいい日だ。(平成19年10月6日歩く)

▲コースタイム▼

- 朽木大野バス停(8分) 不明瞭な山道(20分) 標高400呎(28分) P535(31分) 植谷峠に直通する尾根(4分) P792(12分) 植谷峠(12分) P816(23分) P840(8分) マイクローウェーブ反射板・西峰(9分) 蛇谷ヶ峰(21分) 高坂への下山路分岐(11分) 滝谷川溪声(13分) 左右分岐点(7分) 古いコンクリート橋(13分) コトガ谷(10分) 再び古いコンクリート橋(42分) 高坂口バス停

△地図・地形図▼

- 昭文社「比良山系」(2003年版) 2万5千1北小松



富士山の見える山

紀行

大洞山・三国山・鉄砲木ノ頭・湯船山・不老山

関東

山形 明

山から富士山を見たいと思うのは誰しも同じであろう。「地球温暖化が進んで永久凍土が融けだし、富士山の形が崩れるのは遠い話ではない」とムトウ女史が言い、そうなる前にしっかり見ておきたいと、青春きっぷを駆使して鈴鹿からやってきたのは、3月の晴天の日であった。

小田原駅に出迎かえ、金時山と三ツ峠山を登り、夕刻乙女峠から見た富士は、薄紫一色に染まり巨大な姿が天空に浮かび、その日のフィナーレを飾ってくれた。

この人は時々このように人を驚ろかせ、行動を起こすのだが、当たっていることが多いのでオレも真に受ける。

富士山の形が崩れるとは何か、そんなことがあってよいのか、もしそうであればオレもキチンと富士山を見ておかねば後悔するぞ、こうしてはいられないと思わず立ち上がった。その「後物先に立たず」とその後、杓子山、修正体山、陣馬山を登り、今回は山中湖の南に連なる山々を登ってきた。

山中湖畔からこれらの山を見ると、東西に長々と横たわる稜線はいくつものピークがそびえ、丹沢山塊の方へと伸びている。この山脈を1人で縦走した。

早朝、下山口となる山北町山形場の河川にある棚沢キャンプ場に原付バイクを車から降ろしてチェーンを掛ける。ここから御殿場へ、車を走らせ御殿場へ向かい、

峠のすぐ上にある基地の駐車場に車を置いて出発した。

この山は火山灰で盛り上がったような山で、歩くとサクザクと大きな音がする、冬枯れのブナ・ミズナラ・カエデの明るい林のなか、尾根筋を登って行くと、木の間越に、右手に富士山左手に山中湖が現れ、富士山を道すれにしての山歩きとなる。下には富士の裾野に広がる自衛隊演習場があり、そこから絶え間なく砲弾の炸裂する大きな音が聞こえてくる。尾根筋を登りつめると畑尾山への分岐があるのでピストンする。山頂は御料局の標石があるだけの静かな所だ。

分岐に戻り、アップダウンの稜線歩きが始まる。1364計ピークで直角に左へ曲がってから富士山は背後になり、ここからは富士山を引き連れた山脈になる。今度は右手下に富士スピードウェイが見え、レース中の車の爆音が聞こえてくる。富士周辺も結構騒々しく、走り廻るレース車はおもちゃのチャロッコのようだ。

「樹下の二人」から富士山（手前は湯船山）



やがてアザミ平を過ぎて大洞山に着く。二等三角点があるだけの静かな所だ。栢木山を気づかずに通る過ぎた頃、男女4人の若者がドカドカと走って来てオレを追い越して行った。ランニング登山なのかマラソンの訓練なのか、オレもつられて走り出したが息が続かない、アツという間に後ろ姿が見えなくなってしまう。

三国山に着く。ここも明るい林のなかで、開けた中央に大きな御料局の標石がある。一辺が倍程あるから四倍の太さだ。縦書き二列で御料地境界点と彫り込んであり、横の面には地名も彫り込まれ、駿河国になっている。このような大きなものは初めて見た。この三国山は山梨・静岡・神奈川の三県境の山なのだ。

ここから一気に三国峠までくだると、舗装道路が峠を南北に越えている。ここまで4人の若者しか会わなかったが、ここには大勢の人が来ている。道路向かい側に鉄砲木ノ頭への登り口があり、山頂までピストンする。登り20

分程だ。この山は、山半分がカヤトで頂上は360度の展望、多くの人が登ってきていて、欧米系のおジサンや若者もいて「スバラシイ」と大きな声で連呼している。欧米人であれば「ワンダフル」と言いなさい。山中湖の向こうに大きくそびえる白い富士山は誰が見てもスバラシイのだ。

米國出張から帰り、休む間もなく夜を徹してこの地に馳せ参じた大津市のムッシュ三井は、今日は馬岳に登っている。ここから黒岳が見えるので、あの山のチャッペンにも山キチが一匹おるわいと思うと、つい大きな声で「オイイ」と呼んでしまったが、届くわけないのでメールしてみると、「今食事中、富士山がでかい」と返ってきた。この山城はよく電波が届く所ですうとアンテナマークが全部立っていて、途中ムトウ女史からは「由比ヶ浜に桜エビを食べに来ている」とメールが入っていた。折しも桜は満開、桜を見ながら桜エビを食い由比の浜から富士を見晴らす、かっこいいお姉さんだ。また

大山市の川島嶺からは、「新幹線の窓から富士山がよく見える」とメールがあり、入院中の母を見舞っての帰りだそう。

今日は快晴、人それぞれの想いで富士山を眺めているのだ。「甲斐の国から見る富士の山は、真富士であろう」と武田信玄が駿河の今川義元にバカにされたという話があるが、今日はムトウ・川島嶺は表富士、ムッシュは裏富士、オレは横富士だが、富士山はどこから見ても秀麗な姿なのだ。

三国峠まで戻り、しばらく舗装道を歩き、左手の尾根道に入る。明神峠で道路に出てそこから山道に入る。明神山の下を捲き、湯船山に登り、ここも木立に囲まれた静かな所だ。

この先白倉ノ頭を越えると越後峠、いくつもの峠が息を越えているようだ。そこから登り返すとカヤトのピークに登り、越えて来た湯船山の向こうに富士山がスバラシイ。「樹下の二人」という案内板があり、それによると、昭和十一年徳富蘇峰が夫人と共に

に二台の籠に乗り、號龍昇き人夫17人、随行者と計50人で山中湖を兜つてここに立ち、富士山を眺めたという。それで、「樹下の二人」と名付けられたそう。さらに、このあたりはサンショウバラの群生地であることも書かれている。

そこからわずかの下りで世附峠に下り立つ。林道が南北に越えていて、林道広場で男女8人の若者がマウンテンバイクを横に倒して休憩中、下のゲートを越えて登って来たと言う。先は不老山まで最後の登りである。若者が動き出したので、この林道をくぐって行くのかと思いきや、自転車を肩に担いで不老山へ登り出したのだ。標高差230mある、かなりきつい登りだ。

山頂で一服した若者達はワイワイ言いがたながら全時公園への道をくぐって行った。山頂は樹林のなかで展望は無いが、200m手前の南峰は富士山側が開けていて、歩いて来た山々が全部見渡せる、こうして見ると人間も随分歩けるものだなと思ってしまう、最初に登

り着いた畑尾山は信じがたいほど遠くであり、その向こうに富士山がゲインと座っている。

不老山からは樹林のなかの道を一気にくだって下山口へ。吊橋を渡ってキャンプ場に着くと原付バイクが待っていてくれた、心強いヤツである。

今日は鉄砲木ノ頭は別にして、縦道中に出会ったのは二組の若者だけ、若者の力を見せつけられる山行であった。若さは力なりだな。

(平成20年4月5日歩く)

▲コースタイム▼

電坂峠(40分) 畑尾山分岐(40分) 畑尾山ピストンして分岐(40分) 大洞山(45分) 三国山(20分) 三国峠(35分) 鉄砲木ノ頭ピストンして三国峠(45分) 明神峠(30分) 湯船山(1時間30分) 世附峠(30分) 不老山(1時間10分) 山市場湖沢キャンプ場
▲地形図▼
5万1山の中湖・森野

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆



神戸ザック

http://www.h2.dcn.ne.jp/kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルでデザイン、トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストリッ等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームの軽装ザックです。

☆25L☆

- ・カウ ブルメナイビー・レッドメナイビー
- ・ウィンメナイビー・オレンメナイビー
- ・黒 55g
- ・素材 ナイロン/リップ
- ・箱 高 150

イモック山行くらぶ

関東各県、季節に応じた、登山・登山・登山の企画。お気軽に問合せ下さい。

※お申し込み下さい。



IMOCK.
KOBÉ

〒420-0208 静岡県静岡市清水区
コノノビル2F

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-5829

※営業時間/9:00-18:00 受付時間/9:00-18:00

新ハイ関西101号

標高△△01mの山

赤摩木古山 (1501) 白山連峰
 伊賀谷山 (901) 京都北山
 不動岳 (2601) 北アルプス

赤摩木古山

赤摩木古山は白山連峰の北方に位置するブナ純林の美しい山だ。北側のブナオ峠から二度登った。一度目は1990年9月に大山さん達3人で大笠山を往復した時に行きと帰りに通過した。雨上がりで空気が澄み渡り、ブナ林に差し込む光のすじと緑の濃淡の美しさに心洗われ、山頂からは北アルプスの鯉岳から乗鞍岳までをくっきりと見渡せ、感動した印象深い山だ。

15年を経た今回は、三宅さん、時高さん夫妻の4人で赤摩木古山と大門山だけを往復するというノンビリ山行をした。以前にも見えていたはずのブナオ峠を隔てた北側に美しい形の猿ヶ岳があった。ブナ林と多彩な花の猿ヶ岳山行を思いだし、しばし眺めた。

白山連峰は多雪地帯の山特有の明るく開放的で、大きなブナの純林など豪快な植生に出会える山が揃っているたいへん魅力的な山域だ。

またブナオ峠付近の奥道沿いもブナ林がたいへん美しく、歩かなくても美林に出会えるすばらしい場所だ。

(平成17年8月28日歩く)

△コースタイム▽
 ブナオ峠(2時間) 赤摩木古山(1時間30分) ブナオ峠
 △地形図▽2万5千Ⅱ西赤尾

伊賀谷山

京都北山ガイドブックの「比良山系の大展望」という見出しで伊賀谷山を知り、説明通りに歩いてみようと思っただ。ヤブコギがあるとのこと、避季9~11月とある通り、10月を選んだ。

バス停の足尾谷橋から足尾谷林道を進む。尾根をひとつ廻り込むと兄弟谷が右から合流した。その兄弟谷を少しさかのぼった地点が二俣になっていて、その間の尾根に取り付いた。急登だが木が密生しているので安心して登れた。

植林の進んでいる山だったが、山頂付近からは見出しの通り、武奈ヶ岳が雄大に見渡せた。特に西側の安曇川へ深く切れ落ちている稜線が鮮やかだった。踏跡の薄い山は下山のほうがむずかしい。本の通りに歩いていたらつもりだった。



伊賀谷山付近略図



伊賀谷登山道より武奈ヶ岳を望む

たが、640mで北東に向きを変えらるべきところ、密生した木々のなかに空いた所が見えたのでそれを目指して東へ直進してしまい、やみくもに下りたら発着所の導水管の上に出てしまった。導水管沿いは急過ぎて下りられない。北へ斜面をトラバース気味にくだったら神社の横に出られた。

磁石で確かめるタイミングが遅れた時の悪い例のような下山になってしまった。(平成3年10月20日歩く)

△コースタイム▽

足尾谷橋バス停(3時間) 伊賀谷山(2時間30分) 高川学校前バス停
 △地形図▽2万5千Ⅱ花脊

不動岳

北アルプス主稜線の中で蓮華岳から烏帽子岳間は、最も登山者の少ない山域ではないだろうか。

道程が長いので、会山行ではめずらしい小屋泊まりの計画を時高さんが立て、4人で七倉山荘前から登った。

ひと昔前の雰囲気の色濃く残す船塚小屋に泊まり、翌日不動岳を目指した。曇り空だったが蓮華岳と針ノ木岳が間近に望め、黒部川を隔てて五色ヶ原周辺の地味な山々も近かった。

ハイマツの深い緑と砂礫の白との対比が美しい尾根を進む。ハンゴヤクサリ場のある岩場を通過し、穏やかになってきた針葉樹林帯を登り切れば、不動岳の最高点に続いて三角点に着いた。天気の良い日だったら鯉岳や立山をはじめとした、さぞすばらしい展望の山頂だろうと思われた。

不動岳の次の南沢岳を越えてから烏帽子岳分岐との間の、小さな池の点在する烏帽子四八池と呼ばれる一帯は、たいへんすばらしい所だった。池と草地と岩との配置に烏帽子岳や南沢岳の姿がくりくり出さ庭園風の山岳風景は見事だった。(平成15年9月14日歩く)

△コースタイム▽

船塚小屋(5時間) 不動岳(3時間) 烏帽子小屋
 △地図▽昭文社Ⅱ「鹿島槍・五竜岳」

随想 山のエッセイ

金華山の照葉樹林

賢見 守康

昨年末、新ハイ例会で岐阜市のシンボリック的存在である金華山を歩いた。

戦国時代、織田信長が天下統一の拠点とした岐阜城を戴く金華山は、現在、市民の山として愛されておき、主要な登山口だけでも七ヶ所ほどあるという。毎日登っている市民もいるほどで、休日ともなれば季節を問わず、あちこちの登山道でハイカーに出会う。

アウエイが通じ、雨の水道山にはドライブウェイが走るなど、すっかり観光地となっているためか、本格的な登山の対象からは除外されているようである。例えば、新ハイ会員なら、一度登れば再び訪れることはないのではなからうか。

当日も、散策気分です歩きながら、自分達が金華山には不釣り合いな装備の集団であることが話題となり、「何しに来たか、と言われそう」「他にいく山がなかったのか、と言われるかも」などと軽口を叩き合ったりしたものだ。

そんな和やかさに拘さず意図はなかったが、私は「もし、そう言われたら、岐阜県で唯一ともいえる照葉樹林を見に来ました、と応えたらどうですか」と言いい、「どんな反応が返ってくるか興味深いことですね」と続けた。

話の流れに沿う軽口のつもりが半分、残りの半分は真面目だった。

「森の国」といわれるわが国では、どんな荒地でも草が芽吹き樹木が生え、やがて、その場所の気候や土壌に合った林になっていく。何も無い状態からでも自然に森ができていくのだが、必ず一定の法則に基づいて、その土地に合った森になるまで変化を続け、ついには

安定する。

この安定した最後の姿を「極相」といい、岐阜県の美濃地方では照葉樹林を極相とし、飛騨地方の極相はブナを主体にした夏緑広葉樹林となる。

照葉樹林が美濃地方の本来の姿であるにもかかわらず、今、一定のまとまりをもった照葉樹林は美濃地方にはほとんど残っていない。人間の暮らしのために伐採されてしまったからである。照葉樹林が伐採され、長く里山として活用されてきた美濃地方の山は、アカマツやコナラを中心とした雑木林となっている。岐阜市で最も高く、長良川を挟んで金華山と対峙する百々ヶ峰も、そんな雑木林の山である。

例会当日、Mさんが「先日歩いた百々ヶ峰と林の様子が違う」と感じたのは、そうした事情からではないかと思う。

ツブラジイやアラカシを主体にした金華山の森は、美濃地方唯一の、いや岐阜県唯一ともいえる顕生の照葉樹林なのである（正確にはもう一つ、美濃市の鶴形山がある）。

ある場所の植生が極相に至るには、四百年から五百年といわれ、気の遠くなるような歳月を要する。それほど長い歳月を経て、なお岐阜市街の真ん中に位置する金華山に顕生の照葉樹林が残されているのは、実に驚くべきことと言えるのではないだろうか。

金華山は、江戸時代から「天領・お留め山」として入山や伐採が厳しく禁止されていた。そして、明治から戦前までは皇室「御料林」として、さらに戦後は「国有林」として保護されてきたのだ。

金華山という山名の由来は、ツブラジイの花が咲くと山全体が黄色に染まることとからきているとも、あるいはツブラジイの葉が風にそよぐと葉裏の毛で山が黄金色に見えることからきているとも伝えられるが、それほど見事な、かつ、植物学的に貴重な照葉樹林なのである。

日常的に金華山を歩く人々が、この山の優れた自然道

産をどのように理解しているのか知る由もないが、市街地にあるハイキングにお手頃な山、としてだけの理解なら、もったいない限りである。

金華山の森を眺めるだけでなく、樹木の名前やその仕組み、さらには森の動きまで観察できれば、山歩きの楽しさは何倍にもふくれあがるに違いない。

遠方からのハイカーには「岐阜県で唯一ともいえる照葉樹林を見に来ました」と言われたなら、誇らしげに輝くような笑顔で迎えてほしいと願うのである。



万葉集の歌枕を訪ねて

浦嶋神社と権現山

木村 太郎

丹後

奥丹後の経ヶ岬・袖志を過ぎ、平から竹野へ向けて段丘上を車で走る時、日本海の眺めは形容詞で言い表せない美しさがある。そして奥丹後の山には、京阪神の山にない遠い憧れを抱かせる何かがある。

地形図2万5千分1図の「丹後平」で、例会で登った依遅ヶ尾山、近畿百名山の太鼓山のほかに、まだ未踏峰の権現山を知り、登りに行った。

京都府北部の降水確率10%と聞いて家を出たが、舞鶴道の丹波トンネルを抜け、兵庫県から京都府に入ると雨に

なった。京都縦貫道の宮津天橋立で降り、丹後半島一周観光道路と呼ぶ17号線を橋北に向けて走る。



宇良(浦嶋)神社

和泉支部に「花浪の里とし聞かは住うきに君引きわたす天の橋立」の歌がある。花浪の里のちに波見崎となったという海辺沿いを通る。日置の金剛心院を開いた千手姫の生まれた村に近い岩ヶ鼻、大島トンネルを潜り抜けて与謝郡伊根町に入る。
NHK朝の帯ドラマ「ええによば」

を過ぎていたと風土記は伝えている。

風土記逸文は、卜部兼方の「釈日本紀」を出典にする。曰く「水江の浦嶋子が玉匣開けずありせばまたも会はましを」と、後の人に歌われたとあり、「我ぞ悲しき」という嘆きの言葉で物語の幕を閉じる。その浦嶋子の伝承は、「万葉集」にも所収されている。
春の日の霞める時に墨吉の岸に出で居て釣舟の(以下略)

(巻九一七40)

「日本書紀」の雄略の条に見える浦嶋子の伝承は簡潔な文章だが、「万葉集」巻九雑歌の部「水江の浦嶋子を詠む」の長歌は、風土記逸文に劣らず詳しい。万葉集に「右の件の歌は、高橋連虫麻呂の歌集の中に出づ。」とあり、虫麻呂歌集から収集がなされた。

万葉集は場所を墨吉としており、伝承地を摂津の住吉に当てる説もある。浦嶋子にまつわる最古の記事、日本書紀には「丹波国余社郡菅川」とあり、文献の多くは旧名丹波(田庭)の丹後地方の伝承としている。



浦嶋神社・権現山付近図

の舞台になった舟屋の里を見送り、本庄浜の浦嶋八倉に入って車を止める。雨中登山は避けたいので、雨が上がるまでの時間つなぎに、式内社宇良(浦嶋)神社を訪れる。
「日本書紀」の雄略の条に水江の浦嶋子の記事、「丹後国風土記」逸文に菅川の浦嶋子伝承の記事がみえる。菅川の浦嶋子が小舟に乗り約をする時に、得たる五色の亀が変じた美しい婦人に「蓬山」に誘われ、「樓堂は玲瓏きて、目に見ざりし耳に聞かざりしところ」という、俗に言う龍宮城へ連れて行かれたという。菅川の浦嶋子は、「旧俗を離れて仙都で遊ぶこと三歳、土を懐かしむ心を起し、二親を恋う」思いで、玉匣を携え本土の菅川の郷に帰ってきた時、浦嶋子の齡は三百余歳



権現山の山名標

が復活する。従高の牧場周辺では草原にたむろする牛を見るが、昔は権現山周辺でも放牧されていたらしい。登山道のまわりにササやスキの草類が多いのはそのためであろう。

登山道の傾斜が増すと植林から雑木林になる。森林の作業道が終わり、細くなる道をさらに狭めるササがおおふ。雨に濡れた道の泥が山靴の底にこびり

事実、丹後半島には式内社宇良神社のほか、竹野郡新野町の新野神社、嶋見神社、西浦嶋神社などに、浦島太郎（水江の浦嶋子）がまつられている。現在は京丹後市に属する福島の神社には、「京丹後七姫伝説」の乙姫様もまつられ、七姫めぐり旧蹟地として市の観光マップに記載されている。

「京丹後七姫」とは、磯山そばの羽衣天女や金剛堂子山そばの細川ガラシャ等が該当する。権現山に登る前に、宇良神社前の公園で乙姫像を見たのも何かの縁であろう。

ところで万葉集の虫麻呂歌であるが、各地の伝承を題材に歌集を編んだ虫麻呂であるので、丹後から摂津に伝播した話を聞き、創作を交えて水江の浦嶋子を歌に詠んだと考えることもできよう。

常世に往むべきものを剣大刀
汝が心からおそやこの君

(巻九ノ一七四)

蓮山を模した宇良神社の小庭を見て、

社前そばの「熊宮の市」で買い物をしていたら雨が上がった。すっきりとは降り切っていない空模様に見えたが、この日は登山が目的であり、駐車場に引き返し権現山へ向かう。

三省堂の「日本山名辞典」によれば、権現山の別名に熊野山とある。通説に「熊野」は、「野」と「野」を合わせたものと考えられている。一般的には奥まった所の野という意味に解釈できる。熊野は海洋から奥まった山野、陸地から奥まった山地である。見方を変えれば通常の生活圏に遠い場所、浦嶋子伝承の蓮山のようなものかも知れない。熊野の山という名を持つ権現山は、浦島伝説に通じる神仙思想を秘めているのかも知れない。幸田露伴の「新浦島」は、木曾豊寛ノ床を浦島の舞台にしていた。海だけでなく、山の中にも浦島伝説は存在していたのだ。

元明天皇の和銅六年(713)4月、丹波国から五郡(加佐・与佐・丹波・竹野・熊野)を割きて丹後国がつくられ

ついて滑り、樹木の幹やササ束をつかんで登高する。

地形図「丹後半」での権現山への道は途中で途切れている。森林組合が整備してから時が経ち、道は荒れ放題である。20万分の1地勢図「宮津」を見ると、権現山からは、近畿最北端で岩礁の怪ヶ岬が近く、リアス式海岸の丹後松島も望めそうな位置にある。

山腹を捲くようなこともなく、直登につく直登で山頂目指してよじ登る。前方の樹林が薄まり、曇り空が望めはじめる。急斜面の道の窪地でひと息ついたそばには、ご褒美のようにササユリが咲いていた。山頂らしき台地に足が届くが、顔までのびた草むらに前を遮り、まるで草の海に出たようだった。山頂南端の草むらには紫色の小花が、山頂出入口の目印のように咲いていた。草花々のなか、少し低くなったあたりをストックでかき分け、三角点を探すため山頂の中央部に進んだ。散々滑ったのでスポンは泥まみれ、水溜の草むらで薄地のシャツもビッショリ。

たという。丹後は1300年近い歴史がある。伊根町は、旧伊根村と旧鴨川庄(朝妻・鴨川・水庄)とが合併して町となった。浦嶋神社も権現山も、同じ丹後の与謝郡伊根町に属している。

丹後半島縦貫林道をつないで、従高原総合牧場やスイス村の太鼓山へ通じる府道57号線に入る。筒川筋の悲運の女工たちを慰霊して工場跡地に建つ丹後大仏を横に見て通る。知足院の分岐で河来見集落への細い舗装路を登る。三柱神社前の空地に車を止め、権現山登山道の道標を見つめる。

民家と古びた作業小屋の間にのびる登山道は、茂り放題の雑草が道を隠している。薄暗い杉の植林地に入ると、平坦で歩きやすい山道が現れる。紫色のガクアジサイ、白色のホタルブクロなど、仲夏に咲く馴染みの花を目にする。下草に湿じり、ヒマラヤに咲くというジュウヤクがあたり一面に匂う。階段道になり、雑木類が顔を出す。すぐに傾斜がゆるみ斜面下から植林帯

去年の同じ頃、細川ガラシャ墓のある味土野から金剛堂子山へ登った。その時も山頂はひどい草むらで、三角点は見つけられなかった。去年の二の舞かと案じたが、北方奇りに低木の塊が見えたので突き進んだ。

草類の占領をわずかに逃れた狭い空間で、権現山(600・700)二等三角点を探して来た。三角点そばに動物の糞があるので取り除いて写真を撮る。登山道の途中には栗の殻が散らして置いているのだろう。河来見の畑に電流を通した柵を見たが、動物の糞は山を安住地とした証だろう。

経ヶ岬の白亜の灯台が見えないかと北方に目を向ける。三角点から山頂北端へ踏み込む気力はなく、草むらに遮られ眼下を見逃せない。目を転じると西南にかけて半島の山並の影が薄ぼんやりと見えた。

真西に依蓮ヶ尾山の特徴ある姿、手前に観光施設の赤い屋根のある従高原を望む。そばの小さな山塊は、伊根町

山の本歳時記

大森久雄著 四六判 二二〇〇円

新刊

日本の山は季節の彩りが豊かです。本書はそうした豊かな山の世界を描く「山の本」からその一文を選びだし、著者の軽妙な語り口と写真(新装版写真)で、新しい山の姿を伝えるものです。季節の山と山の本を「歳時記」で初めて結んだ珠玉の書です。

好日山荘往來(下)

大賀壽二著 四六判 二九四〇円

新刊

日本最初の登山とスキー用具専門店「好日山荘」は、約八〇年に亘って登山の発展に力を注ぎ、多くの海外遠征にも関わった。店に風光と歴史を感じる人たちとの交流のものがたり。
◎好評発売中◎ 好日山荘往來(上) 二六五円

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

<http://www.nakanishya.co.jp/>

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 ㊟606-8161

と京丹後市境の笠山と峻山であろう。南に太鼓山の風力発電の大風車列が曇天のなかで幽かに浮いている。

スイス村の太鼓山へは最初、依遅ヶ尾山の下の見の帰りに登った。ヴィラ・マイリンゲンからスキー場の斜面をたどり、往復30分程で歩いた。二度目は金剛童子山の帰路、スイス村の風物詩巨大風車の遊歩道を歩いた。

地球温暖化を防止する会議で京都議定書が採択され、それを機に太鼓山の風車が建設された。電力は関西電力に売電されて役目を果たしている。遊びに来ていた地元の子供達の列に加わり、六基の白い大風車の下を歩いたのは、

去年の梅雨明け前のことである。高原情緒あふれる遊歩道沿いにオカトラノオ・カワラナデシコ・ササユリなど、夏の草花が咲いていた。風車も号機の行き止まりにあずま屋と展望地があった。「風車の森」の看板が立つ場所から、この日歩いた権現山を眺めたことが思い出される。

権現山でゆっくりする暇もなく、細かい雨が落ちてきた。本降りになる前に山を下りようと草むらを引き返した。先刻の紫の小花が生えた山頂南端で南東に視界が開け、丹後の海が目に見える。遠い昔の浦嶋子伝承が脳裏をよぎり、現実色の失せた風景であった。

紀行

4年がかりの北欧トレッキング

「王様の散歩道」南端に到達

利倉正洋

スウェーデン

白樺林の下り坂の先にクングス・レーデン(王様の散歩道)のヘマーバン南端ゲートが見えてきた。6年前にスタートしたアビスコの北端ゲートとが今つながる。朝霧が少し残るヘマーバンの町はまだ眠りから覚めていなかった。

会社員になった頃、ある図書館で見た写真が北欧に憧れを抱くきっかけであった。それから何十年も経った退職間近かの頃、スウェーデン北部のラップランド地域にトレッキングコースがあった。夏には多くのトレッカーに楽しまれていたのを知った。氷河をもつ山間に草原が広がり、ずっと続く一本道をひたすら歩く。時間の余裕ができたなら、絶対にこれだと思っていた。

ヘマーバンのクングス・レーデン南端ゲート(8/3)



クングス・レーデンのこと

クングス・レーデンはラップランドに幾つかあるトレッキングコースの中でも一番知名度が高く、ポピュラーなものと言える。北端のアビスコから南端のヘマーバンまで、総長が4400m、平均的な標高は800〜1000m。極端な登りは無く、ゆったりとした起伏



驟雨に遭った直後のテントサイト (7/23)

設備、現地の天候など、すべて手探りであった。そして一番わからなかったのはやはりトレッキングコースそのものであった。反面、そのぶんワクワク、ドキドキで、歩いた印象も強烈であったわけで、まさかそれから6年も続くとは……。

さてA、Bと歩いてきて、次のCセクションを歩くにあたっては、多少の不安があった。聞いてみると、年間のトレッカーは数えるほどだという(年間といっても夏期の6、7、8月の3ヶ月)。

1日中誰にも会わないこともある外国の土地を地図を頼りに何日も歩くのである。幸いなことに、その前年、現地で知り合いになったデンマーク人と「サーレク」と呼ぶラップランドの原野地帯をテント持ちで2週間程歩き、これが大きな自信(安否)になった。一番の懸念は、万が一の怪我と体調不良である。これについては、行程の2日置きくらいにエマージェンシー用の無線電話があり、電話をかければヘリコプターが飛んで来てくれる(らしい)。まあ考えればきりが無い。結局はヨイショである。

*Cセクションのトレッキング記録については、本誌95号(07年盛夏・53ページ)に掲載した。

7/16、また雷雨が明けていない関空を飛び立った。荷物が重くて(全部で29kg)、超過料金を取られるのもしゃくなので、中判カメラの入ったショルダーバックとテントは機内持ち込みとした。出発点のイエックピック村へは

紙面の都合もあるので、この前半と後半とをまとめて書いてみた。

そしてついにDセクションへ

2007年の夏、最後のD部分を歩いた。このセクションの北端イエックピック村から南端ヘマーパンへの距離は170kmあり、そのちょうど中間点にアンマルネスという静かな村があり、この村を境にして、前半は山小屋無し、後半が山小屋有り、となっている。今回は全行程の17日間、すべてをテント泊(プラスチック)とした。衣服を洗濯し(ビニールバッグが大活躍)、身体を川で拭きながらの前進である。この年は全般に天気が悪く、常に生乾きの洗濯物をザックからぶら下げて歩いたような気がする。



の草原には小川が流れ、左右の山肌には水河を眺めつつ、時にはトナカイを遠望することも。緯度が高いせいで夏期は日照時間が長く、その気になれば22時間まで歩くことも可能である。クングス・レーデンはコースの性格と位置の関係から、大きく四つのセクションに分けられる。北から南へ順に、

A・B・C・Dとすると、それぞれが次のようなイメージである。

Aセクションー最も人気の高いコースで、山小屋も1日の行程毎に建っている。景観は山岳っぽく変化に富む。スウェーデンの最高峰ケブネカイセ山への登山口がある。

Bセクションー山小屋があり、Aに次

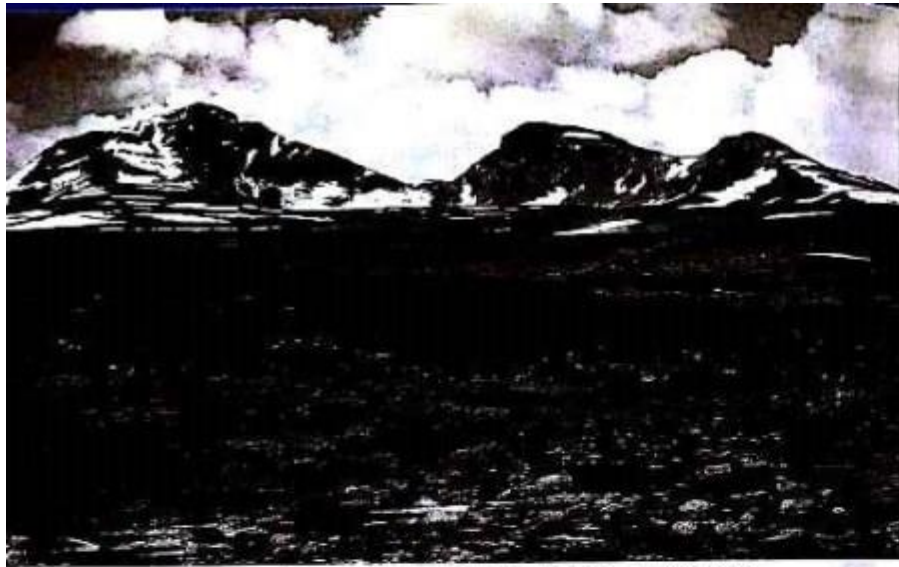
いでトレッカーが多い。

C・DセクションーA・Bとはかなり性格の違った区間で、年間のトレッカー数はガクッと落ちる。山小屋はDの後半を除いて建っておらず、従ってテント・食料の携行が必要となる。景観は北部(A・B)に比べて比較的穏やかで変化が少なく、そのぶん、一心不乱にトレックをしているという気分になれる。北極圏のラインはCの中間あたりを横切っている。

これまでを振り返って

最初のクングス・レーデンのトレッキングから昨年の完歩まで6年経った。途中で他の場所も歩いており、実質4年(4回)でA・Dの全コースを歩いたことになる。歩いた順は、北部からA→B→C→Dであった。

最初にAセクションを計画した時は、情報不足で大変であった。ラップランド入口までストックホルムから夜行列車で16時間位乗るのだが、その切符の買い方から山小屋の状況(予約・食事・



北シーター山 (1706m・左) と中央は大きな氷河となっている (7/31)

これが正解だった。夜半から
雷雨が強くなり、結局この小
屋に2泊することになった。
雨のなか、小屋で休憩しよう
と次々に入ってくる何組かの
パーティと話をすることにな
り、これはおもしろかった。
大体彼等がこのコースで日本
人と会うのは皆無であろう。
スウェーデン人は男性も女性
もとても元気である。快活か
つ明快である。夜はゴーゴー
とすさまじい風であった。こ
の夜にもう一つの避難小屋で
強風の一夜を過ごしたので、
今回は本当に避難小屋様々で
あった。

最終のテント泊は南端ゲー
トの少し手前とした。そして
翌朝、2時間のトレックの後、
8月3日の8時30分、クング
ス・レーデンの南端ゲートへ
マーバンに到着した。

踏破を終えて
最初に「玉珠の散歩道」を歩いた時
は、まさか自分が全行程を歩くことにな
らうとは思ってもよらなかった。この
コースはメインルートその他に幾つかの
バリエーションがあり(特に北部に)、
まだまだ歩いてみたい部分が残ってい
る。計画次第で誰でもが楽しめるよう
出来たトレッキングコースだと思ふ。
日本の俗称「玉珠の散歩道」とは誰が
名付けたのだろうか。とてもピタタシの
呼び名である。

「なんで毎年おんなじ場所に行くん
や」「もっと変わった場所がいくらで
もあるでしょうに」とはよく言われる。
確かにそうである。しかし、ラップ
ランド・ハイ、とでもいうか、重い荷
物を背負って1日中歩き、見殺す限り
誰もいない原野にテントを張り、夕陽
を眺めながら食事をつくる。そして汗
でネチネチしたまま寝袋に入る……。
これがおもしろい。まだもうしばらく
続きそうである。

(平成19年7月18日〜8月3日歩く)

ストックホルムから夜行列車とバスを
乗り継いで到着した。

前半 7/18〜7/26 (イエックピッ
ク村〜アンマルネス村、約90km)

初日は雨に降られたが、その日の夕
刻、郡の山小屋(無人)を見つけ、あ
りがたく使わせてもらう。2日目以降
は曇ったり晴れたりして推移。全般には
肌寒い気温であり、記録した最低気温
は7/22早朝の0度であった。昼間の
平均気温は15度位で登山シャツ程度。

標高700〜900mで北部のコー
スに比べるとやや低い。全般に、草原
に低いブッシュが生えているといった
景観で、所どころ白樺の疎林のなかを
歩く。どちらかというと変化の少ない
景色である。コースの中間部には湖や
池が多く散らばっていて、そのせいか
細かいブヨが極端に多く、これにはま
たく悩まされた。このコースに山小屋
が建っていないのが何故か納得させら
れたのである。

コースには木の幹に赤ペンキマーク

が丹念に付けられており、まず道に迷
うことはなかった。

トレッカーはやはり少なくて、平均
日に1、2パーティ程度で、全然会わ
ない日もあった。そんな中でびくくり
したことがあった。5日目のコルへの
登り途中、前方から下りて来たのが、
昨年クングス・レーデン(Cセクション)
を抜きつ抜かれつ歩いた、ドイツ
人(55歳位)だったのである。昨年は
娘さんだったが今夏は奥さんといっ
しょだった。まさに奇遇だ。私のHP
の写真を奥さんで見ていると言ってくれた。
彼と出会った後、広い草原の尾根で強
い驟雨に見舞われた。あまりにも突然
のことでテントも張れず、あわててザツ
クからフライシートを取り出し頭から
かぶった。羽はされないうよう、足とザツ
クでフライシートを押さえ、40分我慢
をした。

今回は、トナカイの角を金ノコで切っ
て持ち帰るという計画を立て、大きな
のを二本見つけたのだが、あまりにも
太過ぎて切っているうちにいやになっ

てしまった。

おおむねテント地にも思われ、穏や
かなトレッキングが楽しめた。

後半 7/26〜8/3 (アンマルネ
ス村〜マーバン、約90km)

このセクションは1日毎に山小屋が
建っている(ラップランドの山小屋では
食事は自分でつくる)。これはたとえテ
ント泊まりであっても心強い。したがっ
て前半よりトレッカーに会うことが多
かった。景色も変化があり、山岳地帯
あり残雪豊かな山上湖ありで飽きさせ
ない。蚊も前半とは段違いに少なかっ
た。

食料が減ってきたので、スタート地
点のアンマルネス村のスーパーで買い
足した。久しぶりのビールをスタート
のベンチに坐って飲んだ。おいしかっ
た。

2日目の夕方遅く、標高1100m
の避難小屋にたどり着いた。周囲は岩
がゴロゴロしているので、避難小屋を
使わせてもらった(内部はとても清潔)。

ジャンタルムを越える

奥穂高岳から西穂高岳縦走

山田 明 男

北アルプス

15年前になるが、山友達から「ジャンタルム」と言われる岩場のピークが北アルプスにあると聞いた。当時はアルプスに行く予定はなく、そのままになっていた。

アルプスに行き始めて3年目で、2年前から穂高への計画を組んでいたが、天候などの都合で中止していた。7月の予定が雨で流れ、8月の末にやっと行けることになった。

前夜は新穂高温泉の民宿で泊まり、朝一番に起きて奥穂を目指す。昨年7月、槍ヶ岳に行った時に通った右俣林道を行くが、穂高平小屋への短縮ルートは歩かなかった。20分位は短縮できるようなので、今回は歩いてみたい。林道の終点近くのオオヤマレンゲには実が付いていた。

そこら30分も登ると、谷の最上部に何か建物らしきが見えてきたので双眼鏡で見たら、穂高岳山荘だった。沢には雪渓が残っていた。見ながら3時間余でやっと山荘に到着した。

翌4時過ぎに暗いなかをライトを点けて歩き出す。まずは40分で奥穂高岳山頂。まだ日は出ていないので、休憩



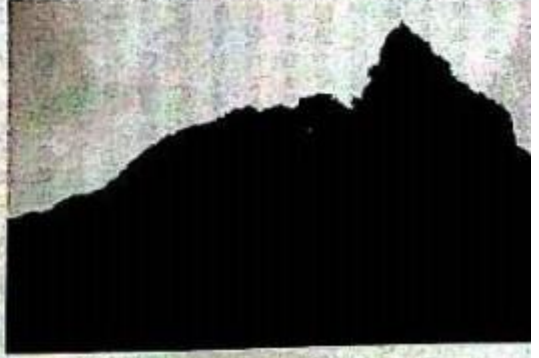
しながら日の出を待った。日の出時の天候次第でどこにくだるか判断すると皆に話しておいたが、絶好の天気になり西穂高岳に向かうことにした。

「ジャンタルムは怖い」と言う人もいたが、「この機会を逃がしたら次は無い」と言って全員西穂に向かう。小屋で話をした福井の女性は「この山が好きでいつも来ている。西穂の小屋から6時間で奥穂の小屋」とか。それもテントを担いでだからすごい。

「奥穂から西穂へ向かう時、最初の馬の背の岩場が怖い」と小屋で聞いたが、実際はそれほどではなかった。ロバの耳を捲けばその先はジャンタルムで、南側から登って下りた。後は小さな上り下りを繰り返して、天狗のゴルに着いた。岳沢にくだる分岐だが、あまり人は歩いていない。

鎧をつかんで天狗岩に登り、山頂で記念写真を居合わせた人に撮ってもらった。この先、「間ノ岳との間」と西穂高岳まで危険だと言われていたので、時間をかけてゆっくりくりくり登ったが、

ジャンタルムと天狗岩間の下りを行う



白出沢出合から奥穂へは未知の領域だが迷うような分岐は無い。林を抜けて谷に出れば岩切道に出る。短い距離だが岩を爆破して切り開いた道で、先駆者の苦労がわかる。

岩切道が終わり、その上でまた谷を渡り少し登れば本流側で、岩がゴロゴロとした広くて長い大きな沢が見えて

緊張の連続だった。

西穂高岳の二つ手前ピークの広場でお昼にした。西穂高岳山頂には大勢の人がいるだろうからと考えたがその通りだった。時間は11時、奥穂から6時間かけて来たことになる。

西穂山荘には13時半過ぎだった。私は皆よりロープウェイを一本早く下って車を鍋平に回した。皆はすでに下りて待っていた。

(平成19年8月25日〜26日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 新穂高温泉(1時間30分) 穂高平小屋(30分) 白出沢出合(1時間) 岩切道(1時間) 荷籠小屋跡(3時間) 穂高岳山荘(40分) 奥穂高岳(6時間) 西穂高岳(2時間) 西穂山荘(40分) ロープウェイ西穂高口駅
- △地形図▼5万11上高地
- *奥穂から西穂へは天候次第で、暗れて見通しが良く馬が無いことが条件。ガッスっている場合は経験者の同伴が必要。雨天は厳禁。

連載

智異山

おおらかな山

ヨシミスポーツ

吉見英樹

韓国

朝鮮半島南部全羅道に位置し、漢羅山・雪岳山と並び、韓国三大峰として名高い。ハンラ山は死火山の独立峰、ソラク山は岩稜峰、チリ山はそれらと全く異なる大きな山塊で、端から端まで歩くと最低3泊4日はかかり、雄大な縦走登山は人気が高く、ソウルから北側登山口までの直行バスは頻繁にある。

韓国の山小屋は一般に待避所と呼ばれ、日本のような食事サービスは一切無い。小屋泊まりでも自炊登山になる。チソンご飯や缶詰は売店で買えるが、味気なく山の楽しみは半減する。

山麓には新羅時代からの古刹が多く点在し、山行後お寺廻りすると、レンタカーでも3日はかかるだろう。

元たほうが適切ではないかと思う。多くの峠から道があり、下山時間はいずれも6時間位なので、エスケープルートとして十分に活用できるだろう。

交通アクセス

往路 釜山市金海国際空港から西部市外バスターミナルまでタクシーを使い、高速バスでチュンサン登山口へ。



帰路 釜山トン登山口からバスを三回乗り継いで、やっとこ釜山に到着という、とても複雑な行程になってしまったが、几帳面に記録をとらない私には説明できない。

コース

全羅道を訪問するには交通手段やかかる時間も大変で、かなり思い入れを強くしないと行く気が起らない所である。今回一番の問題点は、いかにスムーズに短時間に登山口に着けるかであった。あまり複雑に手間をかけると、登山口に着いた頃には登る意欲が失せるからである。

あれこれ考えたあげく、本町にある大韓観光協会を訪ねることにした。受付の女性はとても親切で、バス路線表や時刻表も持ち出してきて、登山口のチュンサン里へ行く方法を考えられたのだが、やはり釜山から入るほうがよいだろうということになった。ただ、釜山からは路線の高速バスを乗り継いで行く方法なので、乗り間違えな

チリ山



山容

韓国独特の岩稜剥き出しの岩と松の山ではない。遠くから山だけを望んだ感じは、日本の山のようになだらかで優しい雰囲気である。しかし、いったん山に入るとやはり韓国、岩だらけの道でほとんど地帯は無いと言ってよい。チリ山というよりは、チリ山脈と例

いようにしないといけないのだ。

韓国での話だから、思った通りに行ける保証がないうえ、ずいぶん長い間バス旅行をしていないので、自信も薄れていて、出発前夜はあれこれと復習してなかなか寝つかれなかった。

しかし当日、実際は釜山西部高速バスターミナルから乗り換え無しの一発で、チュンサン登山センターに到着し、到着してしまっただけで、まだ15時前だったので民宿を探すのも余裕で、飛び込んだ民宿の部屋に荷物を解いて、軒先で早速メクチュ(麦酒)で、「ラッキー！ 本日はご苦労さま」と自分で自分に声をかけた。

夕食時、宿の主人に登山ルートなどの情報確認をすると、頂上まで約4時間位らしい。道もわかりやすいと言っているので、何とかなるやろ！ と半分安心して部屋に入った。窓からはチリ山が見える。夜空には星が輝き、明日の晴天を約束してくれた。

翌朝6時、玄関に降りて主人が登山

口まで車で送ってくれるのを待っていたが、全く現れない。どうしようもなく20分程ボーとしていたら、女将さんが起きてきて、代わりに送ってくれることになった。車中で事情を聞くと、御主人は夜半に博打仲間と外へ出かけたまま帰ってきていないらしい。私との約束は勿論忘れたようだ。確かに夕食を食堂でとっていると、近所の悪友達が集まってきて花札を延々とやっていた。切っぱなから出鼻をくじかれた格好となった。

しかし、登山は至って順調であった。登山道は道標もすっかりあって、迷いようもなく登山者も多い。緊張することもなく、楽しくリラククスできる山歩きとなった。

道は沢沿い、やはり岩の上や横をぬって歩く固い道である。後で足にトラブルが起らないように、最初はゆっくりを心がける。ポゲ寺への道は、木立のなかを歩くので展望も無い単調な道ではある。木立は低いので意外と暗い感じはしない。2時間程でポゲ寺に到着した。

着した。

寺は山の中腹にあり、お参りだけの登山者も結構多い。寺は大きな岩の上にお堂が建っていて展望も良好である。チリ山頂までここが最後の水場、岩の間から湧き出るありがたしいお水である。韓国の場合、これらを「薬水」と呼んでいる。

お布施をすると、尼さんがマクワウリをむいてくださった。50歳以上の人には懐かしい果物である。最近の日本ではほとんど見られなくなったが、韓国や在日の食堂では今でも人気の果物である。あっさりした甘い味は昔と変わらず、山中で食べるにはかえって喉越しが良いのに驚いたほどである。昔、夏になると母親がおやつとしてよく食べさせてくれたものである。

寺からチリ山までも平凡な道だが、頂上直下30分は上を仰ぎ見る岩場の急な登りになり、ひと踏ん張りが必要になる。頂上には朝歩き始めてから4時間30分位で果敢なく着いてしまった。岩場の頂上はかなり広くなっているの

で、大勢で休憩や食事をして心配はいらぬ。

チリ山頂から次の目的地チャントモック待避所への道は、アップダウンを繰り返す縦走路となっている。立山ミクリガ池遊歩道みたいに整備されていて、ワイルドファンは不満を感じるかもしれない。ノコゲンまでの4日間縦走路は、たぶん全てこのようであると韓国人が説明してくれた。確かに縦走路で迷うことはないと思われる。

チャントモック待避所には昼をいくぶん回った頃に到着してしまっただが、当初の計画通りに、ここに泊まることにして、宿泊の交渉に入った。

予約の無い者は宿泊できないのが原則だが、遠く日本から来たとお願いと、山荘のお兄さんがとても親切に場所を分けてくれた。予約はインターネットでする人が多いとのこと。寝るスペース全てに番号が打ってあり、予約番号でそのスペースが与えられるので適当にはできないのだ。宿泊券には毛布券も付いていて、お金を払えば多めに

らえる。内部はとても清潔である。

泊まれると確信したので緊張が解け、山荘前の広場で持ってきた酒を飲み、日向で寝てしまった。寝転びながら、三々五々通過していく多くの登山者を眺めているのもソレはソレでもしろい。人気ブランドや韓国登山業界の傾向が手にとるようになる。いつの間にか休暇モードが仕事モードに切り替わっているのだった。

2日目は6時出発。次の目的地はソク山荘。清々しい朝日を全身に浴び、心も軽やかな出発となった。縦走路の木々は赤く染まり、とても気持ちが良い。まだ早朝だというのに、反対側から高校生の200人を超す団体がドンドンと歩いてくる、多分学校行事であろう。引率の先生が声を震らしている。

道は幾つもの細かなアップダウンを繰り返して、峠を越えて行く。70分で展望のすばらしい所に着き、岩の上に登って振り返ると、チリ山頂上チョンアン峰が大きく肩を広げている。眼下には

ソク山荘があり、このあたり一帯は高山植物保護地になっていて有名な高山庭園である。チリ山の写真もこの風景を撮ったものが多い。ソク山荘はチャントモック山荘と大きさは同じぐらいのようだ。

本日はここよりハンシン渓谷をくだることにする。縦走路とハンシン渓谷への道は交差していて、はっきりと表示があるので全く道を間違えることはない。急角度でくだけて行く、全て岩道であるから膝腰を痛めないようにゆっくりと歩くことにした。

30分程くだると源流が見えてきた。源流は次第に流れが出てきて、そのうち沢となっていく。岩道はあちらこちらへ曲がり、赤テープを見落とすとどこへ行ってしまかわからないので注意が必要だ。実際にも対岸に渡るような所も多々あり、間違えたか？と緊張する場面を何度か経験した。落ち着いて見渡せば、何とか道を探せるのだが、その瞬間は「えらいこっちゃ」韓国の山で客死するわけにはイカンガ！と

アタッテ痛い靴の中広げ します

OUTDOORS SHOP
とよ吉のヨシ
YOSHIMI

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp

TEL. 06-6772-7231 ●営業時間/AM10:30~PM8:00 日曜13:00~

毎週木曜日定休

高山病対策& 高所登山に! 低酸素室

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高峰を目指している方、山屋やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



高所ツアーも経験豊富なアミューズトラベルにお任せ下さい!

- アフリカ大陸最高峰キリマンジャロ(5895m)登頂
- チベットからネパールへ エベレストBC(5150m)
- ネパール ゴーキョピーク(5360m)トレッキング
- ネパール カラバタール(5545m)トレッキング
- ネパール バラクピーク登頂(4618m)と世界最高所山岳ホテル
- ペルー インカ道(4200m)トレッキング
- バブアニューギニア最高峰 ウィルヘルム山(4509m)登頂
- マレーシア最高峰 キナバル山(4095m)登頂 等々

まずカタログをご請求下さい!

見ごたえたっぷり国内・海外の山旅と自然観察の旅、計500コース以上を掲載した総合カタログ。ハイキングから海外の高峰登頂ツアーまで幅広い商品を揃えています。見るだけで楽しいオールカラー152ページのボリューム。そして、これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のための、山歩き教室カタログもあります。送料・本体ともに無料でお届けしております。どうぞお気軽にご請求ください。



お電話
おはがき
FAX・HP
にて

送料・本体共に無料です。
お気軽にご請求下さい!

大好きな自然の中で働いてみませんか!

山岳添乗員・山岳ガイド大募集

山岳専門旅行社アミューズトラベルでは、夏山の繁忙期に向けてツアーのお手伝いをしてくれる方を募集しています。自分のペースで、大好きな山の中で働いてみませんか?ご興味をお持ちの方は一度お問合せください。

アミューズトラベル株式会社
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377



チリ山山頂

胸騒ぎする。根が焦り屋ビビリ屋で、相変わらずこの点はいつも反省する。つまり、この道は登りに使う道のようで、途中から多くの登山者が登ってきている。私が源流にいた時間帯は人がおらず、また登り専用に使っているので、ルートマークが上から見下ろす所には

付いていないのである。2時間ほど下りると、沢は溪谷となり流れは大きくなってきた。深い谷や池もあり、そうなる道はもう迷う心配はなくなる。このあたりまでくると、登山者がドンドンと上がってくる。谷間の岩の上では休息をとっている人もいる。道の傾斜はゆるく溪谷も大きくなってきたが、ここからが思ったより長く、どこまで歩いても溪谷歩きがずっと続く感じがした。朝6時から歩いて13時30分、やっとゴールのペンムドン登山口に到着した。なかなか長い岩上歩きだったので、足はガタガタ、急ぐ旅ではないからこのあたりの民宿で泊まることに決めた。清潔で親切そうな民宿を選んだ。と言うのは、民宿の表で若い女将さんが食器を洗い、登山客に食事を出している姿がとてもしゃべりたかったから。後から知ったのだが、この女性は遠く北朝鮮と接する中国領から嫁いで来た朝鮮族中国人だ。顔は明らかに朝鮮系ではなく、中国北方系であった。韓国

の過疎地帯も日本同様に嫁の来手がなだらしく、彼女のような朝鮮族が嫁いで来ているようである。さて荷を解き、落ち着いた後は、宿の向かいにある縁台に上がり、待望のメクチュ(麦酒)を飲ませていただいた。縁台からは美しい溪谷が見下ろせ、木陰から涼しい風がサラサラと渡ってくる。ザザザという流れの音を聞いていると次第に眠気がし、いつの間にか寝てしまった。

寒くなって目が覚めたのは、17時を回っていたら。夜、山の神に無事下山を感謝し、床についた。

- ▲コースタイム▼
- (1日目) チュンサン里登山口(2時間) ボゲ寺(2時間30分) チリ山頂チュンアン峰(1時間20分) チュントモツク山荘(泊)
 - (2日目) チュントモツク山荘(2時間10分) チョデ峰(30分) ソック山荘(3時間50分) ペンムドン登山口(民宿泊)

山の情報

北海道登山

山小屋事情 ②

金谷 昭

(3)増毛および樺戸地方
・暑寒別岳(1491・4峰)

(地形図)暑寒別岳・暑寒沢・(国領)
北海道の尾瀬沼と称される雨電沼
沼原の背後にそびえる巨峰で、高層湿
原・お花畑と展望に優れ、もちろん一
等三角点峰である。この暑寒別岳と雨
電沼原を挟んで南西の内陸側に暑寒
寒荘が、北面の日本海側の暑寒コース
に暑寒荘、同じ北面からの岩別コー
スに岩別避難小屋が設けられている。
南北二つの山小屋を利用する縦走コー
スは変化に富んでいておもしろいもの
がある。

な山小屋がある。管理人が入ることも
あるが寝具・食料持参で有料。利用に
際しては先述の多田商店に申し込む。
日本海側から暑寒別岳を登る場合、
暑寒コースより短く高度差は少ないが、
途中に水場が無いのが難点で、登山者
も少ないようである。

・神居山(946・7峰)
(地形図)南渡加・ビンネシリ
当別町の「道民の森」背後にそびえ
る樺戸山地の1000mに満たないピー
クだが、同山地の最高峰ビンネシリ
(1100・3峰)への縦走はお花畑
もあり、札幌付近から日帰り登山でき
人気の山である。道民の森から頂上へ
はA・B・Cの三コースがあり、最も
長いAコースで頂上近くの尾根に出て
しばらく登ると避難小屋がある。
小さなログハウス、収容人員10人程
だが比較的新しく頑丈な造りとなっ
ている。無人で避難目的の山小屋で近
くに水場は無い。
・道民の森総合案内所

①南暑寒荘

雨電町から暑寒ダムを経て林道終点
登山口のキャンプ場に立派な木造二階
建の宿泊棟があり、売店を兼ねた管理
棟もある。収容人員は70人程。管理人
常駐で有料だが、屋内設備は完備し、
炊事場・温水平水シャワーの熱湯は電気式
となっており、火災防止が図られてい
る。レトルト食品類、その他飲料や貸
手布のある売店もあり、必ずしも寝袋・
食料を持参しなくても宿泊可能である。
内部は清潔で快適な一夜を過ごせ、
下山後に公衆電話でタクシーを呼ぶこ
ともできる。登山届けの際、環境保護
の協力金を徴収されるが、最近では雨電
沼原の人氣が高まり、団体客の利用
が多いので宿泊予約をできるだけ早く
することが肝要である。

・雨電町産菜園関係

☎0125(77) 2211

②暑寒荘

雨電町側から雨電沼原と暑寒別岳
を越え長大な尾根をたどると、日本海

☎01332(8) 2431

(4)中央高地(奥大倉および十勝連峰)

・黒岳(1984・0峰)

(地形図)愛山温泉・(厨子峯)
大雪山域で稜線にある最も設備の整っ
ている山小屋に黒岳石室がある。層雲
峡からロープウェイとリフトを乗り継
いだ七合目から黒岳頂上を越えて約2
時間で到達できる極めて便利な所に設
けられている。夏期は管理人は常駐し、
収容人員160人程の大きな山小屋で
ある。

最盛期には宿泊できない場合があり、
筆者が利用した際は満員で予約は受け
付けていなかった。有料、煮泊まりの
みで食事提供されていないが、売店が
貸寝具・レトルト食品を扱っている。
炊事用具は持参しなくてはならない。

*管理人宅(安藤町)
☎01658(5) 3325

・旭岳(大雪山)(2290・3峰)
(地形図)旭岳・愛山温泉・(厨子峯)・白

南暑寒荘前にて



側増毛町の登山口のボンシヨカンベツ
川沿いの標高約300m地点のキャン
プ場に、一階部分は石造の木造三階建
の頑丈な山小屋がある。

管理人が入ることがあり有料だが、
寝具・食料は無いものの快適な一夜が
過ごせる。増毛駅前の多田商店が、こ
の小屋と後述の岩別避難小屋の利用手
続を行っている。

・増毛駅前多田商店、増毛町登山家
内所 ☎01645(3) 1211

③岩別避難小屋

日本海側からのもう一つの登山道、
岩別コースの林道終点の標高約450
m地点の登山口に、ブロック造二階建
の収容人員20人程の小規模ながら頑丈

雲行

言わずと知れた北海道最高峰で人氣
中の人氣の山。幾つかの登山コースの
うち旭岳温泉から旭岳ロープウェイで
登った、旭岳西面中腹の姿見の池の北
側あたりに石積造の無人避難小屋があ
る。

収容人員20人程の小さな小屋だが、
ロープウェイが出来てから避難小屋の
意味が薄れ、トレイ代わりに使用され、
荒れている。

・東川町商工観光課
☎0166(82) 2111

・赤岳(2078・0峰)
(地形図)層雲峡・白雲岳)

層雲峡から登山最盛期のみ運行の定
期バスの終点に銀泉台ヒュッテがある。
木造平屋建の道内では数少ない食事
と寝具付きで宿泊できる山小屋で収容
人員35名程。日帰り客にも食事を提供
している。標高1500mの銀泉台だ
けに赤岳、さらに繋がる白雲岳への登
山も比較的楽で、コマクサ大群落のお

花畑が楽しめるコースである。

・林野弘済会旭川支部

☎0166 (61) 1092

・白雲岳 (2229・5㍎)

(地形図=鷹巣峠・白雲岳)

旭岳からトムラウシ山、或いは黒岳への縦走にはなくてはならぬ存在の白雲岳の頂上直下に建つ木造二階建、収容人員60名程の白雲岳避難小屋がある。夏期のみ管理人が常駐し、有料となっている。避難小屋だが縦走途中の宿泊に利用され、夏期は大変込み合っている。筆者が利用した時、登山者が多いためか人馴れしたリスが餌をねだりに来ていた。水場は近くの白雲岳の雪渓からの流水利用となる。

・大雪山国立公園管理事務所

☎01658 (2) 2574

・忠別岳 (1962・6㍎)

(地形図=旭岳・白雲岳)

旭岳からトムラウシ山への縦走途中、白雲岳よりトムラウシ山寄りの忠別岳

と五色ヶ原中間の縦走路から少し下りたメタクヤンベツ川の源流部に忠別岳避難小屋がある。

三角原根の木造二階建、収容人員40名程で無人開放されて無料である。水場は近く、周囲は美しいお花畑に囲まれ、キャンプ地に指定されている。縦走の際、白雲岳避難小屋の混雑を避けてこの小屋に宿泊するのも一案である。

・上川支庁林務課

☎0166 (26) 1211

・化雲岳

(地形図=五色ヶ原・トムラウシ山)

トムラウシ山と化雲岳との中間を少し下りたヒサゴ沼にあるヒサゴ沼避難小屋。丸太造の木造二階建、トイレは別棟。収容人員40人程の山小屋で、以前あった石室の老朽を機に建て直したものである。無人開放無料となっている。

大雪山系統走やトムラウシ山登山に

なくてはならぬ存在であるゆえ、最盛期は北アルプスの山小屋並みに込み、

・上ホロカメットク山 (1920㍎)

(地形図=十勝岳)

十勝岳主峰の南にある火口壁のピーク、上ホロカメットク山の東北のゴルに木造二階建の上ホロカメットク山避難小屋がある。収容人員30名程で無人開放され無料。トイレは別棟となっている。

先述の十勝岳避難小屋より利用者が多く込むようである。水場は遅くまで残る雪渓の融雪水を利用する。

・上富良野町役場商工観光課

☎0167 (45) 3121

・吹上温泉「白樺荘」(旧白樺荘)

(地形図=十勝岳・白金温泉・チカベツ山)

十勝連峰西麓の十勝岳温泉郷の吹上温泉に白樺荘がある。長く登山者やスキーヤーに親しまれた現存する旧館白樺荘の近くに温泉付きの新館白樺荘がある。

大きくてラックスな木造建物である。管理人常駐、寝具付き茶泊まりで食事提供はないが、炊事道具や食器も

場合によっては職員で宿泊できないこともあり、利用の際はできるだけ早く到着し、場所確保が肝要である。

・十勝支庁林務課自然保護係

☎0155 (24) 3111

・美瑛富士 (1888㍎)

(地形図=十勝岳・白金温泉)

表大雪山系統走で旭岳とトムラウシ山間は登山者は多いがトムラウシ山以南に入ると、十勝岳までは極端に少なくなる。すばらしいお花畑に出会え別天地の山行となる。特にトムラウシ山南麓の黄金ヶ原のそれは筆者の見た北海道のお花畑の中でも最高であった。

南沼そして双子池からオプタテシケ山への長い急登は辛かった。オプタテシケ山(2013㍎)を越えて、さらに二つのピークを過ぎると、可愛い富士山型の美瑛富士北麓に美瑛富士避難小屋が建っている。

最初宿泊した時は老朽化が著しく、内部にツェルトを張って雨露を浚いだしたが、4年前に再訪した時には快適な木

完備され、登山者向きに廉価で快適に

宿泊できる。最盛期には大変込み合うので予約が肝要である。ここをベース

に十勝連峰を登山するのにもよく、最盛期には定期バス便もある。なお日帰り入浴もできる。

・白樺荘(美瑛町営)

☎0166 (94) 3344

(5) 東大雪

・石狩岳 (1966・0㍎)

(地形図=石狩岳・大雪湖)

石狩川源頭から名付けられた東大雪の雄峰。峰続きの一等三角点峰の音更山(1932㍎)、ユニ石狩岳(1756・0㍎)と同時に登られるようである。十勝三股からの音更林道と共にユニ石狩林道からも登られ、このユニ石狩林道終点に森林管理事務所の調査及避難小屋がある。

木造平屋建、収容人員10名程の古い小さな小屋で無人開放されている。内部に設備は無く、水場は横のポンユニイシカリ川源流から得られる。

造プレハブ平屋建に再建されていた。

収容人員は15人程の全く避難目的の小部屋で、トイレや内部設備は一切無く、水場は少し西にくだった沢の雪渓からの流水となっており、付近は指定キャンプ地となっている。

・美瑛森林管理事務所

☎0166 (92) 1291

・十勝岳 (2077・0㍎)

(地形図=十勝岳・白金温泉・チカベツ山)

十勝連峰の最高峰、西麓の白金温泉をベースにすれば、十勝岳登山や富良野岳への日帰り縦走は可能であるが、十勝岳西麓の望岳台と頂上間の火山泥流の上に十勝岳避難小屋がある。

冬山避難用のためあまり利用されないらしく、内部にはスノーボードと毛布が置かれ、一応維持管理されているが建設されたのが古く老朽化が目立っている。無人開放で水場は近くは無い。

・美瑛町役場

☎0166 (92) 1111

ここからは石狩岳、そして遠く繋がるトムラウシ山への縦走の起点ともなっている。石狩岳まででもアップダウンが多く、楽なコースではない。

*上川森林管理事務所

☎01658 (2) 1171

・ニベソツ山 (2017・7月)

(地形図10番三段・ニベソツ山)

なだらかな山容の多い大雪山連峰の山にあって、研ぎ澄まされた頂上の山容は知る人ぞ知る孤高を誇る北海道の名山。山小屋は無いが東にのびるシヤクナゲ尾根の末端に登山者向きの幌加温泉の旅館がある。

自炊棟もあり宿泊料も安価である。

もう一つの十六ノ沢からの登山コースより長くアップダウンの多い登高を強いられるが、この温泉に泊すればかなり寛げる。

*幌加温泉旅館

☎01564 (4) 2801

*幌加温泉跡の谷旅館

☎01564 (4) 2163

ている。

三角尾根の木造二階建、寝具は無いがストーブ・流し台が備え付けられ快適である。無人だが寄付金箱に維持管理料金を投函することになっている。幌尻山荘が完全予約制となっており、今後この小屋の利用が高まると思われる。

*新冠森林管理事務所

☎01464 (7) 2311

・ベテガリ岳 (1736・2月)

(地形図1ピリガイ山)

日高山脈では幌尻岳に次ぐ名前の知られた名峰だが、一般に登られる西尾根の登山口にあるベテガリ山荘へのアプローチのベテガリ林道が現在土砂崩れで通行できず、後述の神威岳の神威山荘から山越え(約4時間を要す)することになっている。長い東尾根を経て山中テント泊しての登頂もできるが大変なアルバイトとなる。

ベテガリ山荘は北海道で最も立派な木造二階建の別荘風の山小屋。収容人

(6)日高山脈

(地形図1幌尻岳)

日高山脈の最高峰。百名山だけに最盛期は北アルプス並みの賑わいを呈する。昨年からは幌尻山荘の宿泊が完全予約制となったのはオーバーユースの問題から止むを得ない。

類平川に沿って長い林道をたどり、取水ダムからは20数回の徒渉を交える登高だけに日帰り登山は無理で、幌尻山荘に宿泊することになる。森林管理事務所の頑丈な木造二階建、収容人員50名程で管理人常駐。有料で茶泊まり。寝具・食料は持参せねばならない。

最近では開催されていないが、地元平取町主催の町民登山会の当日には一般利用できなかつたので、事前問い合わせが必要。大雨により途中の徒渉が危険となった際には宿泊を重ねばならず、食料の予備を持参するのが肝要である。

*振内森林管理事務所

☎01457 (3) 3141

員30名程、屋外に炊事場がある。管理人不在だがここにも寄付金箱が置かれている。山荘前から始まる登山道はアップダウンが多く、下山時にも十分な体力を残すことが肝要である。

*静内町役場

☎01464 (3) 2111

・神威岳 (1600・5月)

(地形図2神威岳・ピリガイ山)

南日高の雄峰。ニシオオマナイ川沿いの林道をたどると、終点に神威山荘がある。ここに至る林道はベテガリ林道に比べてダートだが比較的安定しているよう、ゲートは開放されている。

山荘は木造平屋建のログハウスで比較的新しく頑丈で、収容人員30名程、流し台が完備されている。無人開放で無料だが、神威岳と先述のベテガリ岳両方を狙う登山者が多く込み合う。なお神威岳登山にも幌尻岳ほどではないが徒渉を強いられる。

*浦河町教育委員会

☎01462 (2) 2311

幌尻山荘



幌尻山荘の完全予約制に対し、新冠川の奥新冠ダムの幌尻川上流2・5kmに新冠森林管理事務所の調査小屋が同所の好意で無人開放されている。ただ奥新冠発電所のゲートから長い林道歩きを強いられ、さらに小屋から幌尻岳へは類平コースより高度差と歩行距離がはるかに長く、超健脚者向きとなっ

・楽古岳 (1472・2月)

(地形図2楽古岳・新冠)

南日高の雄峰で一等三角点峰。その端正なピラミダルな山容は遠くからでもよく目立つ。東西両尾根に登山道が付いているが、日高側の西尾根末端のメナシユンベツ川の源頭近くに楽古山荘がある。

この山荘は数年前に老朽化した旧山荘に変わり、場所を上流に変えて新築された別荘風の木造二階建の山小屋である。収容人員50名程、無人開放されているが、炊事場・トイレはもちろん、寝具数組とさらに屋内電気設備も完備され、発電機を持ち込めば照明その他電気が使用でき、快適に宿泊できる。

*浦河町教育委員会

☎01462 (2) 2311

・アポイ岳 (810・6月)

(地形図3アポイ岳・樺似・幌漣)

花の名山として知られ、北海道で唯一の登山口バス停のある山である。バス停のある山麓のファミリーパークに



札内ヒュッテ

も温泉ホテルのアポイ山荘があるが、五合目に鉄骨造平屋建のアポイ岳休憩小屋がある。日帰り登山者の避難用以外に日の出・日没を見る絶好のビューポイントだけに宿泊する者もいるようである。無人開放で水場は無し。

* 類似町商工観光課

☎01463(6) 2111

* 十勝道難対策協会

☎0155(24) 3111

・伏美岳(1792・0㍎)・ピバイロ岳(1916・5㍎) (地形図1妙登山)

北および中日高のすばらしい展望台の伏美岳、さらに峰続きのピバイロ岳への林道終点の登山口手前300㍎の所に伏美岳避難小屋がある。

建物の構造規模は前述の戸別別ヒュッテと全く同じだが、前者に比べて周囲が明るく陰気さが無い。トイレと炊事場が外部に設けられている。無人開放され、伏美岳・ピバイロ岳からさらにロング縦走して幌尻岳に至るコースの登山基地ともなっている。

* 芽室町役場

☎0155(62) 2611

・芽室岳(1753・7㍎) (地形図1芽室岳)

北日高の雄峰、もちろん一等三角点峰。日高山脈登山に付きものの徒渉は無く比較的登山が容易で、国道38号線

・カムイエクウチカウシ山(1979㍎) (地形図1札内川上流)

日高山脈第一の高峰。中日高の札内川上流にそびえるすばらしい三角形の鋭峰。登頂には1泊2日を要し、途中の札内川の八ノ沢からさらに上流の八ノ沢カールで幕営を強いられるが、この札内川下流のコイカクシユサツナイ川との出合の道脇にある札内ヒュッテは登山ベースとして適している。

木造平屋建の頑丈なログハウスで、収容人員15名程の可愛い快適な山小屋である。カムイエクウチカウシ山やコイカクシユサツナイ岳を狙う登山者で満員の場が多く、その際は札内川を少しくだった日高山岳センターのキャンプ場を利用すればよい。快適なロッジもあり、センターの管理人ご夫婦は日高の山や熊の状況に詳しいのでいろいろと教えてくれる。

10年程前、福岡大学山岳部が熊襲撃の遭難を受けたのは、このカムイエクウチカウシ山の八ノ沢カールで遭難碑

に大きな案内看板が立てられているほどの人気の山である。芽室岳への親切な案内板をたどって行くと林道終点の登山口に山小屋芽室岳がある。

木造平屋建のログハウス。当初は林道用に建てられたが宿泊者が多かったため改造された。収容人員15名程だが頑丈で快適な小屋である。無人開放され無料、トイレは併設されているが炊事場は別棟である。週末は大変込むので早い到着が肝要である。

* 清水町観光協会

☎01566(2) 2111

・剣山(1205・1㍎) (地形図1旗山)

北日高の芽室岳から東にのびる支尾根の末端にそびえる岩峰で、四国の剣山に倣って剣山神社が建てられてから信仰の山として崇められている。林道終点の剣山神社の登山口に剣山小屋がある。

小屋は頑丈なブロック造の平屋建。収容人員50名程のかなり大きな山小屋で無人で年中開放されている。トイレ・

が置かれている。

* 日高山脈山岳センター

☎0155(69) 4378

* 中札内村教育委員会

☎0155(67) 2929

・十勝幌尻岳(1846・0㍎) (地形図1札内岳・拓成)

日高山脈の中央部への東側の十勝平野からの登山基地の一つに戸別別ヒュッテがある。日高山脈の中央部から流れ出す戸別別川の上流で、戸別別林道の十勝幌尻岳への林道分岐を経てピリカベタヌ沢出合の旧林道脇にひっそりと建っていて、小屋の北側を走る新林道から見るとしやすい。

三角屋根の鉄骨造平屋建で、収容人員15名程の小さな無人小屋。かなり古いがしっかりとしている。トイレは無く、水場は前記の沢となる。

十勝幌尻岳への往復登山は1日行程で、この小屋に泊まるとの早期出発がよい。上流の札内岳等の登山基地にも適している。

炊事場も併設され、屋内照明、ストーブも完備され快適な宿泊が得られる。

* 清水町観光協会

☎01566(2) 2111

・佐標岳(1059・5㍎) (地形図1佐標岳)

日高山脈の最北端の山で一等三角点峰。スキー場が併設されているだけに、なだらかな山容は鋭峻な日高の山のイメージとは異なる。十勝と石狩を結ぶ国道狩勝峠から登山するが、山頂からは、雄大な狩勝峠からの展望とは比較にならないものがある。佐標岳頂上に地元山岳会の佐標山荘が一般にも開放されている。

木造平屋建の小さな山小屋で水場無く、外部はトタン張り、内部設備は無く、スキー場の管理用具も置かれている。

* 新得町民体育館内新得山岳会

☎01566(4) 6154

(次号へつづく)

奈良町から旧大乘院庭園へ

松永恵一

奈良町
 郡が平安京に遷った後、平城京は急速に寂れていったが、藤原氏の氏神・氏寺への崇拝は変わりなく、春日大社の三月の「中祭り」や師走の「若宮おん祭り」などには勅使が派遣され、興福寺は僧兵集団をかかえて大和一元に君臨した。奈良町は、繁栄を保った春日大社・興福寺や東大寺・元興寺の門前町として形成された。奈良の伝統産業の墨や筆・奈良漬・奈良団扇・奈良漆器・奈良一刀彫りなどは、今もこの町でつくられ商われている。

奈良町の表玄関に当たる近鉄奈良駅から南にのびる東向通りは、戦国時代に興福寺の力が衰え、通りの西側だ

けに東向きに家屋が建ったからだという。ショッピングロードの餅飯殿通りは、弁才天に餅や飯を献じた。弘法大師が阿字万字と書いた秘符を納めた阿字万字町、元興寺の鐘樓に現れる鬼を僧が追いかけて見失った不審子町、飛鳥川上流の川之上町に新道が出来て、行き止りが抜けたところから川之上突抜町、芝の原の突き当たり町の町の口が開けたので芝突抜町、九州の筑紫へ左遷された僧・玄昉の腕が飛んできて落ちた所という村・塚町、触れると崇る大石のある破石町。

故郷の明日香をあれどおによし
 奈良の明日香を見らしくし良しも
 『万葉集』巻六一九九二

庚申信仰と身代り猿

町先に、手足を縛られ逆さ吊りにされた、真つ赤なぬいぐるみのお猿さんがぶら下がっている。災いを代りに受けてくださる身代り猿、庚申さん。

中国の道教の教えを説く庚申信仰は、現世利益が叶えられるとあって庶民に広がった。人の体内に棲み寄っている三尸の虫が、庚申の日に寝ている人の体から抜け出し、天帝にその人の悪事を告げに行くという。その報告により寿命が縮まるというので、人々は六十日に一度回ってくる庚申(十干・甲乙丙…と十二支・子丑寅…)の組み合わせによるもので、その組み合わせは60通りあり、60日に一度めぐってくる)の日は、虫が体から出て行かないよう一晩中寝ずに「庚申さん」を供養した。眠気覚ましに歌遊びや双六に興じた「庚申待」。それでも心配な人は天の邪鬼が嫌いな身代り猿を家に吊るしたり、三尸の虫の嫌いなコンニャクを食べて悪魔を退散させた。近松門左衛門の『心中宵庚申』はこれを題材に生まれた。

朝野宿祿魚養

魚養は、南都七大寺の額は絶てを揮毫した能書家で、弘法大師の書道の師。昔、遣唐使が唐の国にいる間に妻をもうけて子を産ませたが、彼は「きつと迎えに来るから大切に育ててくれ。」と言いついて唐国した。が、例によって梨の醜。菓を煮やした妻は、その子の首に「遣唐使何某の子」という札を付けて海に流した。子供は難波の浦に流れ着く。四歳ばかりの色白の可愛いらしい子が、大きな魚の背中に乗っていた。助け上げると首に札がある。さては自分の子であったか知り、魚に助けられて海を渡ったので魚養と名付けた。大切に育てた。後に書道の達人になった。と鎌倉時代の説話集『宇治拾遺物語』「魚養の事」は伝えている。

『本朝能書伝』は、「吉備大臣入唐して、彼国にて生ませたる子にて、…」と記している。奈良時代末きつての知識人で右大臣まで勤めた吉備真備。二回の渡唐と十八年間の留学生活に確実な記録はない。

春色皇他郷 (『大和名所図会』)



旧郷の飛鳥もいいが奈良の飛鳥も悪くはないと詠んだ作者は、大伴坂上郎女。平城の飛鳥に鎮まる瑞御神社に歌碑が建つ。東に巻向山、三輪山、音羽山、多武峯、その奥に宇陀の山々が聳みかけるように重なり、西に金剛山、葛城山、二上山、生駒山など、万葉故地の山々の吉垣が高く連なる。

名勝旧大乘院庭園

大乘院は、一乗院とならび両門跡と呼ばれた興福寺の門跡寺院。宝徳三年(1451)、徳政一揆による火災で焼失。尊尊大僧止の尽力により建物と庭園が復興される。このとき作庭を任せられたのが室町時代を代表する庭師・善阿弥。善阿弥は足利義政に仕え、銀閣寺の庭園を造ったと言われている。室町時代に作庭された大乘院庭園は「南都随一の名園」と謳われた。

明治に入ると、神仏分離・廃仏毀釈の流れの中で大乘院は廃絶。手入れが行き届かず荒廃していた庭園は、日本ナショナルトラストが管理し、2010年度完成予定で荒廃していた庭園の修復整備を積み重ねている。

名勝大乘院庭園文化館は、入館無料。旧大乘院庭園や大乘院に関する資料展示を見ながら気軽に利用できる。楽人長屋の土餅が復元されている。南都の雅楽の演奏者が練習をする時に音が外に漏れず、また雑音が入らないようになっている。



身代り猿 (奈良町資料館)

コース概観

門前町として発展を続けた奈良の町。幾多の兵火や災害で荒廃しても、町衆はたくましく生き抜いた。奈良町は商人の町であり、狭い通りには老舗の地場産業の店や伝統工芸品の製造、販売をする店が多い。格子や虫籠窓のある家並。吊り下げられた身代り猿。そこここに立つ祠や社が篤い信仰を集める町の散策に出かけてみた。



称念寺から東に向かうと高林寺。豊成と中将姫の坐像を安置する。本堂横の円墳は豊成の墓と伝える。ならまち格子の家は、伝統的な奈良町の町家を再現している。玄關を入ると、みせの間・中の間・奥の間・中庭・離れ・蔵間が一直線に並ぶ。階段は新階段、通り庭には明り取りの窓、ひさしの下には通風をよくする虫籠窓、屋根には煙たし。通りに面した部分にははめられた奈良格子。外からは中が見えない目隠し、中からは外がよく見える。藤岡家住宅は江戸時代中期に建てられ、国の重要文化財に指定されている。北に進むと朱色の鮮やかな鳥居の御

近鉄奈良駅下車。東向通りから餅飯

敷通りを通る。餅飯殿弁財天社・理源大師堂が祀られている。南へ向かうとすぐ右側の奥まった所に春日大社若宮おん祭(国無氏)の大宿所がある。下御門通りと商店街を通る。やや広い道を横断すると右手に御菓子司なかにし身代り猿を形どった「庚申さん」。世の葉の「奈良だんご」。食べながら歩く。左側の落ち着いた白い建物は奈良市杉岡華郵書道美術館。杉岡華郵はかな書の第一人者で文化勲章受章・文化功労者。万葉集を題材とする作品など雅な書の世界が満喫できる。南隣が奈良市立史料保存館。前があしびの郷。奈良漬のあしびや本舗の大きな樽が出迎える。美味しそうなお漬物がズラリ。ギャラリイや工房・お食事処。

しばらく歩いて左へ折れると庚申堂、奈良町資料館がある。まっすぐ南に歩くと左の民家の中に国史跡元興寺小塔院跡がある。右側に黒瓦葺き白壁の瀧酒な音声館。奈良の奈良の大仏さんは天日にやけて アリヤドンドン

南隣の安養寺は中将姫が出家を決意した道場。姫は藤原不比等の孫の右大臣藤原朝臣豊成の娘。継母にいじめられるが、家臣に字陀の日張山にかくまわれる。連れ戻されるが二上山の麓の当麻寺で出家し、常麻曼荼羅を織る。徳融寺には父娘の供養塔、松永源正久秀が多聞城築城の時に持ち去ろうとした石塔婆がある。連歌師心前が「曳き残す花や秋咲く石の竹」と詠んで残ったという。誕生寺には産湯井戸が残る。

風情ある建物の神楽荘は、「鹿男あをによし」の飛鳥の宿。大正時代に建てられた元遊覧。木辻遊郭は井原西鶴の『好色一代男』に書かれた竹格子のある色街で、江戸に吉原が出来たとき遊女をおくったという。称念寺には「梨の香や奈良には古き仏たち」の芭蕉の句碑がある。さらに南に歩く。町家の軒の上に朱の文字が浮かび出た看板燈籠を掲げる古風な店は、朱の専門店・木下照庵堂。都の果てということで京終と呼ぶ。右手JR桜井線が走り、生駒山のなだらかな稜線が霞む。

豊神社。不遇の死をとげられ怨霊と化された方々を祀る。ちょっと東へ行く。右に金鉢寺、左に法徳寺。東隣が朝野宿禰魚養の創建と伝える十輪院。南門(重文)を入るとドイツの建築家ブルーノ・タウトも称讃した優美な本堂(国宝)。本堂は石仏龕を拝するための礼堂として建立された。石仏龕は花崗岩製の厨子で、正面奥中央に本尊の地藏菩薩像、左右に釈迦如来像と弥勒菩薩像が浮き彫りされている。回りには四天王や仁王、十王、不動明、聖観音の各像や五輪塔、梵字などが数多く刻まれ、極楽浄土を願う地蔵世界を具現している。本堂横に魚養塚が行む。左折して北に進むと今西家書院(重文)。もと興福寺の坊官、福智院家の住宅で、室町時代の様式をよく伝える書院造の建物。東隣の春鹿醸造元今西清兵衛商店が買収された。さらに北に進むと名勝旧大乗院庭園。奈良ホテル南側に広がる開放的な日本庭園を大乗院庭園文化館から楽しむ。欄干の朱色が水面に反射していた。

ならまちセンターから蹴沢池へ向かう。蹴沢池の南西が奈良盆地の南北を繋いでいた一番東の上津道の入口。石燈籠が両脇に並んで立つ。小さな流れが準川で鳴瀬橋が架かる。橋桁に明和七庚寅年五月吉日、施主福屋兵衛と刻まれている。船のカタチをした中洲に石仏がギッシリ乗っておられる。落ち着いた飲食街や旅館街の古い町並の元林院町を巡って近鉄奈良駅に戻る。

▲コース▼
 近鉄奈良駅(10分) 奈良市杉岡華郵書道美術館・ならまち格子の家・十輪院・旧大乗院庭園(10分) 近鉄奈良駅
 ▲地形図▼ 2万5千 奈良
 ▲費用▼
 近鉄奈良駅〜近鉄奈良駅 540円
 (問い合わせ先)
 奈良市杉岡華郵書道美術館 0742(24)4111
 十輪院 0742(26)6635
 今西家書院 0742(23)2255
 大乗院庭園文化館 0742(24)0808

山の地名を歩く ⑩

妹背山 (一)

西尾 寿一

万葉集(一243年)に「大沙少御神の作らしし妹背の山見らくしよしも」とある妹背の山とは、石見国の三瓶山のことだ。「出雲国風土記」の國引神話で知られている。

三瓶山は出雲の神が作った立派で堂々たる山の意であるが、注目すべきは「妹背の山」の表現である。

三瓶山の男三瓶と女三瓶の二峰を兄妹に見立てたことで、この時代には今日でいう二つの峰をもつ山を妹背と言ったことが、ごく普通であったと読みとれる。今の時代でも男山・女山あるいは雄山・雌山などと称する山は案外減っ

ていて、ひょっとすると昔は妹背山が西日本を中心に広く分布したのかも知れない。

現在、「妹背山」の代表格は土佐の西端の沖の島にある404坪の山である。瀬戸港から船で渡る不便を越えて登る人がいるらしいが、宇和海の隅にひっそりたたずむ離島の山へ登るには、それ相当の興味と時間とが必要だ。時間はずれば済むが興味のほうはそう簡単にはつけれない。登るだけなら他に相当の山はあるのだから。

三瓶山は二峰に分かれていることだが、土佐のほうはどうか。すでに知られている「今昔物語集」の伝える兄妹の悲劇は、船で田仕事に行く家族の話である。海沿近くに田をもつ農夫が船に稲田など一式積み込み兄妹を乗せ、親2人が家に戻っているうち、強風で船が沖に出て無人島に漂着した。仕方なしに兄妹が稲を植え家をつくり、生活するうちに夫婦となって島の始めとなった話である。

沖の島の妹背山のはうは地元では、戦に敗れた武将一族の船が通って人目につかず隠れ住むのに適しているから、と伝えられているが、どちらにも似た話はなくさん読されて話の原形は一つである。落人伝説にもノアの方舟にも共通するものが感ぜられ、青龍洞龍潭にも通ずるものがある。

御田國男が伝える話にもいくつか原形がみられる。例えば「海南小記」には「波照間島」に伝わる話を取り上げていて、恐らくこの話のほうが流布したものの原形と思われる。

「波照間島の沖の今一つ税吏の見知らぬ極楽の島が浪に隠れてあるものと信じていた。」とあり、勇気ある若者の幾人かは意を決して登る者があつたという。「年貢が堪へ難く重かつた時、此島の屋久のヤクアカマクと云ふ者、之を済はんと思ひ立つて、温く洋中をこぎ求めて終に其島を見出し我島を南波照間と名付けたと伝へ居る」とある。

山」にも南島の伝承の要素は注入されている。

古く妹は若い女性一般に使われたものらしく、背は男性であるから、一般的に「妹背」という場合にはカッブルとなる。沖の島に南島の風習・風俗が伝えられていることは民族移動と関係しているとみたい。南島で普遍的に知られた話をたずさえた人々が北上して行った道筋に土佐の沖の島があつたのである。そして話の原形の上に新しい土地の風俗・風習などが加わり、話のスケールも多様化も進んでいくことになる。

土佐には東に行くといふ高村に妹背があり、「妹背山」がある。さらに紀州から大和への道順にもいくつかの妹背山が存在する。それらはたぶん南島から移住して行った民衆の集団が遺った道筋を示している可能性がある。

ただし、南島で「妹背山」が、本土では「妹背山」に転じるのはなぜかの問いが生じる。しかし、その答えは簡単である。南島の珊瑚礁型の島に対し、

本土の島はほとんどが山島であることだ。島と山が一体となった「山島」とある。御田國男も南島と言ったり山島と言ったりしている。

以上のようにみると、土佐の妹背山は島と同義で、山名も「難島開発源」と考えてよいと思う。

宮毛片島港から船で沖の島へ渡るとき、バイクの置き場が無いのに気づき尋ねたら、「その辺どこでも大丈夫」との返事に驚く。ここでは昔の良き時代が生きていて盗難の恐れがない。

母島港から積木を置いたような簡素な建物の間の路地を抜け、学校の裏から登路をたどると1時間程で山頂である。鉄パイプの網窓所があるが、対岸の柏島が見える程度だった。

下山は広瀬をとる。石仏と昔の養場と思われるめずらしい形式の石積がある。広瀬港へくだる入口に猪・鹿用のネットや頑丈な扉に鍵がかけられていて思わぬやぶ過ぎを強いられる。

(文庫) (2011)

人頭税など課した南島の年貢の徴しきから逃れる手段として、人の知らぬ新島へ活路を開くことは昔から行なわれたはずで、どの島にも人が住んでいるのはただ人間の勇気のみのも産ではない。人の世の住み難きは共通のこととて、内陸でも好き好んで山中深く分け入り隠れ住むわけではないのである。

税吏の活躍が本邦開発の徴収ぶりに貢献したことはたぶん事実であり、またそうでなければ死に物狂いの活力は得られなかったのかも知れない。

また、別の話では、ある男が夫婦に「良い無人島があるので案内する」と称して船に家財道具を積み込ませ、終わりに亭主に白布を持参するように頼んでいる際に船を出してしまい、亭主のみ残されたというもので、始末にもしろいろのパターンがある。このうちには恐らく創作も事実も入り混じり、何が真実であったのか判別のつかないものとなる。

南島の「妹背山」派はざっと以上のようなのだが、土佐沖の島の「妹背

(里山シリーズ46 東近江市)

絶妙、景観の縦走路

織山から猪子山

一般コース(★☆☆)

長宗 清司

JR近江八幡駅で近江鉄道に乗り換え、八日市経由で五個荘駅に降り立つ。五個荘町は近江商人発祥の地、白壁と舟板張りの土蔵が続く風情豊かな町並である。小幡で左折し地藏堂を右折して、市役所支所前から竜田の交差点に出る。右の観峰館は割愛し、広いグラウンドのある五個荘小学校の外れにある「景清の道」を偶然発見してこれ歩き。

大石垣で囲った大城神社の正面入口を通過、この先の弘誓寺の広い境内で一服する。寺伝には、那須与一の孫の開基といわれ、表門の瓦には那須与一

由米の扇の紋が入っている。西へ川並バス停からさらに西進すると(武須比)精神社に着く。境内の左斜面にはつづら折りに観音正寺への参道がある。勾配のある山道は木段が連続していて、何度も休みながら高みへと向かう。途中、切り開いた展望地から冠雪の伊吹山や近江平野の田園風景が展開している。

広い参詣道に出て間もなく、西園三十二番札所観音正寺の境内に入る。平成5年に消失した本堂は、11年の歳月をかけて再興された。観音正寺の本尊は総百檀の彫像で、現今の乱世の様を憂い、人々を安心に導くため、本堂と共に復興された。

白飯の原産国はインドだが輸出禁止品。住職が渡印しての3年間に及ぶインド政府とのねばり強い交渉の結果、特別で百檀原木輸出の許可を得た。京都大原野に工房を開く佛師松本明慶氏により、一刀三礼の精神で彫刻された。六千手千眼十一面観世音菩薩は身の丈約3・5倍、光背・台座を含めると

織山から明神山を経て猪子山への縦走路



約6・3倍の大きさで色艶は兎草、落葉後2年以上経過してもその独特の香りを放っている。後ろ髪を引かれる思いで近江源氏の一族佐々木六角氏の居城観音寺城跡に選んだ。山上から山麓まで曲輪が段状に連なる城は、山上で東西1、山麓では約3、以上に及び日本最大級の中心だ。

世山城といわれている。

道を少し引き返し、途中からやぶのなかの急登道を登り、織山三角点に向かう。狭い頂上からは、北方に木立を通過して伊吹山の雄姿が望めた。

いよいよ、明神山から猪子山への尾根通しの縦走路に入る。何年前かの

大火事で山の様相は一変している。土はボロホロで立木がすっかり焼失している。今の季節はラクダ色の産毛状の草で山肌一面が覆われていて360度展望がきく。以前はうっそうとした樹間をときにはトラバースもしたはずが、眼下の尾根には一筋の道がくっきりと続いている。土留めと土壌崩壊防止の本段の連続には閉口し、特に地獄越の鞍部への上り下りはきつかったが、時々立ち止まって大パノラマの台地を歩く展望コースは疲れもふっ飛ぶ。

やっと次のピークに登り切ると、山名由来の明神を祭る社があった。勾配がなくなった尾根道は、やがて猪子山山頂へ。三角点の標識からすぐ北に、神が降臨したと伝わる「神の磐座」があり、裏に廻り込む西側には、坂上田村麻呂が鈴鹿の鬼賊討伐の際に安齋し折願したと伝えられる「北向岩屋十一面観音」のお堂があった。

ここは展望台にもなっていて、昔の大中湖の広さが一望できる。速く登巻湖の湖面がにぶく銀色に輝くのが望め



石段をくだって猪子山公園に出る。整備された公園内には古墳が点在している。街中に入るとJR能登川駅はすぐ先である。

(平成19年3月18日歩く)

△コースタイム▽

- 近江鉄道五個荘駅(30分) 弘誓寺(15分) 結神社(45分) 観音正寺(10分)
- 観音寺城跡(20分) 織山三角点(30分)
- 地獄越鞍部(20分) 明神社(25分) 猪子山北向岩屋十一面観音堂(45分) JR能登川駅
- △地形図▽2万5千11八日市・能登川(問い合わせ先)
- 東近江市五個荘支部観光協会 ☎0748(48) 6678
- 東近江市能登川支部観光協会 ☎0748(42) 9913
- 近江鉄道 ☎0749(22) 3303
- 近江タクシー ☎0748(32) 0106
- 観音正寺 ☎0748(46) 2549

押測から
鶴路山

一般コース(★★)
敷木 伸人

南伊勢町五ヶ所湾を見下ろす標高291・9の三角点峰である。その背北麓の斎田の里から稲穂をくわえて飛び立った鶴がこの山を越えて行き、磯部の倭姫に献上したとの故事が、山名の由来だといわれる。

いろいろな資料にも山中の指導標にも「かくろ」の呼称が記されているが、先の故事にちなむものなら「鶴の通い路」↓「つるじ」と、大和言葉で呼ぶたいところだ。

登路がわかりやすいのは、南の迫間隧道上尾根だろう。押測側登山口から山頂までは、約1・6キ。隧道上から



鶴路山付近図
2万5千縮 五ヶ所湾・相賀浦

の登りは少し急だが、あとは快適に歩けた。

樹相は、ヤブツバキ・シロダモ・ヒサカキ・クチナシ・ソヨゴ・クロガネモチ・イズセンリヨウ・イヌマキ・カクレミノ・ヤマザクラ・コナラ・ウラジロガシ・ウバメガシ・アセビ・テイカカズラ・シタキソウ等で、東尾根では、クリ・リョウブ・ヒメシヤラ・タイミンタチバナも、よく育っていた。

山頂からは、迫間浦、五ヶ所湾の展望良く、宿田曾の山向うに先志摩も、うっすらと見えている。頭を巡らすと局ヶ頂や龍仙山があり、北側の視界は狭いものの、斎田の里が望めた。

展望を楽しんだ後、内瀬浜を目指して東にくだる。10分程で尾根道が急坂になり、さらに10分程で平坦な峠に至る。指導標を見ると、右は迫間浦への道、左は内瀬浜への道、直進は「峠1・1km」とあった。

左の山腹を控えてくだった行だったが、細い道は埋もれかかっている注意を要した。その後、不明瞭な沢沿いの道を

山を仰いだりしながら、堤防道路をゆるゆる進んで行くと、本州最大といわれるハマボウ群落に出会う。7月下旬頃、薄黄色の花を一斉に咲かせるそうである。

正午になったので、伊勢路川の河川敷で弁当を食べた。水鳥たちも採餌にいそしんでいる風情だ。あとはひたすら国道260号線を歩き、朝車を停めた押測側登山口に向かうのみである。

途中、斎田の里で大蔵社(雲鶴の塚)を見た。白鶴のミニユメントが立ち、斎田いろはカルタの歌が紹介されている。「米作りはげめと導く、白鶴のくわえた稲穂 落(と)せし泉」斎田に戻った鶴は、その後千年暮らしたという。

春の日差しの下をずんずん歩いて行くと、押測変電所横の空地には、養蜂業の果箱がたくさん並べられ、蜂たちもさかんに活動していた。昔ながらの造りなのだろう

山頂より迫間浦・五ヶ所湾を望む



下りて行くと、峠から約15分の所に平坦な岩があり、内瀬浜や村島のビューポイントとなっている。

道に戻り、左に沢を見ながら10分程で、内瀬側登山口に到着。満開のキブシの花が迎えてくれた。山頂から堤防道路まで2キ位のようなうだ。干潟に集うマガモたちを見たり鶴路

か、石垣に囲まれた家や、蔵の建つ、迫間峠への道をゆっくりたどる。鶴路山を内瀬側を下り堤防に出たら約5キの行程を終えて、無事駐車地に戻った。山中の指導標によると、他に北側からの登路(さき倉から、内瀬からの)が二本と、迫間からの登路があるようだ。路線バスを利用する場合は、東(五ヶ所方面)行きの本数が、西行きよりも多い。(平成20年3月26日歩く)

▲コースタイム▼

押測側登山口(55分) 鶴路山(55分)
内瀬浜堤防(車道1時間15分) 押測側登山口

△地形図▽

2万5千1五ヶ所浦・相賀浦
(問い合わせ先)

- 南伊勢町南勢支所 ☎0599 (66) 1111
- 同企画商工観光課 ☎0599 (66) 1366
- 同地域サービスセンター総務室 ☎0596 (77) 0001

百名山の山へ

西吾妻山

一般コース(★)

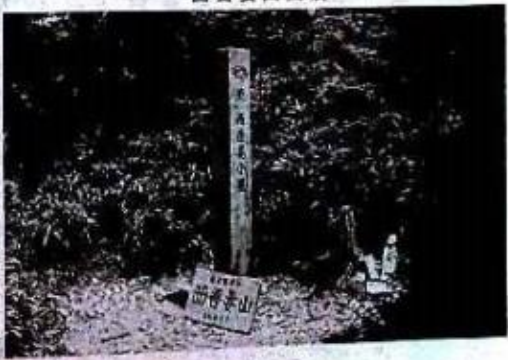
磯部 純

西吾妻山は吾妻連峰の西に位置し、東の一切峰山に代表される荒涼とした火山礫岩と違い、麓から山頂にかけては、オオシラビソの原生林が手つかずのまま残されている。高原状の山頂付近には数多くの沼や湿原が点在し、礫岩の原と緑が混在している山でもある。西吾妻山のピークはオオシラビソの林に囲まれて展望は全く無いが、そこへたどり着くまでの景観は見るものがあり、深田久弥の日本百名山の一つに挙げられている。ちなみに、「吾妻山」という山名は、出羽国の東の外れにあることから名付けられたという説、そ

の東にある家形山が東屋の屋根形をしている所から名付けられたという説などがあるが、その詳細は西尾氏が、本誌94号(64ページ)に解説している。9時に白布高湯温泉の天元台ロープウェイのりばに着く。準備をして9時20分のロープウェイに乗ると、標高920mの山麓駅から、標高1350mの天元台山頂駅まで5分間余で一気に登り、アッという間に山麓駅は下方に小さくなっていく。

天元台はスキー場として知られているが、6月から9月にもゴンドラ・リフトが運転され、天元台高原へ涼みに来たり、大凹へ花を見に来たり、百名山目指して西吾妻山へ登る人など大勢が訪れる。この日も月曜だというのにゴンドラは満員で、リフトに乗る人が連なっていた。天元台高原からリフト三基を乗り継いで標高1820mの北望台へ登る。ゴンドラのりばから北望台までは1時間程かけて標高差900mを1500円で乗に登れるが、何年か前、新ハイの昔のお嬢さん方3人は、

西吾妻山山頂



「下から歩かなければ」と、テントまで担いで、ロープウェイ山麓駅から北望台まで歩いて登ったとか、信じられない話だ。

リフトは運過ぎるほどユックリと登ってゆく。リフトの下にはヨツバヒヨドリ・ヤマハハコが咲いており、ノリウツギの花も残っている。三本目のリフ

トに乗ると、両側はオオシラビソの原生林。その中のコマツガ・ナナカマド・ダケカンバも大きく大きく見事、関西では見られない東北の山の光景だ。リフトおりばは北望台と呼ばれる所で、東の方に綱が組んであり、北方を眺めるようになっていて、ここから登山道が始まるが、入口には花の終わったハリブキやサンカヨウの実が成っている。登山道を登るとすぐ分岐がある。左をとると人形石に行くが、西吾妻山へ向かうには右のかもしか展望台へ

の道を登る。ウツソウとしたオオシラビソの岩の道を登って行くと、両側には針のような花びらをつけたモミジカラマツが途切れることなく続いている。あまりにも繊細な花なので写真に撮ったが、ボケていた。25分も花を見ながら登って行くと、突然林が切れて礫岩の原に飛び出る。「かもしか展望台」と呼ばれる所で、米沢盆地や吾妻スカイラインが見下ろせた。遠くに霞んでいる山並は朝日連峰や飯豊連峰かも知れない。ここから

中大嶽までは1000m程。三角点を踏もうと上方へ向かったが道は見付からず、やぶ漕ぎをするには濃い過ぎてどうにもならず、三角点点名「北吾妻」に会うのは諦めなければならなかった。かもしか展望台から西へ向かうと樹林限界を超え、高い木は見当たらない。湿原が広がり木道が付けられている。両側には名前のわからない紫の可愛らしい花が点々と、ワタスゲも咲いている。木道を20分も歩くと、人形石と西吾妻山へ向かう分岐。まずは西吾妻山へ向かうと右へ折れ、木道をくだって広い湿原へ下りた。湿原は大凹と呼ばれ、遅くまで雪が残る。「いろは沼」をはじめ、小さな沼が点在する。雪が消えるとお花畑と化し、多くの花が楽しめる場所だという。沼の周りにはワタスゲが咲き乱れ、斜面の何ヶ所かにはチングルマの種子花ばかりでなく、花の群落もあった。木道を歩く間、ネバリノギラン・ワタスゲ、名前のわからない紫の小さな花がこれでもかというくらいに咲いており、ミヤマアキノ



キリンソウやシラネニンジン・ミヤマ
シャジンの花も見た。

大凹南端の斜面の登り口に水場があり、冷たい水が流れている。ここから岩のゴロゴロした道を登る。道は急勾配の斜面に直線的に刻まれていて、足を上げるだけでひと苦勞。道脇のゴゼンタチバナの花を見ながらフウフウ言って30分も登ると、ゆるくなって濕原地帯に出た。ここにも木道が付けられていて、脇には花がいっぱい。休んでいたカップルに話を聞くと、千葉から花を見に来たとか。ワザワザ来ただけあって花の名前をよく知っていて、それまでわからなかった紫の可愛らしい花はミヤマリンドウ、オレンジ色の小さな蕾をいっぱいにつけた花はミヤマオトギリと、教えてくれた。近くにはウメバチソウ・タカネサギソウ・ミヤマシャジンも咲いていた。

木道をゆるく登って行くと、一段上には小さな沼がいくつもあり、ワタスゲが一面に白い花を開いている。木道が終わる磯岩の道になると、目の前の

やかに登って行くが、勾配が急になって登り切ると、オオシラビンに囲まれた八雲程の広場に出た。ここが百名山の西吾妻山の山頂だ。展望は全く無く、標高が2035メートルもあるとは思えないような山頂だった。

思い出せば、今から47年前に米沢で学んでいた時、この山頂を踏んでいるはずだが、その時の状況や光景は全く記憶に残っていない。西吾妻山は百名山なので、それらしく重厚な山頂かと思っていたが、山頂広場の東の外れ正面に「吾妻連峰最高峰 西吾妻山 標高二〇三五米」と書かれた木製の標識が立っているだけ。すでに12時を回っており、展望は無かったが木陰で昼食とした。

岩塊は「凡天岩」。この岩の名称を「欲界を離れた所にある世界」の意味で、「梵天岩」と書いた案内書・パンフレットがあるが、国土地理院、一般の案内書は「凡天岩」を採用している。360度の大展望で、岩上には大勢が展望を楽しみながら食事中。北を見る中大巖がすぐそこにあり、右手に接線のび、東大巖のピークを越えて、昭元山、烏帽子山へと続いている。右手には東吾妻山があり、その左手の間に雲を被った一切経山が見えている。登る西吾妻山は、南方すぐ近くになだらかな山容で横たわっている。

灌木のなかの岩ガラの道を抜けると広い磯岩の原に出た。この原の西外れに天狗岩と吾妻神社がある。かつて吾妻山は、月山・飯登山と並んで奥羽の三大霊場といわれていた。役ノ小角が吾妻山を開いたと伝えられ、天安二年(818年)、藤原義円が唐松沢に吾妻山通拝所を設けて成就院と称し、その後、吾妻信仰が盛んになり、米沢藩では西吾妻山を大日岳と呼んでいたと

らゴンドラに乗り、2時間かけて西大巖へ登って、ここまで来た」とか。西吾妻へ登るには白布高湯から登るのが一般的で、学生時代には西大巖を越えて松原湖へくだったこともあったが、裏磐梯からゴンドラを使って登れるとは思ってもいなかった。その後、食事を終える頃に登ってきたのは、定年になって百名山を登り始めたという単独の男性。標柱の写真を撮るとすぐくっだって行った。広場の上空にはアキアカネが飛び交い、時折ウグイスの鳴き声が響いていた。

45分間休み、凡天岩へと引き返す。この日、中大巖の三角点を踏むはずが道が無くて踏んでいなかった。西大巖の三角点だけでも思ったが、往復すれば天狗岩まで戻るのが2時間はかかる。リフト最終の16時30分にはギリギリ。どんな事態で遅れるかわからないので西大巖を踏むことを諦め、後ろ髪を引かれる思いで引き返した。

凡天岩からくだり、もう一度湿原の花を見て、空になったペットボトルに

大凹の冷たい水を詰める。帰路は、三角点を踏めなかったこともあり、せめて人形石を見て帰ることにした。この岩も47年前に見たはずだが、あたりの光景は全く記憶に残っていない。雄大に横たわる東大巖から一切経山の姿を見納めとして、北望台へとくだった。

山麓駅へ着いたのは16時ちょうど。吾妻スカイバレーから裏磐梯へ。さらにゴールドラインで磐梯山を越え、磐越自動車道の磐梯河東インターから、一路宇治へ向けて車を走らせた。

(平成18年8月7日歩く)

△コースタイム▽
白布高湯山麓駅(ロープウェイ5分)
天元台高原(リフト三本40分) 北望台(25分) かもしか展望台(1時間) 凡天岩(25分) 西吾妻山(25分) 凡天岩(50分) 人形石(30分) 北望台(リフト三本40分) 天元台高原(ロープウェイ5分) 白布高湯山麓駅

△地形図▽
2万5千1天元台・吾妻山

凡天岩下の湿地帯の池



いう。この名残が吾妻神社なのかも知れない。ただ神社は西の外れにあったので、そこまで行かずに遠くから手を合わせただけで、下の湿原へ下りる。木道を歩いて、木道が切れるとオオシラビソ林のなかに入る。しばらくゆる

静かな展望台

はた たち やま

旗立山

一般コース (★★)

柴田 昭彦

旗振り通信について調べていると、「旗」を冠した山で、相場通信とは無関係な山が見つかることがある。旗立山も、その一例である。命名の由来が伝えられている旗立山は次のおりである。

- ・大阪府東大阪市(484) 30
- ・神奈川県三浦郡葉山町(29) 30
- ・神奈川県鎌倉市(源氏山、御旗山、93) 30
- ・千葉県安房郡鋸南町(旗立、行山) 93
- ・千葉県いすみ市(発振峠の西、95) 95

葉山町の旗立山(鏡指山)は、治承四年(1180)、三浦義澄らの一行が返子の小坪で、畠山重忠と合戦となり、和解後、この山の上に軍旗を立てて氣勢を上げたのがその名の由来であるという。

鎌倉市の旗立山(源氏山)は「新編鎌倉志」によれば、奥州征伐(前九年の役、十一世紀)に赴く八幡太郎義家が、その途中で当山山頂に旗を立てたのが由来とし、「鎌倉懐勝考」は旗を立てたのは源頼義・義家父子であると述べている(奥富教之「鎌倉史跡事典」)。

鋸南町の旗立山(行山)は、治承四年、先着した北条時政らが、徳重胆の旗を立てて目印とし、源頼朝が来るのを待った場所という。

いすみ市の旗立山は、天正十七年(1589)、発振峠の合戦で、万木城主土坂右京大夫頼春が南から攻め寄せる里見義隆派連の房州勢に対してこの山に布陣し、山頂に本宮を構えて老松の梢高く家紋の旗(枯木の紋書たる水色の旗)を掲げたことに由来する

東大阪市の旗立山(ぼくらの広場)は、本誌96号で紹介している。東大阪市委によれば、「東大阪市の歴史と文化財」の旗立山についての記述の根拠は、次のとおりである。

「南狩遺文」所収の紀伊性応寺文書の延元二年(1337)三月一日付の後醍醐天皇勅旨の中に「於繁尾并神感寺城郭」と見えることを根拠として、南朝方の楠木正行と北朝方の高師直の軍勢による正平三年(1348)の戦いの際に、山城であった神感寺付近で戦いがあり、見晴らしのよい所に軍旗を立てて見張り場としたのが旗立山の由来と推定されているということである。ただし、確実な資料はないので、推定はあくまで可能性を示すにとどまるといふ。

一方、インターネット情報で「東大阪市政だより2004年10月15日号」のハイキング案内に、「家康の大阪城攻め本陣あとの旗立山」とあった。東大阪市委に確かめてみると、「枚岡市史」にあるように、家康の豊浦の本

という(内田栄一「房総のやまあるき」)。

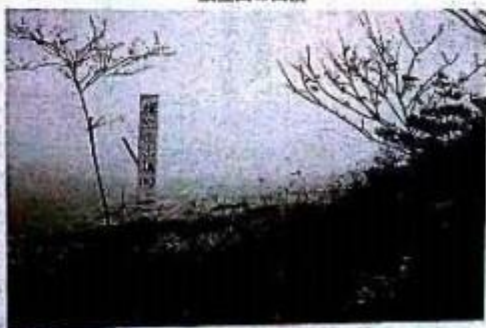
それでは、今回紹介する、大阪府阪南市・泉南郡岬町境の旗立山(標高392)の由来は、いったい何であるのか?

「田山川の自然を大切にする会」(平成17年設立)事務局の担当者に電話で尋ねると、同会の前身であるボランティア団体「田山川を守る会」(平成12年設立)を、阪南市の委託を受けて結成した際、田山川の上流から祖石山に連なるハイキングコースの整備・植物調査と名札かけを行ったという。付近の山や滝などが従来は無名で、呼び合うのに不便だったので、活動仲間同士での地点の特定のために、新たに命名したということである。

旗立山については、山頂に布切れを掲げ、北麓の「箱の浦」の宅地から見上げるとよく見えたということと新しく名付けたという。

現在では「田山川を守る会」は「田山川の自然を大切にする会」に変わり、

旗立山の山頂



陣は街道近くの庄屋中村家があり、本陣を山の上に移したという記録は無く、正しくないという。

なお、南北朝の戦いも主戦場は一般には四條畷といわれており、地名のいわれの推定も確かな根拠があるわけではないという。地名の由来の裏付けは難しいことがわかる。

ハイキングコースの整備は、大切にすることを別の有志グループが行っているという。

南海本線箱作駅で降りる。駅前の国道には出ないで、右手の細い浜街道に入る。最初の辻で左折し、国道を渡る。次の辻で美容室の右側の細い道に入る。すぐのY字路は右をとり、あとは道なりに南に進み、茶屋川の左側の道をたどる。道は途中で川から離れるが、再び接近して橋を渡る。上って行くと、東新池の東側に出る。左へ進み、第二阪和国道を上に見て抜けると、道が左右に分かれている。右折し、第二阪和国道の南側に沿う道を歩く。行き止まりとなるが、少し手前の左側に下り階段があって降りて行く。谷沿いの山道となる。途中で本谷を離れて、右の枝谷に入る。やがて峠に着く。左側に目印があり、ハンガークコースの入口だが、尾根にはシダが茂っていて歩きにくいので、ここでは、峠を越えてくんだり、大河内池の前に入る。

「田山川の自然を大切にすべし」といふのが、正式には「おこちいけ」であるが、地元の水利組合や農家の人達は、「おこせいけ」と呼んでいるという。正式名は呼びにくいので、方言で言いやすく縮めて生じた俗称で、魚名とは無関係だといふ。

池の横から林道を上がると左手にゲートがあって、ハンガーコースを案内している。ゲートの横から入る。左に回り込んだ道は山腹をからむ広い道になる。道標の所から左に一段上がると道は細くなり、左へ急坂を登ると右手に道は続き、尾根に出る。道標が



左に少し上がると小ピークで、いったんくたつて、鞍部からやや左寄りに見える小ピークに進むと、そこが由良要塞跡である。

展望台に「由良要塞地区」「陸軍省」「明治二十二年八月」「第五十二号」と刻んだ石碑がある。明治後期から終戦まで、紀淡海峡付近(井関町・加太・和歌山・洲本)と鳴門海峡付近(福良・瀬戸)は由良要塞地帯と呼ばれ、一帯は無断撮影禁止区域であった。

展望台から引き返し、尾根道をたどる。コース名の由来であるハンガーが要所にある。

ゴンゴツした岩のある場所を抜けて、松が見られるようになると一般向きコースに合流する。右をとり、組石山へ向かう。キャンプ場分岐を過ぎて、由良要塞地区域標の横を通り、Y字分岐に出る。右の急登を上り切ると、「左田山稲荷」「何某」と刻んだ石碑がある。ここから北の尾根を田山谷へくだる道があり、「近藤の山」(山と溪谷社、昭和33年)で紹介されていたが、今では完

全に廃道である。

南に進み、次の分岐で右へ上がると北展望台に出る。北側の展望がよく、昼食に適している。南に行くと、組石山の頂上に着く。

山元六合夫「阪南市誌」―「親が子に語る阪南市史」と民俗・歴史・地理―(平成13年、307頁)によれば、「阪南市の市街地から見ると台所で使う組石のように山頂が平らに見える山」だといふ。実際には、板状節理によって出来た、組石のように平らな石が多いことが山名の由来ではないだろうか。

大福山と札立山が米相場の旗振り場であったという和歌山市直川地区(奥相)の西川翁(平成18年、92歳で逝去)の伝承(HP「ショウタンの山歩録」)が



由良要塞地区の石標(旗立山)

理者の聞き取りによる)が残るが、飛脚伝承と混同した可能性もある。

北へ戻り、分岐で左をとり、旗立山に向かう。途中、大河内池・箱作方面への下り口が三ヶ所もあるがすべて見送り、縦走を続ける。途中で「松茸山につき入山を禁ず」の看板がある。10月・11月の入山は避けよう。

縦走して、明瞭な道をたどると、北山方面との道標分岐に出て、左に進むと旗立山の山頂(標高391.5m)である。北展望台と同じように見晴らしがよい。

旗立山から戻り、最初の道標分岐(箱作90分)からくだらう。途中、滝・石・坂などの名前プレートが設置されていて、「田山川を守る会」の発足当時のメンバーによって新たに命名されたものである。

登山口には橋が架かり、案内板もある。橋から上流には「名水田山川」がある。大河内池の横を過ぎて、第二取和園道からの車道に合流する。車道を横断して、今池に向かう脇道に入る。

今池の傍らには牛神が祀られている。右側の階段を下りて、園道の歩道を歩

箱作小前の交差点で信号を渡り、田山稲荷神社の参道を進む。新しい鳥居が立つ。遊米橋を渡ってすぐ右に入ると、下には遊米の滝がある。平常は水量が少ないが、大雨の後に行けば、大きな岩壁を背にして、勢いよく「遊び来たる」ように落下する9枚の滝が見学できることだろう。「田山川の自然を大切にすべし」が滝口への歩道を整備している。

田山稲荷神社は、田山の姥ヶ谷という所に、寛保年間(1741~44年)に京都の伏見稲荷の分霊を勧請して創建したと伝わり、明治26年に現在地に移ったという。旧暦2月の初午(新暦3月)には、今でも厄除餅投げが行われている。昭和の初期までは、和歌山の六十谷方面から大福山を経て徒歩で餅拾いに行ったという古老の話が伝えられている。

神社から西に出て右折し、再び右の



TRAVEL GALLERY since 1979

山と語りながら山を旅する

旅の本棚 山旅

ゆとりの行程でゆっくりと歩きます

No.0411
ステップ8
伊丹又は関西空港
(午前出発)
雲上の楽園 五色ヶ原
からトムラウシ

期日 7月9日(木)~12日(土)
期代 145,000円(税込)

No.0343
ステップ6
大阪梅田 8:00発
京都八条口 9:15発
底沼・花の季節に歩く
至仏山から燧ヶ岳

期日 7月10日(木)~13日(日)
期代 69,800円(税込)

No.0348
ステップ5
大阪梅田 8:00発
京都八条口 9:15発
後立山温泉を歩く
唐松岳から五竜岳

期日 7月22日(火)~25日(金)
期代 69,500円(税込)

No.0354
ステップ5
伊丹空港
(午前出発)
みちのく・秀麗なる花の名峰
月山と鳥海山

期日 8月7日(木)~10日(日)
期代 130,000円(税込)

No.0431
ステップ8
伊丹又は関西空港
(午前出発)
巨大古 葎高の絶景
ニベツツ山と石狩岳

期日 8月28日(木)~31日(日)
期代 145,000円(税込)

(特集) 夏山を歩こう
下記以外のコースも多数ございます。
お問合せ下さい。

No.0346
ステップ6
大阪梅田 8:00発
京都八条口 9:15発
火打山から妙高山

期日 7月19日(出)~21日(休)
期代 55,500円(税込)

No.0249
ステップ4
大阪梅田 8:00発
京都八条口 9:15発
中央アルプス・花の秘峰
三ノ沢岳のお花畑

期日 ① 7月20日(出)~21日(休)
② 8月1日(出)~2日(休)
期代 39,800円(税込)

No.0351
ステップ5
大阪梅田 8:00発
京都八条口 9:15発
ゆったり歩く
鹿島槍ヶ岳

期日 ① 7月28日(出)~31日(休)
② 9月20日(出)~23日(休)
期代 62,000円(税込)

No.0362
ステップ6
伊丹又は関西空港
(午前出発)
ホテル地の涯と
斜里岳・羅臼岳

期日 9月2日(火)~5日(金)
期代 148,000円(税込)

**2008夏~秋
山旅パンフレット**
ご購入下さい!!(無料送呈)
下記コースほかゆとりの山旅
企画を多数掲載!!

No.0245
ステップ3
大阪梅田 8:00発
京都八条口 9:15発
花の八方尾根から
唐松岳

期日 7月19日(出)~21日(休)
期代 54,500円(税込)

No.0257
ステップ3
伊丹空港
(午前出発)
みちのくの花旅
蔵王連峰を歩く

期日 8月22日(金)~24日(日)
期代 110,000円(税込)

世界の国立公園を歩く
2008秋~2009春

●9/5発8日間

●9/12発10日間

●10/4発10日間

●12/3発●3/5発

●12/27発8日間

●2009/2/2発14日間

●2009/3/5発10日間

●2009/6/11発7日間

上記他多数コースございます。
パンフレットをご請求下さい。

道に入り、坂池の橋を通り、線路沿いの道に出て右に進む。途中、加茂神社に立ち寄る。弘仁四年(813)に、京都の賀茂神社の分霊を勧請したものである。境内には、慶長十五年(1610)の灯笼がある。参道の入口、道の分岐点には「賀の神」が祀られている。

浜街道に出て左折し、観音寺の橋を通り、明治橋を渡り、酒店の所で右折する。大阪府指定文化財の木造地蔵菩薩座像や古い板碑のある宗福寺のそばを経て、箱作駅に着く。

(平成20年1月19日・2月11日・2月23日・4月12日歩く)

△コースタイム▽
南海箱作駅(40分) 大河内池(2時間) 祖石山(20分) 旗立山(1時間) 大河内池(30分) 田山稲荷神社(30分) 箱作駅

△地形図▽2万5千尾崎・淡輪



●訂正とお詫の 前100号(初夏) 73ページ「愛宕山参詣道(北合峠道・出雲峠道)」のコースガイドの付近図に幾つかの誤りがありました。
左記に筆者の正確な手書き地図を参考に付しておきますので、ご確認ください(北合峠、北小峠山、南小峠山の位置が不正確でした)。(編集室)

やせらび

山に関する最新の情報をお寄せください。1行15字以内、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の会員番号・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字 小林波瑠三

毎回訪れては新たな発見がある

四日市南部丘陵公園。梅林、今年の花だよりはいかがか。2月28日早朝、近鉄内部線治駅下車。

施無畏の光明寺より泊山市民公園を経て、二等三角点(本誌96号に略記)へ。点から南の尾根は未訪であり、興味津津。市水道局配水池の周縁を伝う。その先が愛宕大権現の祭祀警壇。少し離れて展望台、かたわらに案内板が立つ。推奨するセントレアは、運悪くその方向に朝も

やがかり断念。

なおも南下して住宅街の小古曾らに下山。折しも愛宕を連れて散歩に出ようとする妙齢の女性とバツタリ。三方、山登り里歩きが趣味でして……と語りかければ、采女の城山はご存知でしょうか、お薦めです。街道の辻まで同行しますわねと。ご厚意に感謝。辻からは、内部川左岸に出て西進する。

しばらく行くと右手に采女城跡の碑があり、登り口を示すのでためらわずに取り付く。一の

郭には悪長伝説の深井戸が実在し、八の郭では内部川が望まれた。また、三の郭東端に梯子段と捨てロープを発見。取りすがって降り、公園の方に続くはずだと歩き出す。

シダ群生地を通り、雑木林を抜けたあと、にわかに見界が開けて遊歩鉄塔の基にたどり着く。ここだけ切り分けがあり、北から西が明るい。前方の三角はチャペルの塔か、眼下に波木南台が広がり、遙かな鈴鹿山脈は白銀に輝く。眺望まさに天下第一品、時計よ止まれ。

この先の立入禁止は横を掻き、跡跡をほぼ順路に進めば、見覚えがあるピークに到達。いつものように急転直下、案内の人の

中井均著「近江の山城ベスト50を歩く」(サンライズ出版)

によると、近江の山城は眼下に約1300ヶ所あってその城跡が確認されている。その数は全国屈指で、近江国は淡海の国であるとともに「城の国」でもあるという。

十五世紀初頭、伊吹山南麓の米原市弥高にある上平寺城の京極高朝が北近江の守護であり、湖北一帯を支配していたが、家督争いに果して蒲原上原信光を失脚させた。かわって東浅井郡湖北町伊部の小谷城主浅井亮政が江北支配を手に入れたことで勢力は大きく飛躍した。

蒲生郡安土町石寺の織山(433M・三等三角点)の観音寺城には、近江国守護で近江源氏嫡流の佐々木六角氏が居城していた。南近江を治めていたが、京極氏や浅井氏と境目の戦いを繰り返していた。東から西に向かう場合は必ず観音寺城の麓を通らねばならず、六角氏の威力は偉大であった。

城は織山の南斜面に築かれ、中央の谷筋の大手道を中心に山頂周辺の本丸跡を築くとして扇を

開いたように鱗状に無数の曲輪を配置している。現在南の尾根上に伝平井丸と池田丸曲輪跡がある。

京極・浅井・佐々木の巨大な居城を中心に、領内の里山には出城としての山城が次々に築かれていた。その後は安土城・八幡城・彦根城などと続く。

この木には今まで知らなかった近くの里山の山城が多く紹介されている。驚いて本を片手にいろいろ歩いてみる。山城の遺構・石垣・堀切・虎口・眺望・役割等を見ると、当時のロマンが思い起こされる。

これから熟年者が増える。いつでも登れる里山の山城をメインにしたエリア別徹底研究で、近畿の山城を連載していただけないかと思っている。

(近江八幡市 若野 明)

4月早々、北叡山系南東の若山(316M)へ登った。別称大岡山である。阪急高槻市駅から歩き始め、水無瀬駅へくだる標準コースをとった。途中の見

所でゆっくりしたため、基本タイム4時間に対し、7時間50分を費やした。

途中、注目した場所としては、八丁の松原、浄音寺、幾つかの丁石、金蔵寺跡、秀吉の忘れ岩、北旗一の展望台、三川合流地帯の展望地、若山神社などが挙げられる。

北旗一の展望台では眼下に淀川の流れが楽しめたし、特に四〇階建の高層マンションが立つ補葉地区、僕の住居近くの船橋川口がしっかりと認識でき、同行の家内も感動していた。三川合流地帯では背割堤の桜が遠望され、八幡山も眺められた。

若山神社では横間から天王山を展望したのであるが、ある人から「こちらは西天王山で通称西山、こちらは東天王山で東山、あちらは東天王山で東山、有名な山崎合戦の前までは山崎山と呼ばれていた」と教えられた。若山神社ではちょうど桜まつりの最中であつた。

実は、若山は初めてではなく、昭和45年に子供3人(6・10歳)を連れてこの大岡山コースを踏

破している。その時、家内は都合で参加していなかったが、今回は、いつも見ている山なのだから同行するようにと引っぱり出したのである。家内は前述の展望などに感激していたが、若山神社への下り道は厳しさと悲鳴を上げ、「よくも幼い子供達がこんな急坂をくだったものね」と言う。もっとも30年前の僕は38歳だったし、現在も山歩きは慣れっこなので気にはしなかったのだが。

一方、若山山頂からの展望は無く、三角点も樹林の茂みに隠れているのに失望させられた。帰毛した翌日には淀川べりへ出て、家内と若山を眺めながら、展望場所を指し合ったり、パノラマ写真を撮ったりして、余韻を楽しんだのであつた。

(枚方市 栗谷 宏)

4月6日、村田リーダーのもとで、丹波の弥十郎ヶ嶽に初めて登った。街では桜が満開であるが、山では清楚な木々の花が物静かに

咲き始めていた。そのときの山行時情を拙いながらも七言絶句に詠んでみた。

リーダーに謝意を表す。

拙作

四月初登弥十郎
同人永日東傳伴
花枝葉葉昭晴昊
難離遊氣新草芳

(意)4月、初めて弥十郎ヶ嶽に登った。志を同じくする仲間と、ブラブラ歩き回る日永の一日を楽しんだ。咲き始めたばかりの花を摘んだ枝には、未だ葉は伸びず、晴れた空に開かである。また、下山後の麓では、春の穏やかな気によって晴又出た草が芳しい。

4月29日、村田リーダーのもとで、京都府北部の烏ヶ岳と鬼ヶ嶽に登った。いずれも標高536M、544Mと低山だが、筆者は初めてである。貴天のはずが春色が鮮やか、周囲の景色も賑わいだ。鬼ヶ嶽での昼食後、宮尾谷に下山し、古梵の観音寺に参拝した。実は同行の

中川光郎氏の口添えで、本堂を窓々開けて頂き、住職から由緒来歴をお聴きし、しかもお茶菓子まで頂戴したのであった。最後は福知山温泉入浴にたっぷり1時間半を充当していただき、まさに恍惚の時間を享受した。リーダー、中川氏、住職に謝意を表したい。

拙作

鳥居鬼城初登山

清和燗湯臨入道

澄心古梵観音寺

誓符湯湯池光園

(意)鳥ヶ岳、鬼ヶ城は初めて眺る山。4月の春霞の景色は俗世間から隔たっている。下山後、心を澄ます古刹・梵刹の観音寺に参拝した。その後は暫し温泉に浸かったが、正に恍惚の時間を享受した。

(京都市 小山誠次)

関西にボンボン山があるが、私の住む埼玉県の近所にもボンボン山がある。関西のボンボン山は有名だが、こちらのボンボン山は有名ではなく、標高は約

304。

この山は私の住む隣町の吉見町にあり、玄関から50歩で町境界を越えて吉見町に入る。吉見町には「吉見百穴」という有名な指定の史跡がある。岩壁に掘られた横穴が219個あり、これは古墳時代の墓群である。私の住む所は武蔵野丘陵地帯で、丘のような低い山が「ポコポコ」とあるが、これを山と呼んでよいかどうかかわからない。

この一角にボンボン山があるのを最近知ったので、吉見百穴からこの丘陵をミニ縦走してみた。丘陵は人の手が入っておらず、自然がそっくり残っている。いろいろな花が咲き鳥も多くいる。しばらく行くと黒岩墓群があり、これも岩壁横穴墓群である。途中、山に隔まれた八丁湖があり、静かに木の影を湖面に落としている。この丘陵の外れの一角に出ると立派な神社があり、神社裏手の磐石が一段と高くなっている。ここがボンボン山の山頂である。そこから荒川流域のどかな平野が見渡せる。

関西のボンボン山は山頂を歩くと「ボンボン」と音が出るのでその名が付いたと誰かに聞き、私も登ったことがあるが、音がするようないような……。こちらのボンボン山も露岩の上を歩くと「ボンボン」と音がするので、ボンボン山の名になったと説明板にあるが、歩いてみるとやはり、音がするようないような……。よくわからない。

埼玉県には御嶽山・秩父御嶽山・秩父嶽ヶ岳・長嶽アルプスという名の山があり、秩父嶽ヶ岳はけっこう困難な岩峰で、埼玉県も他の県にバカにされないよう、頑張っている。

(熊谷市 山形 明)

宝塚駅から阪急田園バスに乗り切畑南口で下車、検見山と大峰山を踏んで桜の園にくぐり、武田尾駅へ帰るコースを、病気が快癒した西條さんと仲間達で歩いた。

(吹田市 木村太郎)

2月2日、岐阜・愛知県境の鳩吹山と納古山を歩いた。豊りだが道標がきいて中央アルプス、

御嶽・乗鞍・白山ときれいに見えた。

3日、朝方の雪で、養老の山も15%程の積雪。飯盛山から田代越へと一廻りした。

9日、福投山の北の折平山と天狗岩に行った。雪が強く降り、掃路は4時間もかかった。

10日、湖北の赤坂山に行った。雪が過度にあつてよかった。

11日、またまた金華山に行つて西山にも三角点を確認できた。岐阜県の真下にも陸軍省の三角点が埋められていると聞いた。16日、三因山近くの岩室堂から元岩里経由で三因山へのルートを確認して帰る。マンサクが咲き出していた。

17日、三輝山に例会で行った。けっこう雪があつて霧水も期待したが雪水になつていた。奈良側から多くの人に来ていて、山頂は賑わっていたが寒かった。23日、腰ヶ岳に行くも雪が多く難航した。クマのような大きな足跡が見られたが大半はイノシシだった。

24日、愛知の東部、寒快山と

碓掛山に行つたら風が強かった。

3月1日、美濃・尾張・三河境の三因山へ、2月16日の尾根から歩いて行き、山頂近くで倒われていた椿を見た。

2日、奥三河の鳳来寺山と宇津山に行く。仏坂峠と宇津山山頂の間にて、新たな御料局の三角点を見た。

8日、垂井の菩提寺と藤原町の山麓散策。藤原ではすでに花が12種ほど確認できた。

9日、例会で伊勢の一等七洞山へ行くも、きつくはないが距離が長かった。

15日、奥三河の岩谷山、平山明神山、大幹山、鹿島山へと縦走した。

16日、藤原岳で自然観察。セツブンソウ・フクジュソウほか10数種の花が見られた。

22日、飛騨古川の安峰山に行つた。穂高付近の北アルプスがよく見えた。

23日、御前岳の南の葉ヶ岳に行つた。10時間弱かかったが、距離も長かった。行った9人は御前岳にすでに行つていたので

今回は行かずに戻った。

29日、瀬戸市の岩果山へ。袖道で行つて、別の袖道をくだる。袖道歩きが好きなお出会う。花も多く20種も咲き出していた。

(海津市 山田明男)

熊野古道が世界遺産に登録された後、みんなで歩いてみたいと、「紀伊山地の歩道道を歩く」と銘打つて例会を実施している。3年余を経て、先日5月18日の第18回「五番関から阿弥陀ヶ森」で、日数35日間を費やしたことになる。

紀ノ川から歩き始め、「紀伊路」「中辺路」「小辺路」「大辺路」「伊勢路」の順に、日ばし古道は全て歩き通してきた。

4月から「奥越道」に入り、この日は日帰りて女人精界の大峯山寺の山上へ所を越えた。今までと違って男性ばかり11人でもの足りないような何か違和感を感じた山行であった。五番関へ洞辻茶屋間および山上ヶ岳へ阿弥陀ヶ森間に出会ったのは5人だけ。しかし、洞川

実感した。その日は納道員などを背負い、張り切つて歩いた。帰宅した翌日に両膝に痛みが出て、病院へ通うことになった。

背骨を骨折した後、去年春から山行を再開したが、この間に何度かの病院行きがあり、満足にゆく山行ができない。通院中で医者に安静を言われていながら、例会を強行したこともある。山中で何かアクシデントが発生した時、対処できるか心配ない。リーダー失格と言つていいだろう。

山折知識乏しい、山行経験短い私が案内できる、初級向きコースを中心に山行計画を実施してきたが、「ファミリアハイター」を今年限りで終了したいと思う。その後は、他リーダー諸氏の山行に参加して、今までと変わらせずに、会員の方々と楽しく通つてみたいのです。

(吹田市 木村太郎)

2月2日、岐阜・愛知県境の鳩吹山と納古山を歩いた。豊りだが道標がきいて中央アルプス、

温泉からの参拝道では行者や信者が大勢来ていて、出会うたびに「よう、お参り」とあいさつして行く。当方はお参りが目的ではないので、「ごんには」と普通に返すしかない。新崖絶壁の西の頂で休憩していると、「ぶら下がらないか」とロープを持ってくる。修行に来たのではないので、「おおきに」とは言いながら、丁寧に断つた。

大峯山寺の「女人禁制」については、本誌85号で特集として記述したが、やはり今でも全く進展していない。

同行した人からは、「こんなすばらしい山にいつまで女性はお入れないのか、来たらみんな喜ぶのに」と悔しそうに言っていたのが気にかかった。

それほどにこの山は良い。晴天下の一等三角点近くのササの広場で、周囲の穂村ヶ岳・大日岳・大天ヶ岳からの四寸岩山の山並を眺望し、静かでもやや寂しいランチタイムとなったのである。(岐阜市 村田智彦)

山行計画 (7・8月)

新ハイキングクラブ49期

山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは、会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確保のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申込み先に連絡してください。休日の悪い日、幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰り場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)

- ・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
- ・入院保険金 日額 5000円
- ・通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病気の発覚(詳細は本部まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名(正確に記入すること)
期日
住所 〒
氏名
会員番号
(会員でない方は会員外と記入)
血液型
電話番号・FAX番号
生年月日
緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご必ず自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込みてください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にいたします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないためです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込みました方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。お断りが無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
(初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
(一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
(中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
(やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(8〜7時間コース)
(健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)の当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準により各自で判断してください(保から連絡はしません)。再降り山行の各自は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようにお願いします。

7月	行先	費用	リレー	マク
2(例)	丹波・大鼓山	24	木村	
3(例)	台高・白鷺岳	18	西上	
4(例)〜7(例)	北アルプス・唐松岳〜五竜岳	24	村田	
5(出)	若狭・青葉山	24	狩野	
5(出)	奥美濃・大日ヶ岳	20	鷺見	
10(例)	室生・曾爾高原〜古光山	26	西上	
12(出)〜13(例)	浜名湖一周サイクリング〜館山	7	山口	
13(例)	鈴鹿・鏡子ヶ嶽	24	森脇	
13(例)	白山南西・取立山〜こつぶり山	*10	山田	
13(例)	鈴鹿・元越谷(沢)	*	岩野	○
20(例)	越前・日野山	40	村田	
25(例)	奈良・大園見山		村田	
26(出)	若狭・大日岳	*	高島	
26(出)〜28(例)	北アルプス・馬場島に遊ぶ	7	古賀	
27(例)	鈴鹿・お金明神〜下谷尻谷(沢)	*	岩野	○
31(例)〜4(例)	北アルプス・徳本峠〜蝶ヶ岳〜常念岳	24	村田	

*リレーカー山行

8月	行先	費用	リレー	マク
2(出)	湖北・伊吹山	20	鷺見	
1(例)〜3(例)	白山南方・三ノ峰〜別山と荒島岳	*10	山田	
3(例)	比良・八潮の滝めぐり		桑	
7(例)	大峰・無双洞〜行者遺岳	26	西上	
9(出)	丹波・多福寺山	24	村田	
9(出)	若狭・久須夜ヶ岳	*	高島	
10(例)	鈴鹿・佐目小谷(沢)	*	岩野	○
10(例)	室生・ダム湖畔サイクリング〜布生山	10	山口	
10(例)	湖北・ブンゲン	24	森脇	
13(例)〜17(例)	北アルプス・双六岳〜三徳山〜鹿野山	24	村田	
22(例)	京都西山・太閤道〜ギロバチ峠		村田	
23(出)	越美・能登白山	20	鷺見	
24(例)	鈴鹿・神崎川〜ツメカリ谷(沢)	*	岩野	
26(例)	六甲・土橋割峠〜打越山		仲谷	
30(出)〜31(例)	越前・藤原山・鶴ヶ山を登る〜池〜三間ヶ岳	25	村田	
31(例)	北摂・天王山		木村	

*各計画の概要は90ページ以降に紹介している。

―上小池(車) 勝原民宿

費用 約18000円(交通費・宿泊代等)
地形図 2万5千:北小松・比良
系 山(明文社)「比良山系」
◎茶 康夫

8月3日(日) 日帰り
集合 J.R.近江高岡駅9時00分
(9時03分発) 旭行のバス
に乘車)

比良を歩く88
八洲の滝めぐり(中級向き)
8月10日(日) 日帰り
集合 422号線佐日小谷出口
広場7時30分
コース 大橋―佐日小谷―佐日峠
―ダイジョウワークレング
―ラー 佐日小谷出口(観音)
―滝流シューズかき道トレレ
―フラジール必携
費用 交通費各目(保険料等)
地図 昭文社「観音所・霊仙・
伊吹」
係 ◎後藤康幸 明 ○山田達三
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

サイクリング&登山⑧
室生・ダム湖畔と布生山
(一般向き)
8月10日(日) 日帰り

―上小池(車) 勝原民宿

費用 約22000円(京都から)
地形図 2万5千:北小松・比良
山(明文社)「比良山系」
◎茶 康夫

8月7日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原駅前中央口
8時05分
コース 橿原神宮前駅(バス)登
山口―水原の滝―無双滝
―奥飯塚分岐―行者湯岳
―行者湯小屋―林道終点
中ノ設谷(バス)橿原神

大峰・無双滝から行者湯岳
(中級向き)
8月9日(日) 日帰り
集合 J.R.京都駅八条口団体バ
スのりば7時40分
コース 京都駅(バス)赤野―多
福寺―東コース―シダ巨
木林―多福寺山―西コー
ス―立江地蔵―登山口
(バス)京都駅(解散18
時頃)
*歩行2時間30分、帰路
入浴あり
費用 約35000円(バス・入
浴代)
地形図 2万5千:貴山
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝
申込み 〒61010121

近江の山シリーズ⑩
湖北・フングン(中級向き)
8月10日(日) 日帰り
集合 近鉄桔梗が丘駅南側8
時30分
コース 近鉄桔梗が丘駅(サイク
リング)―曹達ダム湖畔―
百々―古々川(林道)―
登山口―布生山―登山口
(サイクリング)―林道―
布生―長瀬―比奈知ダム
湖畔―桔梗が丘駅(解
散16時頃)
費用 交通費各目(自転車レン
タル希望の方3000円)
地形図 2万5千:倶利伽羅山
係 ◎山口敬明
申込み 〒51810755
名張市緑が丘中144
山口敬明まで
*定員10名
*自転車レンタル希望者
は3名まで

宮前駅(解散18時頃)
費用 約28000円(バス代)
地形図 2万5千:妙山
係 ◎西上南和○前田佳子
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(會員16名)
涼しい谷筋から奥飯塚の磯で、
新緑の自然林の涼しげな景観で暑
さをしばし忘れられます。雨天中止

丹波・多福寺山(一般向き)
8月9日(日) 日帰り
集合 J.R.京都駅八条口団体バ
スのりば7時40分
コース 京都駅(バス)赤野―多
福寺―東コース―シダ巨
木林―多福寺山―西コー
ス―立江地蔵―登山口
(バス)京都駅(解散18
時頃)
*歩行2時間30分、帰路
入浴あり
費用 約35000円(バス・入
浴代)
地形図 2万5千:貴山
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝
申込み 〒61010121

平一弓折岳―双六小屋
(初)
15日 小屋―双六岳―
三保薬師 黒部五郎小
屋(泊)
16日 小屋―黒部五郎
岳―北ノ保岳―太郎平小
屋(泊)
17日 小屋―折立(バ
ス)立山温泉(浴・食後
バス)京都駅(解散20時
頃)
費用 約40000円(バス・
宿泊・入浴代等)
地図 昭文社「槍ヶ岳・穂高
岳・上高地」二級・立山」
係 ◎村田智俊
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員24名
北アルプスの核心部、双六岳・
黒部五郎岳の花のカーネルを歩く。
*中京地区の人はJ.R.一宮駅集合
(24時頃)。雨天決行

北アルプス
新穂高温泉から双六岳・三保薬
師岳・黒部五郎岳(一般向き)
8月13日(休) 17日(日)
前夜発3泊4日(夜行バス1泊)
集合 13日 J.R.京都駅22時
00分
コース 13日 京都駅(バス)
14日 (バス)新穂高
温泉―わさび平小屋―鏡

城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員24名
古く多福寺の約り鐘の山門をく
ぐり、ナンツバキ・シダ巨木林の
なかを一等三角点・天剣点のある
山頂を目指す。山頂からは日本海
を見下ろし、眺望がすばらしい。
雨天中止

若狭の山
久須夜ヶ岳(初級向き)
8月9日(日) 日帰り
集合 小浜市役所9時00分
コース 市役所(車)エンゼルラ
イン頂上―久須夜ヶ岳―
藤岡―エンゼルライ
ン頂上(解散)
費用 交通費各目
地形図 2万5千:鏡輪
係 ◎高島信浩
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

平一弓折岳―双六小屋
(初)
15日 小屋―双六岳―
三保薬師 黒部五郎小
屋(泊)
16日 小屋―黒部五郎
岳―北ノ保岳―太郎平小
屋(泊)
17日 小屋―折立(バ
ス)立山温泉(浴・食後
バス)京都駅(解散20時
頃)
費用 約40000円(バス・
宿泊・入浴代等)
地図 昭文社「槍ヶ岳・穂高
岳・上高地」二級・立山」
係 ◎村田智俊
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員24名
北アルプスの核心部、双六岳・
黒部五郎岳の花のカーネルを歩く。
*中京地区の人はJ.R.一宮駅集合
(24時頃)。雨天決行

金剛山ハイキング⑧
京都西山―太閤道からキロロ千時
(一般向き)

8月22日 日曜日

集合 JR高槻駅中央改札口前
8時10分
コース 高槻駅→野毛橋→金堂寺
→松久の丘分岐→成屋
→山一若山二角点→三川
合点→尾形地→若山神社
→尺代→乙女の滝→キロボ
→チキ→柳谷観音橋→
→奥野田寺(バス)→阪急長
→大塚駅(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 昭文社「北摂・東部西
山」
申込み ①日田智俊
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

自然観察山行254
誠実・熊野白山(中継向き)
8月23日(日) 日曜日 ②のバス
集合 JR大塚駅9時00分
コース 大塚駅(バス)→温見峠→
熊野白山→温見峠(バス)

村田智俊まで
*定員26名
テントで一晩を過ごし、今庄側
から三厨ヶ岳を目指す。テントの
無い人は10名までコテージ泊を受
付ます(コンロ炊事用具あり・2
000円アップ)。*コテージ泊
希望」と明記ください。雨天決行

ファミリハイイク124
(最終回)
北摂・天王山 (初級向き)
8月31日(日) 日曜日
集合 阪急大山崎駅10時00分
JR山崎駅10時10分
コース 大山崎駅→山崎駅→宝積
寺→天王山→十方山→水
無瀬滝→サントリ→山崎
T橋(展望台)→大
山崎駅(解散)

大塚駅(解散)
費用 約4500円(大塚駅か
らバス代等)

地形図 2万5千→熊野白山・冠
山
申込み ②鷺見守康
〒504-0828
各務原市蘇原村南町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名(申込状況に
より減員あり)
温見峠から短時間で登ります。
雨天決行(コース変更あり)

鈴鹿を歩く293
神崎川・ツメカリ谷
(沢歩き・健脚向き)
8月24日(日) 日曜日 ③マイカー
集合 紅葉神社前橋広場8時30
分
コース 広場(車)→神崎川林道奥
広場→神崎川→ツメカリ
谷→スダレの滝→神崎川
→取水口→林道(解散)

費用 交通費各自(遠路対策水
地図 昭文社「副在府・備前・

山行報告
(3・4月号)
新ハイキングクラブ4月号

京都西山
大塚山からポンポン山
(週末ハイキング)
3月1日(日) くもり一時曇り

(集合) 堀谷センター前バス停
30→40→大塚山登山口10→10→15
→大塚山11→25→30→小塚山12
→10→15→森林公園案内所13→05
(解散) 13→55→リョウの丘15
→05→ポンポン山15→45→杉谷16
→05→音無寺バス停16→25(解散)
大塚山に到着後、小塚山への緩
急階段は膝を痛んでの歩きとなる。
小塚山から大塚山を少し南下し
て西方の谷へ入り、かなりの積雪
の中を大原野林公園案内所へく
だる。雪が降り出したので、腰房
が効いた案内所内で少し進め、腰
食をとった。ポンポン山への西ル
トを登り、リョウの丘(大塚山のフ
タツノウ群生地に立寄ったが、
前日の雪で花の斜面が滑り、埋も
れており、わずかに二輪雪の間の

伊吹
◎近野 明 ○山田昌三
◎後藤康幸

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
浮き輪のつてくだります。場
合によっては琵琶川の下流の
沢下りもあり。雨天中止

火籠ハイイク
六甲・土曜野山から打越山
(一般向き)
8月26日(日) 日曜日
集合 東おたふく山登山口バス
停9時50分
コース 登山口バス停→土曜野山
→森林管理歩道→出合
→打越山→八幡谷→向本駅
(解散15時頃)

費用 交通費各自
地図 昭文社「六甲・摩耶・
右衛門」
申込み ③伊谷好司 ○沖 伸
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
それなりの記述はありますが、
流渉も楽しみながら歩きます。

雨天中止

キャンプ場テント山行
越前・鎌倉山と鎌倉山 夜叉ヶ
池から三厨ヶ岳 (中級向き)
8月30日(日) 1泊2日
④のバス
集合 (30日) JR京都駅西本
バスのりば6時00分
コース (30日) 京都駅(バス)
今庄駅→鎌ヶ池→成屋
山→鎌倉山→臥雲寺→登
山口(バス)→3650温泉
(入浴・バス)→リトリ
→たくらキャンプ場(テ
ント・コテージ泊)
(31日) キャンプ場(バ
ス)→夜叉ヶ池→登山口→夜
叉ヶ池→三厨ヶ岳(往
路)→登山口(バス)→京
都駅(解散18時頃)

費用 約9000円(バス・テ
ント場使用・公営代等)
地形図 2万5千→今庄・広野
申込み ④村田智俊 ○安倉正勝
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

から顔を出していた。ポンポン山
からはバス時間との競争の下山と
なり、全日無事にバスに乗車でき
た。
(参加者) 金森節子 伊藤ナナ子
前田初雄 杉本英一 水島真知子
加藤 明 大林 進 船木裕子
加藤邦子 内田昭彦 木下朝子
武田輝邦 夏山幸子 崎山恵子
岩井春子 須藤淳子 久保麻登瑠
山本文雄 堀 良男 今村あゆみ
渡水節枝 加藤佳彦 竹内貴子
岩本彰子 伊藤 直 ○伊谷好司
◎村田智俊 (計27名)

琵琶湖の周辺
鈴鹿を歩く288
3月2日(日) 晴れ
(集合) かもしが丘8:15(車)
清水寺全行程分艇手前8:55→登
山口9:30→P85310→45→清
水の頭12:00→奥ノ畑12:15
(昼食) 元氣軒は朝ごはん13:
50→林道16:05→林道山頂16:40
(解散)

深い雪で清水寺本林道の手前か
ら歩く。急登?時間では原に出る
と、深い雪の量で30分以上の雪底
が続く。ほかほか陽気の白鳥足履
を穿るん気分が清水の頭に登る

と湖水の花々、眺望を楽しみなが
ら奥ノ畑で昼食。元氣軒だけ雨
乞を拝観。下りは観林の屋根から
ヒップスキーで一気には林道に下り
た。
(参加者) 木下朝子 寺井博子
小林 修 多田 健 岩本彰子
永戸鉄治 豊登道路 豊野正一郎
森村守 大島徳郎 野田子
谷 守 北川 隆 北川つねみ
村倉邦夫 針谷博子 佐古田文字
三上伸夫 ○後藤康幸
○山田昌三 ◎近野 明 ○伊谷好司

南野・牛倉山から温見峠
3月2日(日) 晴れ
(集合) 近鉄大和八木駅8:00
(バス) 御出陣トンネル(サニ
ロード)→登山口10:30→林道終点
登り口10:50→11:00→木11:
30→尾根鞍部12:00→牛倉山12:
30(昼食) 13:15→尾見寺13:30
→尾見山14:00→10→伊勢野山頂
15:40→50(バス) 京都駅19:
40(解散)
ヤブツバキを期待して歩いたが
咲いていない。牛倉山から五ヶ所
浦池を臨望し、太平洋も広がって
いる。名古屋から会員水田さんの
グループも山頂で待っておられ話

湖北・七七頭ヶ岳

3月15日(出) くものち晴れ
(集合) J R木下支駅 9・20(車)
上野生登山口 9・50 休山 10・20
休山 10・45 七七頭ヶ岳口 25
(登山) 12・35 休山 12・55 休山
13・20 上野生登山口 13・45
(車) 木下支駅 14・25 (解散)

(参加者) 志木明美 金森節子
岩崎園子 大林 雄 中島 隆
渡藤 幸 渡藤和子 岩本彩子
須藤幸子 岡正男 南 智恵子
磯部 純 鶴田真吉 鶴田美恵子
塚本中次 川戸せつ 後藤樹子
神野孝光 崎山悦子 中尾節子
森本 勝 森本淳子 船本裕子
水谷島子 中谷孝子 松村博子
利田直樹 ◎高尾山(計22名)

琵琶の御池岳の平

3月16日(出) 晴れ
(集合) 御池林道小文倉分岐先広
場 8・30 ノノタノ坂 9・10 十倉

尾根口 00 上野生 11・30 奥の

平 12・00 東のボタンブナ 12・20
(登山) 13・20 奥のドリー 13・
40 上野生登山口 20 御池林道 16・
20 上野生 16・45 (解散)

(参加者) 船津清治 木下勲子
多田 隆 水戸敏治 奥野雅路
柳田勝利 武田千鶴 岡原由幸弘
小林 修 森村 守 野野太一郎
高野野郎 志雄雄 一芝美知子
森本 勝 森本淳子 佐井田文字
西本敏夫 高橋博治 山田明夫
金谷 昭 森野暢子 岩本彩子
◎後藤樹子 ◎山田明夫
◎三野 明 (計29名)

蓮葉山から小女湖ヶ池・権現山

3月20日(出) ◎曇 昼天
(比良を歩く8)

*雨天のため中止しました。

3月20日(出) ◎村田智俊
*雨天のため中止しました。

(参加者) 京阪 飯塚出町駅 8・
45(バス) 北大阪駅 8・57(バス)
静屋城山 9・35 西坂峠道終
点 10・45 南長根取付 11・00 南
尾根横断 11・25 30 天ヶ岳口 11・
55(登山) 12・45 シヤクナゲ尾
根分岐 13・15 高尾線終点 13・30
45 シヤクナゲ尾根末端 49 0
び びク 14・30 45 岩尾谷林道
15・05 小出石 15・30 16・
00(バス) 地下鉄国際会館駅 16・
45(解散)

西坂峠道終点から南長根取付へ

3月26日(出) くものち晴れ
(集合) 京阪 飯塚出町駅 8・
45(バス) 北大阪駅 8・57(バス)

塚本忠次 若林文夫 村上善信

大槻一夫 木下朝子 武野美奈子
入江 勲 青木一雄 磯田トシエ
岡田芳良 今泉 一雄 磯田トシエ
岩本彩子 大角吉三 藤みとえ
本間 隆 本間賢子 中尾日出男
山縣勝美 野村 謙 上野保美
後藤樹子 長尾一合 池 紀雄
加藤園計 利田直樹 中山節子
村井善和 小松崇信 ◎谷 守
◎磯部 純 ◎金谷 昭(計25名)

湖北アルプス・太神山
(平日ふれあいハイキング)
3月27日(出) 晴れ
(集合) J R石山駅 8・15 15 25
(バス) アルプス登山口 9・05 1
迎不動 9・40 迎不動 10・35 太
神山 11・00(登山) 12・05 矢野
山 13・20 35 御台河原 14・30 1
50 アルプス登山口 15・35(解散)

湖北アルプス・太神山

3月27日(出) 晴れ
(集合) J R石山駅 8・15 15 25
(バス) アルプス登山口 9・05 1
迎不動 9・40 迎不動 10・35 太
神山 11・00(登山) 12・05 矢野
山 13・20 35 御台河原 14・30 1
50 アルプス登山口 15・35(解散)

沖 伸谷 守 妹尾一正

3月28日(出) 晴れ
(集合) 近江鉄道市辺駅 8・20 1
万葉の森 8・30 近江園遊園 9・
10 万葉歌碑 9・15 船岡山展望
台 9・20 30 上野生登山口 9・
50 10・00 上野生 10・40 岩戸
山 10・45(登山) 11・30 小島山
三角点 11・50 箕作山 12・10 瓦
屋寺 12・30 40 休屋小屋 13・00
太郎坊山 13・10 40 太郎坊宮
14・00 20 太郎坊宮 14・50
(解散)

(参加者) 志木明美 金森節子
岩崎園子 大林 雄 中島 隆
渡藤 幸 渡藤和子 岩本彩子
須藤幸子 岡正男 南 智恵子
磯部 純 鶴田真吉 鶴田美恵子
塚本中次 川戸せつ 後藤樹子
神野孝光 崎山悦子 中尾節子
森本 勝 森本淳子 船本裕子
水谷島子 中谷孝子 松村博子
利田直樹 ◎高尾山(計22名)

五箇福徳園を一巡り見てから船
岡山へ登ったが、桜はまた咲いて
いなかった。石仏が並ぶ十二仏の
参道を登り、岩倉山で福徳園をまじ
んで参した。箕作山からわらわ
の瓦屋へは、旭元の日針谷静
子さんが登ってこられた案内しても
らった。太郎坊山では岩崎の突如
まで行って大福徳園を満喫した。下
山道ではマンサクが咲いていた。
(参加者) 若林文夫 飯塚由幸子
山岸勝雄 塚本芳雄 磯田トシエ

金森節子 高木忠夫 波多野孝子

4月4日(出) 晴れ
(集合) J R加茂駅 9・15 23 1
山城園分巻上 坂 9・50 10 1
00 前住山寺 10・30 50 林道出
合口 10・30 岩間の道登り口 11・12
1 20 三上山展望台 11・50(登山)
12・45 長寿の道 森林公園 13・
20 30 神子への横断 14・00 1
50 城跡三角点 14・35 45 沖重
寺 15・10 20 十輪寺 16・00 1 湖
出口神社 16・05 15 横倉駅 16・
20(解散)

この桜並木にて花見で打ち上げを
した。
(参加者) 藤野節子 宮路ちへ子
中島 隆 山岸勝雄 村上善信
若林文夫 飯田 高 飯塚由幸子
若林美奈子 今泉 一雄 武野美奈子
金谷 昭 塚本孝子 中上高代子
飯塚 栄 岩佐 修 久保園遊園
木内範文 小石節子 波多野孝子
小倉節子 堀内福智 村田はる江
松本忠雄 磯部 純
◎川上友繁 ◎村田智俊(計25名)

五箇福徳園を一巡り見てから船
岡山へ登ったが、桜はまた咲いて
いなかった。石仏が並ぶ十二仏の
参道を登り、岩倉山で福徳園をまじ
んで参した。箕作山からわらわ
の瓦屋へは、旭元の日針谷静
子さんが登ってこられた案内しても
らった。太郎坊山では岩崎の突如
まで行って大福徳園を満喫した。下
山道ではマンサクが咲いていた。
(参加者) 若林文夫 飯塚由幸子
山岸勝雄 塚本芳雄 磯田トシエ

紀原・雲山峠から雄石山

4月5日(出) 晴れ
(集合) J R山中駅 9・40 1 第
一バノラ台 10・10 25 四ノ谷
山 10・40 雲山峠 11・50 青少年
の森 12・30(登山) 13・15 1 井関
峠 13・40 1 滝法ヶ岳 14・00 1 05 1
大福山 14・15 20 雄石山 14・30
1 40 1 大福山 14・50 1 5 05 1 奥
辺峠 15・30 1 6 大谷駅 16・30(解
散)

この桜並木にて花見で打ち上げを
した。
(参加者) 藤野節子 宮路ちへ子
中島 隆 山岸勝雄 村上善信
若林文夫 飯田 高 飯塚由幸子
若林美奈子 今泉 一雄 武野美奈子
金谷 昭 塚本孝子 中上高代子
飯塚 栄 岩佐 修 久保園遊園
木内範文 小石節子 波多野孝子
小倉節子 堀内福智 村田はる江
松本忠雄 磯部 純
◎川上友繁 ◎村田智俊(計25名)

この桜並木にて花見で打ち上げを
した。
(参加者) 藤野節子 宮路ちへ子
中島 隆 山岸勝雄 村上善信
若林文夫 飯田 高 飯塚由幸子
若林美奈子 今泉 一雄 武野美奈子
金谷 昭 塚本孝子 中上高代子
飯塚 栄 岩佐 修 久保園遊園
木内範文 小石節子 波多野孝子
小倉節子 堀内福智 村田はる江
松本忠雄 磯部 純
◎川上友繁 ◎村田智俊(計25名)

高尾・子ノ泊山と高尾山

4月6日(出) 6日(出) 1泊2日
(6日) 晴れ (集合) 委名駅 8・
35(車) 浅里登山口 10・50 11・
00 1 岩壁ノ滝 11・45 1 ヤケ湯の頭
12・15(登山) 12・40 子ノ泊山
13・10 20 尾根道分岐 13・45 1
藤下新登山口 14・20 浅里登山口
15・20 1 45(車) 尾鷲尾宿 17・30
(車)

この桜並木にて花見で打ち上げを
した。
(参加者) 藤野節子 宮路ちへ子
中島 隆 山岸勝雄 村上善信
若林文夫 飯田 高 飯塚由幸子
若林美奈子 今泉 一雄 武野美奈子
金谷 昭 塚本孝子 中上高代子
飯塚 栄 岩佐 修 久保園遊園
木内範文 小石節子 波多野孝子
小倉節子 堀内福智 村田はる江
松本忠雄 磯部 純
◎川上友繁 ◎村田智俊(計25名)

この桜並木にて花見で打ち上げを
した。
(参加者) 藤野節子 宮路ちへ子
中島 隆 山岸勝雄 村上善信
若林文夫 飯田 高 飯塚由幸子
若林美奈子 今泉 一雄 武野美奈子
金谷 昭 塚本孝子 中上高代子
飯塚 栄 岩佐 修 久保園遊園
木内範文 小石節子 波多野孝子
小倉節子 堀内福智 村田はる江
松本忠雄 磯部 純
◎川上友繁 ◎村田智俊(計25名)

山は少なかつた。両山とも遊跡は薄く、とくに高野山の小笠野コースはマニア向けの健脚コースだった。

(参加者) 沖 伸 朝倉裕紀
荻野陽子 藤嶋健児 廣瀬恵美子
高尾裕彦 島田信吾 長坂佐知子
◎山田明男 (計9名)

北沢・明ヶ田尾山

(地図参照) 山行86

4月6日(日) 晴れ
(集合) 地下鉄千代田線中央駅バス停
9・10・20(バス) 藤原寺10・05
15(勝尾寺) 10・20 25(東海自然歩道) 10・15 北瀬公園
11・45(昼食) 12・35(高山) 15
05(鉢伏山分岐) 13・25 30(明ヶ田尾山) 13・40 50(高山) 14・15
高山口バス停 14・58 15・07(バス) 飯沼池田駅 15・40(解散)

橋本広子 ○中村 登
◎松元一彦 (計11名)
花の露宿山西南尾根
(鈴鹿を歩く) 863
4月6日(日) 晴れ
(集合) 甲申倉敷り口広場 8・00
(車) あげん原 8・25(行者の森)
9・30(笹坪) 10・25(近江原) 10・30
12・50(小笠野山) 13・50(鉢伏山) 14・00
15(見附台) 15・30(汗ふき峠) 16・00
16(夜合) 16・40(集合広場) 17・05(解散)

若本彰子 白木良弘 白木やま子
多田 謙 大西慎郎 佐古田文字
北村 誠 一之丞雄 一之丞美知子
針谷邦夫 針谷静子 櫻田勝利
◎藤原健幸 ○山田原三
◎岩野 明 (計29名)
北沢丹波・野十郎ヶ嶽
4月6日(日) 晴れ
(集合) J.R.京都駅 7・40(バス)
櫻川西光寺 9・10 25(東野ヶ原)
キャンプ場 9・35 炊飯所 10・00
10(湖) 10・40 50(野十郎ヶ嶽)
11・05 20(白雲峯) 11・45
(昼食) 12・30(みなの沢) 13
40(大山) 13・05 20(藤原)
13・45(バス) 奥野文雄の郷 14
05(入浴) 15・00(バス) 京都駅
17・10(解散)

野野原彦 渡部和英 岩嶋健司
宮野信雄 宮野陽子 山高多恵子
繁田弘美 仲谷信司 猪俣美穂子
三野 旭 木村朝雄 伊東ナナ子
芳沢俊夫 藤野正男 安田文彦 江
小山誠次 谷口野子 小森大直
志木明美 大槻一夫 松上美代子
若林文夫 今村克美 ○風比裕美
◎安斎正勝 ◎村田智俊 針形彩子
京福西山
北松尾山から保津川旧船場跡
4月10日(日) ◎山中 明
*雨天のため中止しました。
三重・高杉山
4月10日(日) ◎西上利和
*雨天のため中止しました。
丹波・向山連山
(ファミリーハイイク1-18)
4月17日(日) ◎木村太郎
*雨天のため中止しました。

マイカー・自転車を利用しての古光山から曾爾高原の縦走。登り坂のサイクリングと古光山は急登の連続だったが、雑木は芽吹き足元にはスマイルが咲き、やさしい春風が暖かさを運んでくれた。(参加者) 池田 茂 船本裕巳子 尾尾一介 光川邦史 光川二美子 ◎山口敏明 (計6名)

(参加者) 栗橋吉吉 栗橋君子
中川光郎 松村雅子 藤本紀子
和田純子 前田初穂 武部美恵子
狩野東彦 上田裕子 水島真砂子
島田 廣 岩嶋健司 水島加津栄
多田 徳 岩比裕美 竹内加津子
川田洋子 宮野信治 宮野純子
福原謙治 山口光代 二野 旭
◎藤原貞美 (計24名)

見 上の真横断では脛擦きがあり多く拾った人も、瓶心の湯でゆっくりして帰った。
(参加者) 岩川章子 野末あや子
永尾洋子 関野知子 佐々木樹子
高橋静治 井上恵子 多賀久子
小池一郎 岩佐 修 岩田哲士
向井克巳 小谷和子 進藤 幸
東村山英 藤岡克子 市岡晴美
小尾末吉 高木忠夫 都築由美子
林 信男 高村信夫 伊東ナナ子
沖 伸 福岡 章 ○安斎正勝
◎村田智俊 (計27名)

いたのは残念だった。
(参加者) 平田輝美 妹尾一正
川上久登 若林文夫 竹田登英
奥谷 昭 泉 勲 松上美代子
園田豊 狩野東彦 小川真志雄
木村 豊 長沢裕美 大園加代子
藤部和英 荻野陽子 野末あや子
後藤純子 杉本英一 佐々木孝子
木下朝子 岩本彰子 金藤節子
塚本忠次 山崎勝美 大東 哲
藤部和英 山崎美 宮崎紀正
堀 良方 入江 勲 飯田トシエ
◎青木一雄 ○船本裕巳子
◎沖 伸 ◎仲谷信司 (計30名)

4月13日(日) 晴れ
(集合) J.R.京都駅 7・20 30(バス) コグルミ谷登山口 9・20
30(タテ谷分岐) 9・47(休庵) 10・07 15(五合目) 10・24(六合目)
(カタクリ峠) 10・37 47(七合目) 10・57(八合目) 10・07(ホタン)
ブチ 11・50(昼食) 12・45(御池)
12・58 13・03(鉢伏山) 13・36
14・15(笹坪) トネル東口 15・05
23(バス) 京都駅 17・25(解散)

4月13日(日) くもり
(集合) 近鉄橋原駅 8・10(バス)
神木上村 9・00 20(コスマ林) 10
終点 9・40 50(小須磨) 10・20
30(東山) (P942) 11・05
10(一の洞) 11・30(昼食) 12・
30(林道終点) 13・00 10(林道出)
合) 13・25(杉平) 13・35(三多気の)
塚まつり会場) 14・00(散策) 15・
00(バス) 姫石の湯) 15・10(入浴)
16・00(バス) 橋原駅) 16・40(解散)

4月15日(日) 晴れ
(集合) J.R.京都駅 8・00(バス)
湖谷口 9・15 20(伐採地) 9・40
50(邊谷ヶ岳) 10・35 45(伐採
地) 11・25(豊能キャンプ場) 11・45
(昼食) 12・40(陣馬山) 14・00
20(牧登山口) 14・50 15・00(牧
15・10(バス) 京都駅) 16・30(解散)

4月19日(日) くもりのち晴れ
(集合) J.R.大垣駅 9・00(バス)
国府津 10・20 25(親助) 11・25
50(御見折山) 55(大茶山) 12・
35(昼食) 13・00(御座) 13・25
35(一帯) 14・55 15・10(勝馬
ヶ原) 15・15(笹又) 16・10 25(バス)
池田温泉) 17・10(入浴) 17・

50 (バス) 大垣駅 16・20 (解散)
国見岳へのイワウチワにはまだ
蕾もあり、北尾根の春の花期には
早過ぎたようだ。この時期にはア
マナの群生が見られるものの、カ
タクリの群生ははびこり、そりと静ま
り返っていた。手前外に笹又への
下り斜面にはニリンソウが結球を
つくっていたが、北尾根の春はこ
れから始まる。

(参加者) 小田妙子 飯田三恵子
藤田吉子 栗橋君子 池田美恵子
小林 桂 杉本 高 荻野美紀
竹田美英 平田輝美 香 キヤウ
松尾隆生 松尾 昭 佐々木幸子
滝本由美子 中津路司博
森 美香子 渡辺かこ
水谷陽子 ○鳥居信吾
◎鷺沼守康 (計21名)

湖北の山・吉波山
4月19日(日) くもり
(集合) 中河内池原9・00(車)
ベルクスキー場入り口9・10―第三
鉄塔9・55―電波中継所10・15―
第八鉄塔10・20―吉波山11・20
(集合) 13・25―第八鉄塔13・05
―電波中継所13・25―鳥居山山
口14・15―ベルクスキー場入り口14・
40 (解散)

第八鉄塔までの遊歩道は桜々コー
ス。そこから頂上までは散々ぶら
頂上ではすばらしい景色が待って
いた。高時川渓流の大きな谷間、
上谷山などを前にして美しい紅葉
タイムをとった。

(参加者) 園近正男 木下朝子
藤田 純 森本 勝 森本浩子
荻野君子 加藤潤子 武藤由香子
谷 守 榎方由子 船木裕子
岩本彩子 神野孝允 石原君子
小幡立人 ○鳥居信吾 (計16名)
大峰遊歩道①
◎鷺沼から百目岳・吉野へ
◎吉野から五番岳へ
(記)伊山地の参遊道を歩く(17)
4月19日(日) 1泊2日
(19日) くもり (集合) 近鉄下
市口駅9・10(20) (タクシー) 兼
飯谷川遊歩入り口10・10―30―尾根
道合流10・52(11)―00―地蔵峠11・
10―巖間寺11・30―百目岳12・10
(集合) 13・15―西行庵14・00―
15―金峯神社14・30―45―高城山
展望所15・05―20―寺前展望台15・
40―50―民宿「太鼓丸」16・05
(19日)
(20日) 晴れ 鳥居信吾 木下朝子
45 (バス) 奥十本口8・00―金峯

神社8・10―20―曹担ヶ峯8・40
―45―新吾院分岐10・20―25―
四寸岩山10・35―50―林内山頂11・
30 (集合) 13・15―百目岳13・15
―50―13・00―大天井ヶ岳14・15―
45―五番関女人橋15・25―35―
五番関トンネル西口15・50 (タク
シー) 大和上市駅16・30 (解散)
初日、要飯谷から地蔵の林道を
つめ、幾近古い古道から地蔵峠へ
の遊歩道にのった。地蔵峠、黒瀬
寺、百目岳、西行庵、金峯神社へ
と歩き、高城山展望所からは吉野
上平本の桜を満喫した。2日目は
曹担ヶ峯、四寸岩山、大天井ヶ岳
へと大峰遊歩道をたどった。思っ
たより美しいコースで早く着いたの
で、大天井ヶ岳でコーヒータイム
の大休養し、五番関へくだった。
(参加者) 岩村君子 村田はる江
馬場勇男 高木忠実 武部美恵子
宮野君子 宮野君子 野末あや子
高橋純治 岡崎知子 伊東ナナ子
川田洋子 小栗大直 小川富子
加藤浩一 堀野武敏 佐々木輝子
小松志信 藤井 睦 宮路ちへ子
有桑 登 黒田昌子 榎村美穂子
久保田治子 北村つね子
河原美代子 ○鳥居信吾
◎村田智俊

(19日のち) 兼用広美 竹内正子
黒田則夫 水野健子 (計32名)
石阿利山から鳥居山
(19日) 曇り
(集合) JR近江高島駅9・00
(バス) 鹿ヶ瀬9・21―40―寺前
寺前9・45―林道入り口10・00―
05―編川越10・32―40―岩阿利
山10・58―11・12―八王子山、21
―鳥居峠分岐11・52―関幡分岐
11・56 (集合) 13・30―林道13・
54―あぐわ峠13・18―25―鳥羽山
(鳥羽山) 13・30―38―打下城跡
分岐13・40―十字路13・50―トラ
パス道分岐14・01―遊歩道分岐
14・30―山太谷遊歩14・43―55―
JR近江高島駅15・10 (解散)
見物見物上りのミニパツツシはま
だ蕾が多かったが、くだるにつれ
満開に近くなり、山頂ではイワカ
ガミも咲き始めていた。気象も時々
で、ゆっくりペースの快適な被褥
歩きを楽しんでいた。

(参加者) 岩村朝子 谷内徳典美
岩田君子 山崎陽美 藤元明志
上田哲子 前田栄三 竹内寛久子
藤本紀子 中嶋君子 水見真砂子
松井晴恵 妹尾公代 中嶋日出男

多田 徳 若林文夫 竹田善英
藤田和英 岩崎君子 土倉由希子
長沢佑美 平田輝英 村田はる江
荻野美恵 今泉 勲 小川富子
金原美穂 小栗大直 村上美代子
塚本史次 木村 豊 野末あや子
川上光雄 志水明美 陸正一
中川久徳 沖 裕子 岡本朝子
林 弘毅 矢谷君子 川戸せつ
和泉正一 小林 桂 岩本彩子
下野正年 西田徳治 山崎由希子
藤田君子 和田由希 那由由美子
藤近ひと 中津路子 藤田トシエ
木下朝子 高島伸浩 荻野君子
岡近正男 加藤潤子 吉田邦夫
石原君子 岩野 明 ○谷 守
◎金谷 昭 (計24名)

◎兼 東大 (計15名)

4月20日(日) 晴れ
①ミズナシ・大庭 (輪車を歩く2884)
(集合) 村東院神橋8・20(車)
片倉(車) 園道421号橋登山山
口9・00―ミズナシ9・30―P72
39・55―茶臼川片倉山11・10(車)
園道421号橋本谷取付点11・40
(集合) 12・25―白分峠13・10―
白分谷遊歩カレド(往復) 13・40―
大庭長湯14・00―塔場分岐14・30
―赤尾川林道15・25―片倉16・00
(解散)
今回のコースはかなりハードな
のでコースを急ぎ、車を使用し空
身で山行した。茶臼川の片倉に車
を置き、ミズナシを往復し、車で
白分峠取付に移動して昼食。大庭
の遊歩道から茶臼川林道に下りた。
冬枯れの緑には、タムシバ・ヤ
ブツバキ・ミニパツツシなど、早
春の花々が咲き身軽な山行で楽し
く歩いた。なご、水鏡寺のイチリ
ンソウにも感動した。
(参加者) 武村千鶴 木下朝子
森本 勝 森本浩子 多田 徳
貴登隆治 高原芳彦 黒野太一郎
水谷鉄治 稲津謙治 市井ユリエ

◎兼 小栗 (計16名)

4月23日(日) 晴れのちくもり
(集合) JR長良駅7・40(バス)
上野山10・02―07―小栗尾根と主
線分岐11・13―18―小栗山11・30
―40―小栗尾根分岐11・49―核谷
山(800m) 12・20―遊歩道13・
10―木崎山13・25―30―支路分
岐13・53―上根来14・50―15・
10(バス) 京都駅17・50 (解散)
園遊遊歩道の上根来から小栗尾根
に取り付くと下生えの無い落ち葉
カーペットの遊歩道歩き。主線跡に
出る頃、新緑の始まったすばらし
いブナ林となった。多く見つけた
タムシバは咲き始めていた。地形
図に山名記載のない825分岐は、
鞍谷山と山名板が付けられていた。
木崎山峠からの旧峠は歩いてい
はとんど無く、旧峠かけている。
(参加者) 藤田則夫 栗橋君子
松村補子 白田君子 河内正治

◎兼 舟伏山 (百太郎登山974)

4月26日(日) 雨
(集合) JR大垣駅9・00(バス)
あいの森駐車場10・55―11・05―
さくら峠11・45―55―あいの森12・
00―10―舟伏山13・05 (集合) 13・
40―小舟伏―谷合15・00―10―
あいの森駐車場13・15―25(バス)
大野温泉17・00(入浴) 17・40
(バス) 大垣駅18・10 (解散)
天候は曇りから雨が降り、やが
て本降りの雨となった。舟伏山の
花の季節は5月の権柄で、スプリ
ングエフェメラたちは花開きを終
え、スミレ類はチチンボスミレの
最盛期だった。
(参加者) 石井開雄 市岡晴美
伊藤和代 岩崎健司 上田哲子
岡田君子 小田妙子 後藤健幸
杉本 高 長尾一令 藤本 彰
黒田輝子 松尾隆生 松尾重理子

経て黒井駅まで歩く。
(参加者) 久野 聡 山崎陽美
入江 勲 富田君子 金谷 昭
上庄忠雄 栗西孝子 大園加代子
岩本和英 山根和英 川上久美
藤田和英 森田君子 木村 豊
◎飯上義次 (計15名)

水谷孝子、文部省初子、○伊藤直
の賢い母様 (計16名)

京都北山、天ヶ森から天ヶ森
(平日ふれあいハイキング)
4月26日(日) 晴れ

【集合】京東・都立山形駅7・
45(バス) 小出7・30(天ヶ森)
10・30(30) 10月11・25(天ヶ森)
総務部望台10・15(定員) 13・20
1・シヤクナゲ尾根分岐14・00(小
出右16・10(総務部))

新緑の風景は優しくて心ふくら
む。ミツバツツジが花盛り、シヤ
クナゲが多いが花がまばら。しか
しちょうど見頃で満足した。百井
町山形村の近くに浄水場が出来て
いる。

【参加者】山形県 木下切子
藤田 廣 堀 良乃 加藤幸二
藤田安弘 岩佐 敏 藤葉山英子
若木孝子 川上久美 野木あや子
若次佐美 村上久美 野木あや子
細野広美 林正二 吉野孝子
和田田樹 ◎寺井恒夫(計19名)

丹波・鳥ヶ森から鬼ヶ城
4月26日(日) 晴れ
【集合】JR京都駅7・40(バス)
田内登山口9・50(10・00) 小伏

7時10・35(鳥ヶ森) 11・15(15) 鬼
ヶ城13・00(鬼ヶ城) 12・50(15) 鬼
ヶ城山頂展望台・30(14・00) (バス)
福知山遊歩道の湯川・30(15) 湯
川・00(バス) 京都駅16・00(総
務部)

遊歩道近くの山は見えなかった
が「山共に3000度の風洞」先々
城山頂は日差しが強いので下のペ
ンチ広場で昼にして。古刹龍王寺
では、中山氏の口添えで住僧(女
性)から話を聞き案内が豊かであ
った。江戸時代で全尊十一面観音菩
薩像は鎌倉時代のもの。三十三年
布に囲まれるとのこと。「土門
の(下)・阿保家の二株もバスから
見れ、名所福知山遊歩道でゆっくり
汗を流して帰った。

【参加者】白田出子 徳宗良彦
影野洋治 岡崎知子 全藤智子
藤野孝子 上田裕子 西田美奈子
若野由美 若林文夫 坂本英和史
宮野野子 岩崎 甲 久保田裕子
高田広美 若木孝子 伊々木樹子
高木正夫 竹内正子 伊東ナナ子
小山次次 辻中 真 渡辺美香江
藤田和代 藤野孝幸 藤田百合江
中山元郎 沖 伸 藤 美智子
藤田裕博 野野島 藤 美智子
木村裕恵 小林 修 ◎宮野裕郎

○鬼ヶ城表 ◎河田智美(寺村の
自費・池木登山から馬ノ嶺
(テント泊山)
5月3日(日) 5日(日) 2泊3日

【集合】近鉄大和
上野駅10・30(40(タラシ)) 北
段川林道遊歩道手前13・30(14時
尾カクタ谷遊歩道13・00(尾カク
初一林道遊歩道14・00(尾カク谷地
止14・10(テント泊))
(4日) 晴れ) テント場8・10(一
千車庫10・00(15) 草履10・15(一
30) 小滝池11・10(豆蔵12・10
池水原山12・20(30) オウキガ
峠12・55(13・10) 峠本谷遊歩道
場14・50(テント泊)
(5日) くもり) テント場7・45
一赤次草峠8・45(9・00) 遊歩
道テント場10・30(11時) 遊歩道
45(草履) 12・30(カクシ平下降
13・00(カクシ平) 30(カク
シ平登山口) 明神台14・40(150
(タラシ)) 西尾中住遊歩道16・00
(テント泊)

新緑のブナ・ミモシヤウ林の台
遊歩道はすばらしい。点々とア
ケボノツツジ・ミツバツツジが満
開で迎えてくれ、シヤクナゲも咲
きかけている。二つのテント場は

水場にも近く、早く到着したので
馬ノ嶺遊歩道のやせ尾ははやや大崩
だが、昨年(馬ノ嶺)より大崩・崩
壊の「に比べる」遊歩道コースだ
た。北段川林道遊歩道(なかと千車庫)
突き上げも本コースはもと利用
されること。池水原山からオウ
キガ峠を越えての日帰り登山とし
て行動のため。

【参加者】田内 敏 佐々木樹子
藤野孝幸 大石直幸 藤野孝一 藤
野孝子 水田正江 藤田正子
山田せつ 宮野孝郎 野津清治
木下切子 多賀田二 藤野太一 眞
高野洋治 ◎河田智美(計16名)
(3・4月の参加 延948名)

【リーダー情報】
●夏期の例会は休止します。
●「遊歩道」(計16名) ◎遊歩道
「平日ふれあいハイキング」 ◎遊歩道
「北山ふれあいハイキング」 ◎遊歩道
●リーダーを辞退しました。 ◎田中明
●休みの都合で「ファミリーハイ
キング」はこの8月例会で最終回とし
ます。 ◎木村

入会案内

当会主催の「新ハイキング関西
の山」(毎月1回・年6回開催)の
定期遊歩道を中心としたハイキン
グの集いです。山の知識を深め、
健康な身体をつくり、自然のなか
を歩く喜びをともに広げましょう。
【新ハイキングクラブ】は昭和
25年遊歩道以来、関東を中心に57年
間余、好評のうちに活動していま
す。関西は平成3年秋発足して1年
目に入りますが、すでに数千名の
会員が活動しています。
会費は当会のイベントに優先し
て参加できます。多くの仲間と
ハイキングを楽しみましょう。
会費には「新ハイキング関西の
山」(を冊子)が添付します。
【リーダー】はすべて協賛の
専任で、各自で切符を買って旅代を
払い、宿泊もすべてフリーカンで
す。会員が例年に参加されること
は、山口遊歩道として4000円を
支出していただきます。
四季の自然に触れながらの山歩
きから、ウォーキングまで、若々
しい心と健康をいっまでも持続す
るのにはすばらしいことです。これ

から始めてみたい方、すでにベテ
ランの方もみなさんご入会いた
けます。
入会費 5000円(ラッパン共
年費費 3300円(会費別))
入会の申し込み(期別)は、こ
の雑誌に挿入の振替用紙を「利用
ください。期別からの送金書を
忘れずに記入ください。
なお、定期遊歩道を「茶室」される
方も会員になっていただきますと、
前分滞来にお手元にお届けします。
右友達の住所・氏名をハガキで
紹介くだされば、「新ハイキング
関西の山」最新号を専任専任として
無料で送ります。
○山行係(リーダー) 専任
係は2・月に1回、1回遊歩道の山
行例会を企画・実施していただき
ます。
毎週の専任ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方、やっつけたいと思う方は、
「新ハイキング関西の山」最新号
ください。「新ハイキングリーダー
必須」を「専任」にお送りします。
○新入会員(金額標準) 紹介
新しいお休みのみなさんです。
会費別(年会費) 専任専任から5000円
まで(2段階あり)。
【一重】 豊田孝子
【二重】 鈴木孝子 左近藤一朗
小石裕子 堀 秀明
加藤俊彦 佐々木美夫
【三重】 藤野孝子 藤田安弘
【四重】 川上裕子 和田裕治
【五重】 渡辺孝幸 松野孝幸
向 裕子 (17名)
【訂正とお詫び】 上巻の専任専任
○08巻(専任)
*53ページ中「遊歩道」から「山行日」
*54ページ「山行日」から「山行日」
*55ページ「山行日」から「山行日」
*56ページ「山行日」から「山行日」
*57ページ「山行日」から「山行日」
*58ページ「山行日」から「山行日」
*59ページ「山行日」から「山行日」
*60ページ「山行日」から「山行日」
*61ページ「山行日」から「山行日」
*62ページ「山行日」から「山行日」
*63ページ「山行日」から「山行日」
*64ページ「山行日」から「山行日」
*65ページ「山行日」から「山行日」
*66ページ「山行日」から「山行日」
*67ページ「山行日」から「山行日」
*68ページ「山行日」から「山行日」
*69ページ「山行日」から「山行日」
*70ページ「山行日」から「山行日」
*71ページ「山行日」から「山行日」
*72ページ「山行日」から「山行日」
*73ページ「山行日」から「山行日」
*74ページ「山行日」から「山行日」
*75ページ「山行日」から「山行日」
*76ページ「山行日」から「山行日」
*77ページ「山行日」から「山行日」
*78ページ「山行日」から「山行日」
*79ページ「山行日」から「山行日」
*80ページ「山行日」から「山行日」
*81ページ「山行日」から「山行日」
*82ページ「山行日」から「山行日」
*83ページ「山行日」から「山行日」
*84ページ「山行日」から「山行日」
*85ページ「山行日」から「山行日」
*86ページ「山行日」から「山行日」
*87ページ「山行日」から「山行日」
*88ページ「山行日」から「山行日」
*89ページ「山行日」から「山行日」
*90ページ「山行日」から「山行日」
*91ページ「山行日」から「山行日」
*92ページ「山行日」から「山行日」
*93ページ「山行日」から「山行日」
*94ページ「山行日」から「山行日」
*95ページ「山行日」から「山行日」
*96ページ「山行日」から「山行日」
*97ページ「山行日」から「山行日」
*98ページ「山行日」から「山行日」
*99ページ「山行日」から「山行日」
*100ページ「山行日」から「山行日」